

運ヒ清ノ上衣ポケット内ニアリタル所持金七百圓餘ヲ奪取シタル上死體ヲ同所ノ土中ニ埋藏シ之ヲ遺棄シタルモノナ
リ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中強盜殺人ノ點ハ刑法第二百四十條後段ニ死體遺棄ノ點ハ同法第九十條ニ該當スル
トコロ強盜殺人ニ付テハ同條所定ノ死刑ヲ選擇シ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十六條第一
項ニ則リ被告人ヲ死刑ニ處シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ニ負擔セシムヘキモノト
ス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人野崎三郎上告趣意書第一點(第一)原審判決理由ヲ閱ミスルニ「……更ニ其ノ犯跡ヲ蔽ハシカ
爲……死體ヲ同所ノ土地ニ埋藏シ之ヲ遺棄シタリ」トアルモ被告人ハ右判決理由ニ云フカ如ク被害者
ノ死體ヲ地表ニ曝露ノ儘放置シタルニハ非スシテ其ノ犯跡ヲ蔽ハントスル目的ヲモ有シタルト否トヲ
問ハス苟クモ之ヲ土中ニ埋メ他日正式ノ埋葬ヲナシ得ラレサルニアラサル假埋葬ノ状態ニ置キタルモ
ノナレハ之ヲ以テ死體遺棄ノ罪ニ問擬シタル原判決ハ刑法第九十條ノ解釋ヲ誤リタルモノトス加之
假ニ被告人ノ右所爲ハ死體遺棄ノ罪ニ該當ストスルモ該犯行ト殺人罪トハ手段結果ノ關係ニアル牽連
犯ナルヲ以テ之ヲ獨立ノ一罪トナシ併合罪ニ關スル刑法第四十五條ヲ適用シタルハ其ノ理由ニ不備ア
ルモノトスト云フニ在リ

【要旨第一】

【要旨第二】

然レトモ死體遺棄ノ罪ハ埋葬ニ關スル良俗ヲ保持スルヲ以テ法益ト爲スモノナレハ殺人罪ヲ犯シタル
者其ノ罪跡ヲ掩蔽セムカ爲死體ヲ他ノ場所ニ運搬シ密ニ之ヲ土中ニ埋藏スルカ如キハ埋葬ニ關スル善
良ナル風俗ヲ破壊シ道義上許容スヘカラサル所ニシテ刑法第九十條ニ所謂死體ヲ遺棄シタルモノト
云ハサルヘカラス又死體遺棄ノ行爲ハ常ニ必スシモ殺人行爲ニ伴フモノニ非サルカ故ニ殺人行爲ト死
體遺棄ノ行爲トハ刑法第五十四條ノ牽連犯ヲ構成スヘキモノニ非ス然レハ原判決カ判示ノ如ク強盜殺
人ノ事實竝ニ該犯行後更ニ犯跡掩蔽ノ爲其ノ死體ヲ附近ノ山澤ニ運ヒ土中ニ埋藏シタル事實ヲ認定シ
之ヲ強盜殺人及死體遺棄ノ併合罪ニ問擬シタルハ正當ニシテ毫モ所論ノ如キ擬律錯誤又ハ理由不備ノ
違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與次郎關與

○收賄被告事件(昭和十年(九)第一五〇二號 棄却)

(同十二年一月三十日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 長門茂助 辯護人 西井榮次郎

外四名

【第一審】 秋田區裁判所 【第二審】 秋田地方裁判所

○判示事項

市農會議員ト公務員

○判決要旨

農會ハ公法人ニシテ市農會議員力同會ノ役員ヲ選任スヘキ職務ハ公務員トシテノ職務ナリ

【参照】 刑法第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニテ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

農會法第二條 農會ハ法人トス

同法第十七條 農會ニ總會ヲ置ク

農會ハ町村農會及市農會ニアリテハ會長、副會長及會員其ノ他ノ農會ニアリテハ會長、副會長議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

(以下省略)

同法第二十條 左ニ掲クル事項ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ

(中略)

七 役員議員及豫備議員ノ選任及解任

同法第二十六條 町村農會及市農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ總會ヲ置キ總會ニ代

フルコトヲ得

總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ選舉シタル總代ヲ以テ之ヲ組織ス

總會ニ關スル規定ハ總會ニ付之ヲ準用ス

同法第二十七條 農會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一人

副會長 一人

評議員 數人

役員ハ町村農會及市農會ニ在リテハ會員中ヨリ其他ノ農會ニ在リテハ議員及特別議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ會長及副會長ハ其ノ他ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ケス

前項但書ノ規定ニ依ル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セ

市農會議員ト公務員

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人長門茂助 同高橋徳治 同杉山久治 同杉山久太郎 同大島重藏ヲ各懲役一月ニ處ス但シ本裁判確定ノ日ヨリ各三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス被告人長門茂助 同高橋徳治 同杉山久治 同杉山久太郎ヨリ各金二十圓四十錢ヲ被告人大島重藏ヨリ金三十一圓二十七錢ヲ追徴ス訴訟費用ハ被告人大島重藏ヲ除ク其ノ餘ノ被告人等ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ孰レモ秋田市農會議員ニシテ同會ノ會長副會長其ノ他ノ役員ノ選任ヲ爲スヘキ職務アルモノナルカ民政黨派ニ屬シ昭和十年五月七日施行セラルヘキ同會ノ臨時總代會ニ於テハ同派ヨリ右役員ヲ選出スヘキ意圖ヲ有シ居リタルトコロ右總代會前ニ於テ反對黨派タル政友系ノ小川善治等ヨリ被告人等引拔等ノ爲ニスル策動ニ惱ミ居リタル矢先キ被告人等ト黨派ヲ同シクスル野口周次郎 金政吉兩名ハ右事情ヲ知悉スルヤ右被告人等ヲ一時縣外ニ旅行セシメ其ノ間ノ費用全部ヲ支出シテ饗應シ以テ被告人等ヲシテ右總代會ニ於テ民政黨ヨリ役員ヲ選出セシムヘキ趣旨ノ下ニ山形縣西田川郡湯田川温泉ヘ旅行スヘキ旨勸誘ヲ爲シタルヨリ右被告人等ハ孰レモ右趣旨ヲ諒シタル上

一 被告人長門茂助同高橋徳次同杉山久治同杉山久太郎ハ金政吉ヨリ昭和十年五月四日夜ヨリ同五日迄秋田縣南秋田郡土崎港町料理店大正亭支店及秋田市南鐵砲町料理店松屋ニ於テ一人當リ金十三圓三十三錢相當ノ酒食ノ饗應ヲ受ケ

二 被告人全員ハ昭和十年五月三日以降同月六日迄ノ間ニ於テ山形縣西田川郡湯田川温泉御殿旅館ニ於テ右野口周次郎及金政吉ノ兩名ヨリ宿泊料酒食費等トシテ被告人重藏ハ金三十一圓二十七錢相當被告人長門茂助 同高橋徳治 同

杉山久治同杉山久太郎ハ各金七圓七錢相當ノ饗應ヲ受ケ

以テ夫々其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノニシテ被告人重藏ヲ除ク其ノ餘ノ被告人等ノ右第一第二ノ收賄ノ行爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ被告人長門茂助同高橋徳治同杉山久治同杉山久太郎ノ各判示所爲ハ刑法第九十七條第一項第五十五條第六十條ニ被告人大島重藏ノ判示所爲ハ同法第九十七條第一項第六十條ニ該當スルヲ以テ各其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人等ヲ各懲役一月ニ處スヘキ犯情刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ從ヒ本裁判確定ノ日ヨリ各三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ各被告人カ收受シタル賄賂ハ全部之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ刑法第九十七條第二項ヲ適用シ主文第三項掲記ノ如ク其ノ價額ノ追徴ヲ爲スヘキ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第二百三十八條ニ則リ主文第四項掲記ノ如ク負擔セシムヘキモノトス

○主文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理由

各被告人辯護人酒井榮次郎上告趣意書第三、原判決理由ニ被告人等ハ秋田市農會議員ニシテ同會ノ會長副會長其ノ他ノ役員ノ選任ヲ爲スヘキ職務アルモノナルカ云々ト判示シタルノミニシテ被告人等ハ公務員ナリヤ否ヤノ判定ヲ爲サス直チニ刑法第九十七條第一項ノ適用ヲ爲シタリ惟フニ該法條ヲ適用センニハ先ツ被告人等カ公務員ナリヤ否ヤ又會長其ノ他ノ役員選任カ公務ナリヤ否ヤヲ判定セサル

ヘカラス單ニ被告人等ハ秋田市農會議員タル一事ヲ舉示シテ刑法第九十七條第一項ヲ適用シタルハ理由不備ノ違法アリト信スト云ヒ」第四、秋田市農會ハ公法人ニ非ス純然タル產業團體ニ過キス其ノ事業ハ總テ農業ノ改良發展ヲ目的トシ何等權力の事業ヲ爲スモノニ非ス其ノ總代タル議員ハ農會加入者ノ選舉ニ因リテ選出セラレ其ノ職務ハ役員選舉及同會豫算ノ審議ヲ爲スニアリ何等權力の行動ヲ爲スモノニ非ス從ツテ之等議員ハ公務員タル資格ヲ有セサルモノナリ之ニ對シ刑法第九十七條第一項ヲ適用シタルハ違法ナリト信スト云フニ在レトモ

農會カ公法人ナルコトハ夙ニ本院ノ判例(大正十二年(レ)第一五三四號同年十二月十三日判決)トスルトコロナリ從テ被告等カ秋田市農會議員トシテ同會ノ會長副會長其ノ他ノ役員ヲ選任スヘキ職務ハ公務員トシテノ職務ニ外ナラサルヲ以テ原審カ該職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタル事實ヲ認定シテ之ヲ刑法第九十七條第一項ニ問擬シタルハ正當ニシテ所論ノ違法アルコトナシ論旨孰レモ理山ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

【要旨】

○私文書偽造變造行使詐欺被告事件(昭和十年(レ)第一五一五號 棄却)
(昭和十二年一月三十日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 望山 治作 辯護人 (村松甚一郎)

外一名 高橋 勲

【第一審】 靜岡地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

私文書ノ偽造ト變造

○判決要旨

行使ノ目的ヲ以テ株式取引所取引員ヨリ客ニ宛テタル現物買付通知書ノ宛名株數單價及總價額ノ記載ヲ抹消シ日附及作成者名義ノミ存シ右各事項ヲ新ニ記載シタル行爲ハ私文書偽造ヲ以テ論スヘク同賣付長期清算取引報告書ノ株數ノ記載ノミヲ抹消シ之ヲ變更

私文書ノ偽造ト變造

シタルニ止ル行爲ハ同變造ヲ以テ論スヘキモノトス

四〇 (三三)

【參照】 刑法第一百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

(第三項省略)

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人治作ヲ懲役一年六月ニ被告人文五郎ヲ懲役一年ニ處スル旨ノ判決(未決勾留日數ノ各本刑算入文書ノ偽造及變造部分ノ沒收並訴訟費用ノ負擔ニ關スル部分省略)ヲ爲シタリ

被告人望山治作ハ昭和七年一月頃ヨリ靜岡市上石町一丁目二十六番地ニ於テ株式現物賣買業ヲ營ミ兼ネテ客ヨリノ委託ヲ受ケ東京株式取引所員事務關秀次郎商店ヘ長期及短期ノ清算取引ヲ取次キ居タルカ靜岡市稻川町一丁目百三十四番地磯西互ヨリ昭和八年十月二十四日長期清算取引ノ取次委託ヲ受ケタルヲ最初トシテ爾來同人トノ間ニ右委託關係ヲ繼續シ來リタル處自己配下ノ外交員ニシテ主トシテ磯西ニ對スル外交ヲ擔當シ居タル石原龜吉カ同年十一月十六日夜無斷出奔スルヤ同人カ磯西ノ委託ナキニ拘ラス磯西ヨリ關商店ヘ差入レアリタル委託證據金ヲ利用シテ擅ニ新東其

ノ他諸株ノ清算取引ヲ爲シタル爲株式相場ノ暴落ト相俟テ關商店ニ於ケル磯西ノ口座ニ金四千圓位ノ損失ヲ生セシメタル事實ヲ知りテ磯西ノ不知ノ間ニ右損失ヲ挽回セント試ミ自己モ亦石原ト同様磯西ノ口座ヲ利用シテ手張ヲ繼續シタルモ却テ損失ヲ増大セシメ同年十二月上旬ノ計算ニ於テハ金四千七百圓以上ノ赤字ヲ現出スルニ至リ一方關商店ヨリハ追證據金ノ督促ヲ受ケ他方磯西ヨリハ建玉手仕舞ニ依ル過剩證據金ノ返還ヲ請求セラレ其ノ窮境打開策ニ腐心シ居タル折柄同年十一月下旬右石原ノ後任トシテ自己ノ店舗ニ來リ磯西關係ノ外交ヲ擔當シ居リタル被告人松川文五郎ノ進言ヲ容レ茲ニ被告人望山及松川ノ兩名共謀ノ上磯西ニ對シ所謂兩建鞘取ノ方法ヲ勸誘シ同人ヨリノ註文ヲ關商店ヘ取次カスシテ恰モ取次キタルカ如ク裝ヒ同商店ヘ差入ルヘキ證據金名義ノ下ニ金品ヲ騙取シ依テ其ノ一部ヲ以テ被告人望山ノ責任ニ係ル磯西ノ口座ノ赤字ヲ填補シ其ノ一部ヲ自己等ニ領得セントヲ企テ各犯意ヲ繼續シテ

第一 磯西ヨリ新鐘六十株現物買付及同株六十株長期賣付ノ所謂兩建鞘取ノ註文ヲ受ケタルヲ奇貨トシ昭和八年十二月十六日頃前記被告人望山ノ店舗ニ於テ關商店ノ署名捺印アル同月十五日附新鐘十株單價百三十四圓五十錢總價格千三百四十五圓松川文治郎宛ナル現物買付通知書ヲ利用シ行使ノ目的ヲ以テ被告人望山ノ手ニ於テインキ消ニテ其ノ宛名株數單價總價格ノ記載ヲ抹消シ情ヲ知ラサル被告人望山ノ店員佐野嶽雄ヲシテ宛名欄ニ磯西互株數欄ニ六十株單價欄ニ百三十三圓九十錢總價格欄ニ八千三十四圓ト夫々記入セシメ以テ關商店名義磯西互宛ノ現物買付通知書一通(昭和九年領第一一四號ノ一ノ一)ヲ偽造シ更ニ關商店ノ署名捺印アル同月十五日附新鐘十株單價百三十四圓七十錢磯西互宛ノ賣付長期清算取引報告書ヲ利用シ行使ノ目的ヲ以テ被告人望山ノ手ニ於テ前同様ノ方法ニヨリ株數十株ヲ六十株ニ改竄シ以テ右内容ノ長期清算取引報告書一通(前同號ノ一ノ二)ヲ變造シ其ノ頃被告人松川ニ於テ右二通ヲ磯西互ノ前記居宅ニ持參シ一括シテ同人ニ交付シテ行使シ因テ同人ヲシテ眞實右通知書並報告書記載ノ如ク新鐘六十株ノ兩建鞘取ノ取引成立シタルモノト誤信セシメタル結果關商店ヘ差入ルヘキ委託證據金代用證券名

私文書ノ偽造ト變造

義ノ下ニ大同電力株式會社新株式三十株時價百五圓位ヲ又以前磯西カ十二月限ニテ買付ケタル同株式七十株並石川島造船株式會社株式二十株ヲモ同シク證據金代用トシテ差入ルル爲ニ關商店ヘ支拂フヘキ受渡代金名義ノ下ニ株式會社三十五銀行吳服町支店小切手ニテ金千百三十六圓五十八錢ヲ磯西ヨリ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二 次ニ又磯西ヨリ新鐘百株現物買付及同株百株長期賣付ノ兩建勅取ノ註文ヲ受ケタルヲ奇貨トシ同月二十一日頃前記被告人望山ノ店鋪ニ於テ關商店ノ署名捺印アル同月十八日附新船十株單價十八圓十錢總價格百八十一圓松川文治郎宛ナル現物買付通知書ヲ利用シ行使ノ目的ヲ以テ被告人望山ノ手ニ於テインキ消ニテ右宛名銘柄株數單價總價格ノ記載ヲ抹消シテ同シク情ヲ知ラサル前記佐野ヲシテ宛名欄ニ磯西銘柄欄ニ新鐘株數欄ニ百株單價欄ニ百三十三圓十錢總價格欄ニ一萬三千三百十圓ト夫々記入セシメ以テ關商店名義磯西宛現物買付通知書一通(前同號一ノ三)ヲ偽造シ更ニ關商店ノ署名捺印アル同月十八日附新鐘十株單價百三十四圓磯西互宛賣付長期清算取引報告書ヲ利用シ行使ノ目的ヲ以テ被告人望山ノ手ニ於テ前同様ノ方法ニヨリ株數十株ヲ百株ニ改竄シ以テ右内容ノ長期清算取引報告書一通(前同號一ノ四)ヲ變造シ其ノ頃被告人松川ニ於テ右二通磯西互ノ前記居室ニ持參シ一括シテ同人ニ交付シテ行使シ因テ同人ヲシテ眞實右通知書並報告書記載ノ如ク新鐘百株ノ兩建勅取ノ取引成立シタルモノト誤信セシメタル結果關商店ヘ差入ルヘキ委託證據金代用證券名義ノ下ニ朝鮮銀行新株式五十株時價八百圓位及朝鮮土地改良株式會社株式二百五十株時價千二百五十圓位ヲ又以前磯西カ十二月限ニテ買付ケタル石川島造船株式會社株式十株ヲモ同シク證據金代用トシテ差入ルル爲ニ關商店ヘ支拂フヘキ受渡代金名義ノ下ニ現金四百二圓六十一錢ヲ磯西ヨリ交付セシメテ騙取シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人兩名ノ判示所爲中各私文書偽造ノ點ハ刑法第五百九十九條第一項第六十條ニ各私文書變造ノ點ハ同

法第五百九十九條第二項第一項第六十條ニ該當スルトコロ右ハ連續犯ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ則リ一罪トシテ私文書偽造罪ノ刑ヲ以テ處斷スヘク各偽造私文書行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五十九條第一項第六十條ニ各變造私文書行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五十九條第二項第六十條ニ各該當スルトコロ右偽造私文書變造私文書ノ各一括行使ノ點ハ孰レモ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ夫々重キ偽造私文書行使罪ノ刑ニ從ヒ且右ハ連續犯ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ則リ一罪トシテ右偽造私文書行使罪ノ刑ヲ以テ處斷スヘク又各詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條第十條ニ則リ一罪トシテ右偽造私文書行使罪ノ刑ヲ以テ處斷スヘク又各詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條第十條ニ則リ一罪トシテ右詐欺罪ノ刑ニ從ヒ各其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人望山治作ヲ懲役一年六月ニ被告人松川文五郎ヲ懲役一年ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人望山治作辯護人村松甚一郎上告趣意書第三點原判決ハ被告ノ所爲ヲ私文書偽造行使ト斷シ其ノ理由ニ於テ關商店名義磯西互宛ノ現物買付通知書一通(昭和九年領第一一四號一ノ一)ヲ偽造シ更ニ前同様ノ方法ニ依リ株數十株ヲ六十株ニ改竄シ以テ右内容ノ長期清算取引報告書一通(前同號一ノ二)ヲ變造シ云々ト判示セラレ現物買付通知書ノ改竄ヲ偽造ト認定シ長期清算取引報告書ノ改竄ヲ

私文書ノ偽造ト變造

變造ナリト斷定セリ均シク關商店ノ作成ニ係ル文書ノ改竄ヲ以テ其ノ一ヲ偽造トシ他ノ行爲ヲ變造ナリト判示セル理由ニ付何等此ノ區別ヲ明示セサルハ違法ナリ判決ハ此ノ偽造及變造ノ各文書ヲ各一括行使ノ點ハ何レモ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ夫々重キ偽造文書行使罪ノ刑ニ從ヒ處斷セルヲ以テ原審ハ偽造ハ變造ヨリ其ノ刑重シト認定セルモノニ有之果シテ然ラハ被告ハ本件カ偽造ナリヤ變造ナリヤニ因リ科刑處斷ヲ受クルニ當リ重大ナル利害ノ關係アルヲ以テ原判決カ偽造ト變造トヲ區別シテ同一ノ文書改竄ニ異ナル認定ヲ與ヘラルル其ノ理由ヲ知ルコト最モ必要ナル點ナルニ拘ラス何等此ノ點ニ付説明ヲ與ヘサルハ理由不備ノ違法アリト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

所論ノ買付通知書(昭和九年領第一一四號ノ一ノ一)ハ宛名株數單價及總價額ノ記載ヲ抹消シタルモノニシテ作成名義ノミハ同一ナルモ宛名ヲ異ニシタル新ナル別個ノ買付通知書ヲ作成シタルモノニ外ナラサレハ之ヲ偽造ヲ以テ論シ清算取引報告書(前同號ノ一ノ二)ハ單ニ株數ノ記載ノミヲ變更シタルニ止ルヲ以テ之ヲ變造ヲ以テ論シタルハ洵ニ正當ニシテ所論ノ如ク理由不備ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事池田克關與

○姦通被告事件(昭和十年(レ)第一五一八號 棄却)
(昭和十一年一月三十日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 桑原 象治 辯護人 小林 龜郎
 【第一審】 新潟區裁判所 【第二審】 新潟地方裁判所

○判示事項

告訴補充聽書ト告訴——告訴人カ姦通事實ヲ知リタリトノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項——本夫姦婦ノ同棲ト姦通ノ縱容——告訴人カ姦通ヲ縱容シタリトノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項

○判決要旨

告訴補充聽書ト告訴 告訴人カ姦通事實ヲ知リタリトノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 本夫姦婦ノ同棲ト姦通ノ縱容 告訴人カ姦通ヲ縱容シタリトノ主張ト
 刑事訴訟法第三百六十條第二項

一 婚姻解消前本夫カ姦夫姦婦ニ對シテ爲シタル告訴狀カ無効ナリトスルモ婚姻解消後起訴前警察官ノ作成セル告訴補充聽書ナルモノニヨリテ告訴アリタル以上ハ公訴ノ提起ハ適法ナリ【要旨第一】

二 告訴人タル本夫カ姦通ノ事實ヲ知リタル日ヨリ六箇月ヲ經過シタリトノ主張ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ犯罪阻却原由タル事實上ノ主張ニ非ス【要旨第二】

三 本夫カ姦通ノ事實ヲ知リタルニ拘ラス姦婦ト同棲シタリトスルモ之ヲ以テ直ニ本夫カ姦通ヲ縱容シタリト謂フヲ得ス【要旨第三】
四 告訴人タル本夫カ妻ノ姦通ヲ縱容シタリトノ主張ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ犯罪阻却原由タル事實上ノ主張ニ該當セス【要旨第四】

【參照】 刑法第八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ
前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ効ナシ

シ

刑事訴訟法第二百七十三條 檢事又ハ司法警察官口頭ノ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ

第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ調書ニ付テ之ヲ準用ス

同法第二百六十四條 刑法第八十三條ノ罪ニ付テハ婚姻解消シ又ハ離婚ノ訴ヲ提起シタル後ニ非ラサレハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス再ヒ婚姻ヲ爲シ又ハ離婚ノ訴ヲ取下ケタルトキハ告訴ヲ取消シタルモノト看做ス

同法第二百六十五條 親告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知リタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

刑法第二百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告訴ハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定シタル日ヨリ六月内ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ナシ

同法第三百六十條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認めタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

○ 事 實

告訴人ハ本件ニ付昭和十年七月二十六日告訴狀ヲ警察署へ提起シ同年八月五日協議離婚ヲ爲シ翌六日警察官ハ告訴補充聽書ヲ作成シ檢事ハ其ノ後公訴ヲ提起シタル案件ニシテ第二審ハ左記ノ如ク事實ノ

告訴補充聽書ト告訴 告訴人カ姦通事實ヲ知リタルトノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項 本夫姦婦ト同棲ト姦通ノ縱容 告訴人カ姦通ヲ縱容シタルトノ主張ト
刑事訴訟法第三百六十條第二項 四七 (一三五)

認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役五月ニ處シ未決勾留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人キクハ昭和四年四月十一日堀田重助ノ妻トナリ昭和十年八月五日離婚トナリタルモノニシテ被告人桑治ハ該身分關係ヲ知リナカラ被告人兩名ハ孰レモ犯意繼續ノ上昭和九年五月頃ヨリ同年八月頃ニ至ル迄ノ間數回ニ互リ新潟縣西蒲原郡漆山村大字柿島被告人桑治方其ノ他ニ於テ互ニ情ヲ通シ以テ姦通シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第八十三條第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役五月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ被告人ニ對シ當審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人小林龜郎上告趣意書第一點本件ノ告訴ハ昭和十年七月二十六日ニシテ被告人佐藤キクト堀田重助トノ離婚ハ昭和十年八月五日ナルコトハ記録中ノ告訴狀並ニ戶籍抄本ニヨリ明白ナルトコロナリ而シテ姦通罪ハ告訴ヲ俟ツテ之ヲ處斷スヘキ所謂親告罪ニシテ其ノ告訴ハ離婚訴訟ノ提起又ハ婚姻ノ解消後ニアラサレハ其ノ效ナキコトハ刑事訴訟法第二百六十四條ノ明定スルトコロニシテ本件告訴ハ昭和十年七月二十六日即チ堀田重助トキクトカ婚姻中ニナサレタルモノナルコト明白ニシテ斯ル事實ノ

明白ナル以上ハ當該告訴ハ其ノ效ナキモノニシテ之ニ基キ起訴並ニ審理判決スルコトヲ許ササルモノトス從テ原裁判所ハ此ノ點ニ付公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘカリシニ事爰ニ出テス此ノ明白ナル事實ヲ看過シ第一、二審裁判所ハ被告人ニ對シ有罪ヲ言渡シタルハ不法ニシテ破毀セラルヘキモノトスト云フニ在レトモ

【要旨第一】

記録中ノ堀田重助ノ戶籍抄本ニ依レハ同人ハ妻キクト昭和十年八月五日協議離婚ヲ爲シ其ノ届出ヲ爲シタル旨ノ記載アリ昭和十年八月六日附卷警察署警部補山本正吾作成ニ係ル堀田重助ニ對スル告訴補充聽書ト題スル書面ニ依レハ自分ノ妻キクハ桑原象治ト姦通セルヲ以テ二人共嚴重ニ處分セラレ度ク告訴セル旨ノ記載アルヲ以テ該書面ハ堀田重助ノ其ノ妻タリシキク及桑原象治ニ對スル告訴ト認メ得ヘシ然ラハ婚姻解消前堀田重助ヨリ卷警察署長宛提出セル右兩名ニ對スル昭和十年七月二十六日附告訴狀カ效力ナシトスルモ前記告訴補充聽書ニ依リテ告訴アリタル以上ハ本件公訴ノ提起ハ適法ニシテ原審カ之ヲ受理シテ被告ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ正當ナリ論旨理由ナシ

第三點姦通罪ハ其ノ事實ヲ知りタルトキヨリ六ヶ月ヲ經過スルトキハ告訴ヲ爲スコトヲ得サルモノナルコトハ法ノ明定スルトコロニシテ本件姦通ノ事實アリトスルモ告訴人堀田重助ノ姦通ノ事實ヲ知りタルハ昭和九年八月中ナルコトハ被告人佐藤キクノ供述トシテ警察ニ於ケル司法警察官ノ聽取書並ニ原審ニ於ケル公判調書中「被告人ハ昨年八月頃彌彦村觀音寺へ湯治ニ行ク約束ヲシタ事カアルカ」答

告訴補充聽書ト告訴 告訴人カ姦通事實ヲ知リタリトノ主張ト刑事訴訟法第三百六
十條第二項 本夫姦婦ノ同棲ト姦通ノ縱容 告訴人カ姦通ヲ縱容シタリトノ主張ト
刑事訴訟法第三百六十條第二項

「約束ヲ致シマシタ」問「夫重助ニ湯治ニ行クト云フ事ヲ話シタカ」答「桑原ト二人ヲ行クト云フ事ハ無論云ヒマセヌカ亭主ノ方カラオ前ハ桑原ト湯治ニ行カウト云フタラウト私ヲ責メマシタ」問「夫レテハ桑原トノ關係ヲ重助カ其ノ頃カラ知ツテ居タノカ」答「薄々感付イタ爲メ左様ニ私ヲ責メタモノト思ハレマス」トノ記載アリ更ニ告訴人堀田重助ノ警察ニ於ケル聴取書中ニモ「昨年昭和九年八月十七八日頃妻カ彌彦村字麓ニ觀音寺ト云フ湯治場カアリマスカ其處ヘ行クト云フノテ當時妻ハ僅カ五十錢サヘ金ヲ持ツテ居ナイノテ私ハ怪シイト考ヘ湯治ニ行クト云ツテモ金カナイトキ行カレルカト云フト今度ハ實家ヘ歸ツテクルト云フノテ私ハ實家ヘ歸ツテ來ルノナラ長男博ヲ連レテ行ケト云フト今度ハ彌彦參リニ行クト云フノテ私ハ之ハキツト桑原治ト一緒ニ湯治ニ行クノタト思ヒスク桑原治ノ家ヘ行ツテ見ルト桑治カ在宅セス湯治場ニ行ツタト家族ノ人達カ話シテ居マシタノテ愈々自分ノ妻ト桑原治カ怪シイ關係ニアルト考ヘ云々然シ妻カ桑原治ト關係ナイトイツテモ二人テ湯治ヘ行ク約束ラシテアル點カラ考ヘテ關係アルモノト考ヘ云々」トノ點ヨリ見ルトキハ告訴人堀田重助ハ昭和九年八月中ニ於テ姦通ノ事實ヲ知リタルコト明白ナリトス而シテ原審辯護人今成留之助氏ハ原審ニ於テ「尙重助竝キクニ對スル司法警察官ノ聴取書ニ依レハ告訴人カ犯人ヲ知リタルハ昭和九年八月十七八日ナルコトヲ認メ得ヘキカ故ニ既ニ六ヶ月ヲ經過シタルモノナレハ告訴ノ効ナキモノト謂ハサルヘカラス仍テ公訴棄却ノ御判決相成度」トノ陳述ヲナシタルコトモ又原審公判調書ノ記載ニヨリ洵

ニ明白ナルトコロナリ而シテ右ノ事實關係竝ニ主張ハ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ事由ニシテ告訴ヲ爲ス權能ヲ失ヒタル堀田重助カ告訴ヲ提起スルトモ檢察ハ公訴權ヲ實行スルニ由ナク從ツテ此ノ點ニ於テ辯護人カ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ事由ヲ主張シタルモノナレハ此ノ明白ナル事實ノ下ニ辯護人ノ主張ヲ排斥セントスルニハ其ノ理由ヲ説示スヘキモノトス然ルニ原判決ハ此ノ明白ナル事實ニ基調シナカラ其ノ理由ヲ判示スルコトナク有罪ヲ斷シタルハ理由不備ノ不法アルト共ニ告訴ノ効ナキ親告罪ニ付有罪ヲ斷シタルハ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ

【要旨第二】

告訴人ノ告訴ハ被告ニ對スル姦通ノ事實ヲ知リタル時ヨリ六ヶ月ヲ經過シタル以後ナルコトハ原審ノ認メサルトコロナルノミナラス告訴補充聽書ニ依レハ告訴人カ眞ニ姦通ノ事實ヲ知リタルハ昭和十年三月十二三日頃ナルコト明白ニシテ告訴ハ同年八月六日ナルヲ以テ六ヶ月ヲ經過セサルゴト論ナシ而シテ告訴人カ姦通ノ事實ヲ知リタルヨリ六ヶ月經過シタリトノ事實ノ主張ハ告訴ノ效力ノ問題ニシテ訴追條件ニ係ルニ止マリ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由タル事實上ノ主張ニ非サルヲ以テ原審カ之ニ對シ何等ノ判斷ヲ與ヘサリシトスルモ違法ニ非ス論旨理由ナシ第四點本件ハ所謂親告罪ニシテ告訴ヲ俟ツテ其ノ罪ヲ處斷スヘキモノニシテ犯人ヲ知リタルトキヨリ六ヶ月ヲ經過シ又ハ宥恕シタル後ハ告訴ヲ提起スルモ其ノ効ナキコト明ナルトコロナリ而シテ其ノ宥恕タルヤ明示ノ場合ハ勿論默示ノ場合ニ於テモ猶ホ且ツ宥恕ノ効アルコトハ法律上モ又當然ナリ而シ

告訴補充聽書ト告訴人カ姦通事實ヲ知リタルトノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項本夫姦通ノ同種ト姦通ノ縱容告訴人カ姦通ヲ縱容シタルトノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項

テ告訴人カ犯罪事實ヲ知リタルハ昭和九年八月十六七日頃ナルコトハ前點主張ノ如クナルモ其ノ時之ヲ知リタルニアラストスルモ昭和十年三月中ニ之ヲ了知シタルモノナルコトハ堀田重助ノ警察ニ於ケル供述竝ニ被告人佐藤キクノ原審公判廷ニ於ケル供述ニヨリ洵ニ明白ナルトコナリ而シテ斯ル事實ノ存在シタル後其ノ後數ヶ月同棲シ居ルカ如キハ實驗法則上之ヲ宥恕ト見ルヘキモノニシテ斯ル事實ノ存在スル以上ハ所謂訴追ヲ爲スコト能ハサルハ明白ニシテ(大正十四年(れ)二〇六九號大正十五年三月十五日第六刑事部)原審辯護人今成留之助氏ニ於テモ又右ノ事實關係ヲ主張シ犯罪ノ不成立竝ニ公訴ヲ提起スヘカラサルコトヲ力説シタルモノナリ從ツテ原審ハ斯ル事實ノ存在スル以上ハ一應ハ之ヲ宥恕シタルモノト見テ公訴ヲ棄却スヘカリシニ拘ハラス事爰ニ出テス漫然有罪ヲ斷シタル實驗法則ニ違背シタル不法アルノミナラス犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ主張ニ對シテ何等判斷ヲ與ヘサルハ不法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ

【要旨第三】

告訴人堀田重助カ其ノ妻ノ姦通ノ事實ヲ知リタルニ拘ラス之ヲ縱容シタリトノ事實ハ原審ノ認定セサルトコロナルノミナラス假リニ姦通ノ事實ヲ知リタル以後同棲シタル事實アリトスルモ之ヲ以テ直ニ縱容シタルモノナリト斷スヘカラス尙告訴人ノ姦通ヲ縱容シタリトノ事實上ノ主張モ告訴ノ效力ノ有無ノ問題ニシテ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張ニ非サルヲ以テ原審カ何等ノ判斷ヲ與ヘサリシトスルモ不法ニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨

【要旨第四】

及判決理由ハ之ヲ省畧ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○恐喝被告事件(昭和十年(れ)第一五二三號 棄却)

(昭和十一年一月三十日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 岩佐駒吉

【第一審】 長崎區裁判所 【第二審】 長崎地方裁判所

○判示事項

○恐喝罪ノ成立

○判決要旨

他人ノ爲ニ其ノ事務ヲ處理スル者ヲ恐喝シテ畏怖ノ念ヲ生セシメ

恐喝罪ノ成立

因テ事實上債務ノ辨濟ヲ延期セシメテ財産上不法ノ利益ヲ得タル以上ハ恐喝罪ヲ構成スルモノトス

【参照】 刑法第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役八月ニ處ス但シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ所謂興行ヲ業トシ九州沖繩聯合假設興行組合理事長トシテ斯界ニ勢力ヲ有シ長崎市近郷ニ於テハ一般ニ斯界ノ大親分トシテ知悉セラレ且畏怖嫌忌セラレ居リタル者ナルトコロ犯意ヲ繼續シテ

第一 昭和七年十月頃長崎市千馬町ノ當時ノ被告人居宅ニ於テ古賀マシヨリ印刷殘代金約二百三十五圓ノ支拂請求ヲ受クルヤ右ノ如キ自己ノ社會裏面ニ於ケル勢力ヲ利用シ右マシヨ脅迫シテ其ノ支拂ノ義務ヲ免レンコトヲ欲シ丹前着ニテ突立チタル儘同人ニ向ヒ大聲ニテ「オ前ニ遣ル金ハナイ」ト怒號シ暗ニ若シ同人ニ於テ強テ支拂ヲ求メンカ危害ヲ加フルコトアルヘキヲ仄カシ因テ同人ヲシテ之ヲ畏怖スルノ餘即時其ノ請求ヲ斷念セシメテ右債務ノ支拂ヲ免レ

第二 昭和八年十月頃同市八坂町ノ當時ノ被告人居宅ニ於テ吳服商小峰博市方店員岩永正滿ヨリ吳服代金五十四圓八

十五錢ノ支拂請求ヲ受クルヤ同人ニ對シ「丸イ物ハ無イカ延金ナラ何程テモ有ル故持ツテ行ケ」ト放言シ同人ニ於テ其ノ際強ヒテ請求スルニ於テハ忽チ危害ヲ加フルカ如キ言ヲ爲シ因テ同人ヲシテ之ヲ畏怖スルノ餘支拂ノ請求ヲ他日ニ讓ラシメテ一時支拂ノ延期ヲ得

第三 被告人ニ於テ前示肩書住居所在ノ家屋ヲ入手シタルモ先是其ノ敷地百二十三坪ヲ長崎合同運送株式會社(社長山田鷹治)ニ於テ取得シ未タ兩者間ニ敷地料ノ取り決メナク同會社社員築城好太郎ヨリ昭和九年十一月頃被告人ノ肩書現住居ニ於テ地代取決メノ交渉ヲ受クルヤ冒頭説示ノ如ク一般ノ人カ自己ヲ恐レ居レルニ乘シ好太郎ニ對シ「山田鷹治カ俺カラ地料ヲ取ルテヤ」ト申向ケ地代ノ請求ヲ爲ス如キハ言語道斷ニシテ若シ強ヒテ其ノ請求ヲ爲スニ於テハ社長タル鷹治ニ危害ヲ加フルコトアルヘキヲ仄カシ因テ好太郎ヨリ之ヲ聞知シタル山田鷹治ヲシテ危害ノ到來ヲ畏怖スルノ餘已ムナク地代ノ請求ヲ斷念セシメテ其ノ債務(一ヶ月坪約五十錢ノ割)ノ支拂ヲ免レ

以テ夫々財産上不法ノ利益ヲ得タルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十九條第二項第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定期限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八月ニ處スヘク同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書ハ犯罪事實ノ認識ニ付テ債權者ハ異口同音ニ「大聲ヲ出シテ拂フ金ハナイ」「丸イ

恐喝罪ノ成立

金ハナイカ延金ナラアルカラ持ツテ行ケ「薄笑ノ中二十五分間モ睥マレタ」ト如何ニモ恐喝シタル様ニ供述ハシテ居ルカ左様ナ事實カアリシヤ無カリシヤアリトシテ其ノ時機カ何時テアツタカ場所カ何處テアツタカ常ニ外出勝ナ借金ノ斷リハ妻ノ受持ニシテ居ル被告人ニハ全然朦ケニモ其ノ記憶ハナイノテアリマス固ヨリ斯ノ如キ問題ヲ醸シタル事ニ付テハ身ノ不徳トシテ慚愧ニ堪ヘナイ次第トシテ謹慎致シテ居リマスカ又債權者ハ各人同音ニ司法警察官檢事ニ對シ「何時行キマシテモ支拂ツテ呉レマセン」ト供述シテ居リマスカ今迄ニコンナ事カアリ他ニモコンナコトカアルトハ申シテ居リマセン被告人ノ業態並業態ヲ基本トスル生活狀態カ何時テモ收入アリ餘裕アル業態ニ非スシテ年收年拂ト云フ様ナ特殊ナ業務生活態様テアルコトハ日用品以外ノ供給者ハ遠クニ之ヲ知悉シ理解ヲシテ(不満足ナカラ)居ル次第ニシテ取り惡イト云フ概念ハ有シテ居リマシテモ小峰吳服店モ古賀マシモ月々催促ニ來リ都合次第内入レタリ斷ツタリ兩者共取引ノ開始ハ昭和三年頃カラノ事テ本件ノ被害ハ其ノ内入々々ノ殘債權テアリマス是迄ニ本件ノ如キ事柄ノナカツタ事ニモ特ニ御精鑑ヲ願フ次第テアリマス右様ノ次第ナルカ故ニ債權者等ノ云フカ如キ犯罪事實アリシヤ否ヤハ別トシテ被告人ハ永年ノ取引而モ少シ計リノ殘リアルノ故ヲ以テ「斯クスレハ」「アトスレハ」ト借財ヲ永久のニ免除ヲ得若クハ一時のニ其ノ支拂ノ延期ヲ得ンカ爲ニ確定的ニモ豫謀的ニモ又ハ偶發的ニモ非常手段ヲ構シテト言フ認識ハ絶對ニナイノテアリマスナイノミナラス敍上記述ノ通り有レハ拂ヒ無ケレハ斷ツテ濟ンテ來タ借

財ナルカ故ニ何スレハ非常手段ニ訴ヘテ迄モ虎口ヲ逃レントスルノ要ソアル之ヲ要シナイノテアリマス急迫セル債務テナク極メテ緩漫ナル借金テアリマス恐喝ノ存否ハ各被害者ニ付キ個々ニ決スヘキ事實問題テアリマセウカ各被害者ハ非常ニ畏怖戰慄シタ様ニ供述シテ居リマスケレトモ請求モ斷念セス小峰吳服店ノ如キハ其ノ直後ニモ岩永カ催促ニ來リ被告人カ強制處分ヲ受ケタル意外ノ結果ニ氣ノ毒ノ感ヨリ來ラサル者モアリ「困ツタコトニナツタ」ト云フ始末ヲ招來シテ居ル次第テ何レトスルモ支拂フカ延期ヲ願フカニ致シハシマスカ故ニ被告人ハ恐喝シテ財産上不法ノ利益ヲ得テ居ルトハ思ハナイノテアリマス而シテ本件ノ被害者ハ債權者ナリヤ債權者ノ使者ナリヤ分明セサルカ判決摘示ニ依ルト極メテ「ヨイ加減」ニシテアリハシナイカト思ハレマスカ被告人ハ債權者ノ使者カ如何ニ恐怖シテモ債權者自體カ畏怖ノ念ヲ起シテ其ノ請求ヲ抛テ若シクハ延期シタト云フ事ニナラナケレハ利益ヲ得タコトニナラナイト思フノテアリマス故ニ犯罪事實ノ第一、第二、第三共ニ古賀マシハ古賀信次ノ相續人ニ小峰吳服店店員岩永正滿ハ店主小峰傳市ニ合同運送會社員築城好太郎ハ社長山田鷹治ニ其ノ實狀ヲ復命報告シタル事實アリヤ否ヤ報告ヲ受ケタ主權者カ精神上如何ナル影響ヲ受ケタリヤ……………ヲ極メテ後恐喝ト其ノ結果ヲ論スヘキニアラサルヤト思料スルノミナラス尙ホ事情證據トシテ第三事實ニ付テハ本件土地ヲ諸所ノ仲介業者ニ賣却ノ交渉ヲ爲シタルモ皆被告人ノ住フカ故ニ買氣ヲ棄テタリト云フカ故ニ果シテ事實ナルヤヲ裁判上過ナカラシムル爲ニモ又被告人利益ノ爲ニモ御取調ノ要アリ

ト思フノテアリ此ノ點前審ニ審理ヲ盡ササルノ憾アリテ探證ニ違法アリ要之證據不充分ト思フモノテアリマス個々ノ事實ニ付テ第一事實被告人ト古賀マシノ夫信次トノ取引ハ昭和三年頃ニ始マリ故人トノ間ニハ曾テ感情ノ行違ヲ生シタル事ナシ然ルニ古賀マシハ昭和十年七月十六日司法警察官ノ取調ニ對シ(イ)昭和七年十月最後ノ催促ヲ爲シ其ノ際女ニアルマシキ而モ被告人ニ畏怖シ居ル者トシテハ餘リニモ思切ツタ惡口ヲ爲シ(記録八九丁)(ロ)其ノ惡口ハシタカ者ト思ハレナイ様ニ取調毎ニ口數カ減リ柔ミヲ加ヘ(ハ)請求ハ斷念セス(記録九一丁)ト元氣ノヨイ供述ヲ爲シ(ニ)被告人ニ對シ夫カ印刷代ノ残り債權ヲ有スルコトモ知ラナイ供述(記録八七丁)夫ヨリ聞イテ其ノ催促ヲ夫ニ勸メ(記録八七丁)居ル者カ第二回ノ取調ニ對シテハ「夫ノ死亡前ニハ職工モ八九人居リ私等ノ命ヲ催促ニヤリマシタ職工ハ皆「身カズントシタ」ト云フテ歸ツテ來マシタ(記録三二九丁)ト出鱈目ヲ附加シ(ホ)第一回取調ニ對シ昭和四年十月夫死亡スルトスク職工ノ五十川ヲ催促ニヤリ二十圓ノ内入ト香典ヲ貰ヘリト(記録八八丁)供述シナカラ第二回取調ノ際ハ「問……夫死亡後職工ヲ岩佐方ニ請求ニヤツタコトアリヤ答アリマセン(記録三三〇丁)ト此處テモ出鱈目ヲ云ヒ(ヘ)記録八九丁ニ於テハ「オ前ニヤル金ハナイ」ト云フ丈テ恐ロシカツタ事飛ンテ逃ケタ事等ハ口ニ出サス驚イタ様子モナイカ第二回ノ取調テハ(記録三三一丁)丹前ヲ着テ突ツ立ツタ儘大聲テ怒鳴ラレテ身カズントシタト云ヒテ言葉ニ色カ付キ(ト)取調ノ進行ニ連レテ被告人ノ聲ハ段々大キクナリ憤怒ノ形相ハ

物凄サヲ加ヘ被害者ノ恐怖ハ刻々導カレテ其ノ度ト深サヲ増シタルカノ聯想ヲ與ヘ(チ)證人五十川ノ供述(記録一四三丁)ニ依ルモ被告人ノ心理御理解ヲ賜フ事ト存候第二事實被告人ト小峰吳服店トノ取引ハ昭和三年前カラシテ未タ一回タルモ本件ノ如キ問題ヲ惹起シタルコトナシ然ルニ判決中「強ヒテ請求スルニ於テハ忽チ危害ヲ加フルカ如キ言ヲ爲シ因テ同人ヲシテ之ヲ畏怖スルノ餘支拂請求ヲ他日ニ讓ラシメテ一時支拂ノ延期ヲ得」タルカ如ク認定セラルルモ(イ)延金ナラアル持ツテ行ケト刃テモ出シタト云フナラ忽チト云フ事ニナリマシヨ(ロ)其ノ後催促ニモ來ラスト云フナラ一時支拂ヲ免レタトモ言ハレマスカ其ノ直後ニハ依然トシテ催促ヲ受ケタル事實アリ自由ヲ奪フタ事ニモナリマセン(記録三二六丁)(ハ)假ニ店員ニ於テ請求ヲ他日ニ讓リタリトスルモ店主ニ其ノ心持ナク岩永ハ此ノ願末ヲ店主ニ報告シ其ノ指揮ヲ仰クヘキ立場ニアリ其ノ報告モナク從ツテ店主ノ指揮ナク店主ノ畏怖シタルヤノ模様其ノ供述中ニモナシ中間ニ立ツテ困リ抜イタ模様モナシ供述ハ出鱈目ト存候(ニ)店主ノ心境御取訊シモ無ク店員ノ言フ處ヲ一モ二モナク信セラルルハ至極危険ト存候第三事實被害者築城好太郎ハ被告人ヲ指シテ無鐵砲者ノ如ク看做シ言ヒ做スモ今日暴力ヤ無茶テハ世渡ハ出來マセン被告人ハ博徒テモナケレハ右傾テモナク左傾テモアリマセン彼ハ巡查裁判所書記ヲ奉職シタルコトアリ其ノ後三百代言ノ如キ業務ニ從事シ其ノ人物ニ付テハ相當定評アリ數年前刑ニ觸レタル所謂前科者テ薄笑ヒヲシテ睥ンタ位テ恐レヲ爲スカ如キ生優シキ人物テハアリマセン第一審公判ニ於テ辯護

人ヨリ彼ヲ證人トシテ申請シタル際辯護人ヨリ築城ノ人物如何ハ裁判所既ニ御承知ト思フカトノ前提ニ對シ裁判官ハ承知シテ居ル旨ノ言葉アリ其ノ言フ處措信ノ値ナシ(イ)元ノ所有者志熊カ岩佐ニ賣ルカラ待ツテ吳レトノ相談ヲ快諾(記錄三四丁)シナカラ愈々賣却ノ報ニ接シテカラ驚イタ如ク供述シ(記錄三四丁)被告人ヲ嫌ナ人物ト思ヘハ此ノ間ニ何トテモ工作ノ餘地アルヲ之ヲモ爲サス(ロ)地料ノ額ノ話迄ニ至ラサル裡ニ「脅シタ」如ク(記錄三九丁)言做スモ被告人ノ第四回警察ニ於ケル五十錢ヲハ高イ他處竝ナラトノ供述(記錄三一七丁)ヨリ見テ合同運送會社ヨリ五十錢ト云フ申出カアリシ事ハ損害トシテ月坪五十錢ト計上シタル數額ノ一致カラ見テモ好太郎ノ供述ニ曖昧アリ(ハ)被告人ハ其ノ後二人ヲ頼ンテ地料ノ折衝ヲ爲シ居ルモノナリ(證人ノ證言御參照)(ニ)合同運送會社カ本件土地ヲ賣ル氣ニナツタノハ被告人ノ居住カ原由シタモノテモナク脅カサレテノ結果テモナイ運送業者トシテ永久ニ所有ノ意ナク殊ニ該方面ハ一般カラ閑却セラレタ不振ノ土地ナルカ故テアル(ホ)社員ノ復命ニヨリ恐レヲナシテ山田(社長)カ賣ル氣ニナツタトスレハ一應社長ニ付キ精神上ノ影響ヲ聞クヘキテアル然ラスシテ速斷セラルルハ片言以テ獄ヲ斷スルノ不正確トナル至公至平ヲ缺ク審理不盡探證ニ違法アリト存候探證ニ付テ(イ)卒直ニ申セハ自分ノ職業柄一般人ヨリ良イ感シヲ受ケ居ラスト思フ旨ノ供述アリトシテ被告人ヲ博徒カ暴力行爲ノ常習者ノ如ク觀ラルモ興行ハ正業ナリ一種ノ謙遜ノ辭ニ外ナラナイ(ロ)延ヘ金トハ刃ヲ指稱スル旨ノ供述ニヨリ恐喝ノ意思アリト斷定セラル

モル相手カ延金トハ何ノ事ナルヤ知ラストスレハ三歳兒ヲ脅迫シタルト同様罪ヲ構成セサルヘク(一)(イ)古賀マシカ夫ニ死別シテ三人ノ子供ヲ抱ヘテ魚類行商ヲ爲ス處ニ同情セラレテ古賀ノ言フ總テヲ直ニ以テ眞實ナリトセハ誤リ多カルヘシ一步過テハ被告人ハ飛ンタ事ヲ囹圄ノ苦ヲ嘗メナケレハナラナイ事ニナルノテアリマス(ロ)大聲ヲ出シタ覺ヘハアリマセンカ假リニアツタトシテモ大聲ノ中ニ危害ヲ加フルノ意カ含マレテ居ルト思ハレルノニハ慥カナ證據ヲ必要トシナイカ(ハ)被告人ハ古賀マシノ夫死亡直後些少ト雖モ香典ト内入ヲ致シテ居リマス古賀ノ言フカ如キ殺人鬼ノ如キ被告人テハナイノテアリマス此ノ點特ニ御精鑑ヲ賜ハルト同時ニ古賀ノ供述カ一回ト恐喝タラシムヘキカノ如ク粉飾セラレテ居ル點御詮議ヲ願ヒ度イテアリマス(二)(イ)延金カ何テアルカ位ノ事ハ岩永モ之ヲ知ルト見ヘテ芝居モトキヲ供述スルノ傾キアリ脅カサレ居ナカラ其ノ後幾度モ催促ニ來マシタト供述ス流石ハ小供タト思ヒマス(ロ)被害者ノ言ニノミ信ヲ措カレテ判斷セラルルハ探證ノ原則ヲ案ルモノタト思ヒマス被告人ノ自白スラ證據トナラサル場合アリ(三)築城好太郎カ司法警察官ニ對スル供述ヲ探證サレテ居リマスカ同人ノ供述ニモ度毎ニ變動ヲ見受ケラレ殊ニ一審公判ニ於ケル證言ハ前言ヲ覆スカ如キ證言アリ被告人ニ不利益トモ見ルヘキ司法警察官ニ對スル供述ヲ採用セラルルハ裁判ノ公正ヲ缺キハシナイカト思ヒマス以上ノ如ク審理不盡ノ點アリ探證適法ナラス從ツテ證據不充分固ヨリ罪トナルヘキ行爲ナク無罪ヲ確信致居候ト云フニ在リ

【要旨】

就中本件ニ付恐喝罪ノ成立ヲ否認スル論旨ニ付テ按スルニ恐喝罪ノ成立ニハ必スシモ財産上ノ被害者ト被恐喝者トノ同一ナルコトヲ要スルモノニ非サルコト夙ニ本院判例ノ存スル所ナリ乃チ他人ノ爲ニ其ノ事務ヲ處理スル者ヲ恐喝シテ畏怖ノ念ヲ生セシメタル結果其ノ者ノ意思ニ因リ財物ノ交付ヲ受ケル見解ニ立脚シテ原判決ヲ非難スル論旨ハ皆理由ナシ加之第一事實ニ關シテハ財産上ノ被害者ト被恐喝者トノ相異レルコトハ原審ノ認メサルコトナリ又第三事實ニ關シテハ長崎合同運送株式會社社長山田應治カ被告人ノ言ヲ聞知シ畏怖ノ餘リ地代ノ請求ヲ斷念シタルコトハ原審ノ認定スルトコロナルコト原判文上明瞭ナルヲ以テ其ノ認定ナキコトヲ非難スルハ中ラス然リ而シテ爾餘ノ論旨ハ原判決ノ事實認定又ハ證據ノ取捨判斷ヲ非難スルモノナリト雖原判決擧示ノ證據ニ徵スレハ優ニ判示ノ各事實ヲ認ムルニ足り記録ヲ調査スルモ原審ノ事實認定ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナク探證上ノ違法アルコトナシ若シ夫レ原審カ被恐喝者タル山田應治ノ訊問ヲ爲ササリシヲ以テ審理不盡ノ違法アリト爲スカ如キハ原審ノ適法ナル職權行使ヲ非難スルニ歸シ採用シ得ヘキモノニ非ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事平井彦三郎關與

○詐欺私文書偽造行使被告事件 (昭和十年(れ)第一五一七號 棄却)
(昭和十一年一月三十一日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 宮村 雅治 辯護人 坂井 正仁
外一名 高島 春二

【第一審】 新發田區裁判所 【第二審】 新潟地方裁判所

○判示事項

文書偽造罪ノ成立ト名義人ノ事後承諾

○判決要旨

行使ノ目的ヲ以テ他人ノ署名ヲ偽造シ有合印ヲ押捺シテ債務保證ニ關スル文書ヲ偽造シタルトキハ事後ニ於ケル名義人ノ承諾アル

文書偽造罪ノ成立ト名義人ノ事後承諾

モ文書偽造罪ノ成立ヲ阻却スルモノニ非ス

【参照】刑法第五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ捺捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人雅治ヲ懲役六月ニ被告人留藏ヲ懲役四月ニ各處ス押收ニ係ル證第一號中偽造部分ハ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人雅治ハ債權者高橋又藏ヨリ元利金六百五十圓餘ノ辨濟方ヲ督促セラレ困惑シ居タルトコロ新潟縣北蒲原郡猿橋村伊藤二藏ヨリ同人ノ同郡川東村築井京太郎ニ對スル貸金七百圓ノ債權同村菅惣次郎ニ對スル貸金五百圓ノ債權ヲ騙取シテ高橋又藏ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テントコトヲ企圖シ昭和九年三月三十日頃被告人留藏ト共謀ノ上ニ二藏方ニ於テ同人ノ爲債權取立ノ意思ナキニ拘ラス同人ニ對シ右京太郎惣次郎ハ他ヨリ差押ヲ受ケ返濟ヲ受クル能ハサル虞アリ其ノ辨濟期前取立ノ必要アルヲ以テ取立ノ爲右債權ヲ自己ニ讓渡スヘク之カ擔保ノ意味ニテ資産家宮村五郎保證ノ借用證書ヲ差入ルヘキ旨申許リ右二藏ヲシテ其ノ旨誤信セシメ翌三十一日頃被告人留藏方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ擅ニ

川東村宮村五郎ノ名義ヲ冒用シ其ノ名下ニ有合印ヲ捺捺シ債務者被告雅治債權者伊藤二藏金千二百三十六圓ノ貸金債務ヲ保證スル旨ノ保證契約書一通ヲ偽造シタルト右二藏方ニ判リ右保證契約證(證第一號)ハ真正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ之ヲ同人ニ交付シテ行使シ之ト引換ニ二藏ヲシテ自己ニ前示ル井菅ノ兩名ニ對スル抵當權附貸金債權ヲ讓渡セシメテ財産上不法ノ利益ヲ得タルノミナラス之カ貸金及擔保物件書類ヲ交付セシメテ其ノ騙取ノ目的ヲ遂ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲中私文書偽造ノ點ハ刑法第百五十九條第一項ニ偽造私文書行使ノ點ハ同法第百六十一條第一項第百五十九條第一項ニ詐欺ノ點ハ同法第百四十六條ニ各該當スルトコロ共犯ニ係ルヲ以テ同法第六十條ヲ適用シ以上ノ所爲ハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ其ノ最モ重キ詐欺罪ノ刑ニ從ヒ所定期間範圍内ニ於テ被告人雅治ヲ懲役六月ニ被告人留藏ヲ懲役四月ニ各處スヘク押收ニ係ル證第一號中偽造部分ハ本件偽造行爲ヨリ生シタル物件ニシテ何人ノ所有ニモ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第三號第二項ヲ適用シ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理由

被告人宮村雅治辯護人坂井正仁上告趣意書第三點原審判決理由中ニ「被告雅治ハ(中略)昭和九年三月三十日頃被告人留藏ト共謀ノ上ニ二藏方ニ於テ同人ノ爲債權取立ノ意思ナキニ拘ラス同人ニ對シ右京太郎惣次郎ハ他ヨリ差押ヲ受ケ返濟ヲ受クル能ハサル虞アリ其ノ辨濟期前ニ取立ノ必要アルヲ以テ

取立ノ爲右債權ヲ自己ニ讓渡スヘク之カ擔保ノ意味ニテ資産家宮村五郎保證ノ借用證書ヲ差入ルヘキ旨申詐リ右二藏ヲシテ其ノ旨誤信セシメ翌三十一日頃被告人留藏方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ擅ニ川東村宮村五郎ノ名義ヲ冒用シ其ノ名下ニ有合印ヲ押捺シ債務者被告人雅治債權者伊藤二藏金千二百三十六圓ノ貸金債務ヲ保證スル旨ノ保證契約書一通ヲ偽造シタル上右二藏方ニ到リ右保證契約證(證第一號)ハ真正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ之ヲ同人ニ交付シテ行使シ云々ト判示シ雅治カ留藏ト共謀ノ上私文書偽造行使ヲ爲シタル旨ノ事實ヲ認定シタリ宮村五郎ノ署名ハ被告雅治ニ於テ之ヲ爲シ印ハ同人有合印ヲ押捺シタルコトハ共ニ爭ハサル處ナルモ雅治ハ原審公判廷ニ於テ右行爲ハ五郎ヨリ豫テ依頼アリタルニヨリ署名捺印ノ代行ヲ爲シタルモノニシテ正當行爲ニシテ文書ノ真正ニ成立セルコトニ付缺クルコトナキ旨ノ主張ニ及ヒタレ共之ヲ認ムヘキ何モノモ本件記録ニ存セサルニヨリ一步ヲ讓ルモ宮村五郎カ爾後ニ於テ保證ニ付承認ヲ爲シタルコト同人ニ對スル司法警察官ノ聽取書ニヨリ明白ナリ然ラハ本件ノ如ク假ニ文書其ノモノノ成立ニ付僞ル處アルモ其ノ内容タル事實ノ真正ヲ害スルニ非サルトキハ文書偽造ノ罪成立セサルモノト云フヘシ何トナレハ文書偽造罪ヲ規定セル趣旨ハ事實ノ真正ヲ保護スルヲ以テ目的トシ吾人ノ公私生活ノ實質的安固ニ付保衡タルヲ以テ法タルノ生命ヲ維持スルモノナレハナリ從テ形ノ上ニ於テ缺クル處アルモ内容タル事實ノ真正ニ於テ毫末モ異ルコトナキ本件ニ付文書偽造ノ罪ヲ認定シ且之カ行使ノ罪ニ問ヒタルハ法ヲ不當ニ適用シタル謗ヲ免レス之モ亦

破毀セラルヘキモノトスト謂フニ在レトモ

【要旨】

苟モ行使ノ目的ヲ以テ他人ノ署名ヲ僞造シ有合印ヲ押捺シテ債務保證ニ關スル文書ヲ作成スル以上ハ直ニ文書僞造罪ヲ構成スヘク事後ニ於ケル名義人ノ承諾ニ因リ該文書ノ内容カ眞實ニ合致スルニ至レリトスルモ之カ爲同罪ノ成立ヲ阻却スルモノニ非ス然レハ所論ノ如ク縱令宮村五郎ニ於テ事後ニ至リ本件保證ニ付承諾ヲ爲シタリトスルモ斯カル事實ハ被告人ニ對スル判示文書僞造罪ノ成立ニ何等影響スルトコロナキカ故ニ原審カ被告人ノ判示行爲ヲ文書僞造竝僞造文書行使ノ罪ニ問擬シタルハ正當ニシテ原判決ニハ所論ノ如ク擬律錯誤ノ違法存スルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事佐々波與佐次郎關與

○猥褻郵便法違反被告事件(昭和十年、れ、第一五二一號 棄却)

【上告人】 被告人 堀 伊 十

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

刑法第七十五條ノ頒布罪ノ成立

○判決要旨

刑法第七十五條所掲ノ物ヲ郵便ニ依リ發送シタルモ到著セサル
トキハ同條ノ頒布罪ヲ構成セス

【參照】 郵便法第四十六條 郵便禁制品ヲ郵便物トシテ差出シタル者ハ五百圓以下ノ
罰金又ハ科料ニ處シ其ノ物件ヲ沒收ス

刑法第七十五條 猥褻ノ文書圖書其ノ他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳
列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル
者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金五百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト

能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス押收物件中檢領第三千二百一
號及檢領第四千四百八十號ノ各一中ノ寫真全部竝檢領第二千三百四十八號ノ一乃至二十九ハ之ヲ沒收
スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ肩書掲記ノ住居地ニ於テ中野商會又ハ中野清ノ名義ヲ以テ猥褻圖書類ノ通信販賣ヲ業トスルモノナルトコロ
第一 昭和九年十一月頃ヨリ昭和十年七月十三日頃迄ノ間大阪府泉北郡濱寺町船尾六百二十二番地ノ二久保勇外全國
各地ノ多數ノ註文者ニ對シ男女交接ノ姿態又ハ其ノ陰部ヲ描寫シタル風俗ヲ壞亂スヘキ寫真合計約三萬枚同上春畫
約百五十枚竝男女交接ノ模様等ヲ敘述シタル風俗ヲ壞亂スヘキ文書約二十二、三冊ヲ各小包郵便物等トシテ數回ニ
互リ大阪中央郵便局其ノ他ニ差出シ其ノ頃之ヲ同人等ニ配達セシメテ販賣シ以テ猥褻圖書ノ販賣及郵便禁制品ヲ郵
便物トシテ差出シ

第二 昭和十年二月十九日前掲住居ニ於テ販賣ノ目的ヲ以テ前同様ナル猥褻寫真三千五百十七枚春畫六十五枚竝淫本
十七冊(檢領第二千三百四十八號ノ一乃至二十九)ヲ所持シ

第三 同年三月十五日ヨリ同年五月十八日迄ノ間數回ニ互リ廣島市皆實町千四百四十四番地長尾敦外七千七百餘名ニ宛
テタル郵便物(案内狀)中ニ前同様風俗ヲ壞亂スヘキ猥褻寫真一枚宛(檢領第三千二百一號檢領第四千四百八十號
ノ各一中ノ寫真其ノ他)ヲ封入シ大阪中央郵便局及同天王寺郵便局ニ數回ニ差出シ以テ郵便禁制品ヲ郵便物トシテ
差出シ

タルモノニシテ被告人ノ判示所爲中猥褻圖書ノ販賣ト其ノ販賣目的ノ爲ノ所持トノ點竝郵便禁制品ヲ郵便物トシテ各
差出シタル點ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

刑法第七十五條ノ頒布罪ノ成立

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中猥褻文書圖畫ノ販賣ノ點ハ刑法第七十五條前段ニ同文書圖畫ヲ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタル點ハ同條後段ニ各該當シ以上ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ニ則リ之ヲ一罪トシ郵便禁制品ヲ郵便物トシテ差出シタル點ハ郵便規則第一條ノ二第一號郵便法第四十六條刑法第八條第五十五條ニ該當スルトコロ以上ハ其ノ間五ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ犯情重キ前者ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五百圓ニ處シ同法第十八條ニ則リ主文第二項ノ如ク罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場ノ留置期間ヲ定メ押收物件中檢領第三千二百一號同第四千四百八十號ノ各一中ノ寫眞ハ被告人カ郵便物トシテ差出シタル郵便禁制品ナルヲ以テ郵便法第四十六條ニ則リ之ヲ沒收シ檢領第二千三百四十八號ノ一乃至二十九ハ被告人カ本件犯罪中猥褻圖書販賣ノ目的ヲ以テ所持シタル犯罪ノ組成物件ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ刑法第十九條第一項第一號第二項ニ則リ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書主旨本件法律ノ適用ハ刑法第七十五條ニ據リ判決アラシコトヲ望ム理由第一審及第二審ハ被告ノ構成セル犯罪ヲ大ヲ罰セス小ヲ罰シ法ノ適用ヲ誤認セルコト充分ナリ申立人ハ春畫即チ猥褻ノ圖書ヲ頒布スルヲ目的トシテ犯罪セルニ法ノ適用ヲ郵便法規ニ依リ處斷セラレタルハ刑法ノ併合罪ノ主旨ニ反シ罪罰ノ多少ハ論セサルモ刑ノ減重ハ刑法ノ適用即チ刑法第七十五條ヲ以テ處斷

ヲ適當ト認ム依ツテ刑事訴訟法第四百十四條ノ誤認アルモノト思料スト云フニ在レトモ

【要旨】

刑法第七十五條ニ所謂頒布ノ罪ハ同條掲記ノ物件ヲ單ニ郵便物トシテ差出シタルヲ以テ足レリトセス之ヲ不定多數人ニ配付シタルコトニ依リテ成立スルモノトス原判示第三ニ依レハ被告人ハ所論郵便禁制品ヲ長尾敦外七千七百餘名ニ宛テタル郵便物中ニ封入シテ判示郵便局ニ差出シタルニ止ルモノニシテ之ヲ同人等ニ配付シタルコトハ原判決ノ認メサルトコロナルカ故ニ原判決カ之ヲ郵便法第四十六條ヲ以テ問擬シ刑法第七十五條ヲ以テ處斷セサリシハ洵ニ正當ナリ尙原判示事實ハ原判決擧示ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ證明シ得ヘク記録ヲ查スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナシ論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○恐喝被告事件(昭和十年(レ)第一五七三號 棄却)

七二 (140)

【上告人】 被告人 佐藤光治 辯護人 中尾芳助
【第一審】 岡山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

未決勾留日數通算ト刑ノ執行猶豫

○判決要旨

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲ス判決ニ於テ同時ニ未決勾留算入ノ言渡
ヲ爲スコトヲ妨ケス

【参照】 刑法第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタ
ルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫ス
ルコトヲ得

- 一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
 - 二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除
ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
- 同法第二十一條 未決勾留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人光治ヲ懲役六月ニ處シ原審未決勾留日數中
九十日ヲ右本刑ニ算入ス但シ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人横田貫三郎ハ昭和七年十二月中岡山市所在株式會社岡山日々新聞社カ經營困難ノ爲當時ノ社長西崎佐吉
ノ懇請ニヨリ同人所有ノ同社株式(同社株式總數千五百株)七百五十八株ヲ擔保トシテ金五百圓ヲ貸與シ同年末ノ
窮境ヲ救ヒタルカ其ノ後昭和八年一月ニ至リ遂ニ西崎ヨリ該株式ヲ代金三千圓ニテ買取ルコトトナシ西崎ニ代リ社
長トナリタルカ間モナク同年三月末頃西崎カ某信用組合理事長ノ援助ヲ受クルコトトナリタルヲ以テ再ヒ社長トシ
テ同社ヲ經營シ度キニヨリ前記株式ノ讓戻アランコトヲ懇請シタルニヨリ被告人ハ之ヲ承諾シ右株式ヲ西崎ニ讓戻
シ社長ノ地位ヲ去リタルモノナル處其ノ後西崎ノ右後援者ハ株式會社中國銀行常務取締役横昌ナル旨ノ噂アリタル
ニヨリ被告人ハ横昌ニ付其ノ眞否ヲ質シタルニ同人ハ之ヲ否認シタルニ拘ラス同年四月頃西崎ヨリ右株式ヲ讓受ケ
之ヲ自己腹心ノ坪田勇 岡田誠一 佐武憲一 茅野俊朗ノ名義トナシ同人等ヲ取締役ニ舉ケ坪田ヲ社長格トナシ同社ノ
經營ニ當ラシメタルヨリ被告人貫三郎ハ横昌ニ謀ラレタリトシ心中甚タ不快ヲ感シ居リタル折柄被告人荻野悦夫 井
上伯一ハ共ニ岡山日々新聞社從前ノ取締役ナルニ右坪田等新入ノ重役力之ヲ無視シ兎角專横ノ振舞ヲ爲ス爲同被告
人等モ亦横昌ノ措置ニ付少カラス憤慨セルヨリ遂ニ被告人横田貫三郎 荻野悦夫 井上伯一ノ三名ハ昭和八年十二月
頃ヨリ岡山市内ナル貫三郎方又ハ悦夫方ニ隨時會合シテ別ニ新聞紙ヲ發行シ前示中國銀行及横昌ヲ非難攻撃スル記
事ヲ掲載シ因テ横昌ヲ困惑畏怖セシメ岡山日々新聞經營ノ實權ヲ被告人等ニ回復シ且横昌ヲシテ同社經營ニ要スル
資金ヲ交付セシメントテ謀議シ被告人羽根岡仁平治ハ豫テ岡山日々新聞社ノ營業部長トシテ勤務シ居リタルモノ
ナルトコロ前記新入ノ常務取締役岡田誠一ノ爲突如一片ノ辭令ニヨリ誠首セラレタルヨリ前記ノ被告人等ト同様横
昌及其ノ一味ノ者ニ反感ヲ抱キ居リタル關係上昭和九年一月上旬頃被告人貫三郎等ノ前示ノ企畫ニ參加シ

未決勾留日數通算ト刑ノ執行猶豫

七三 (141)

茲ニ以上被告人貫三郎悦夫伯一仁平治ノ四名共謀シテ豫テ被告人伯一カ發行人兼編輯人名義ヲ被告人村崎昌平トナシ同人ヲシテ管理經營セシメ居ル月刊新聞經濟時報ヲ「肉彈」ト改題シ被告人貫三郎ニ於テ執筆シタル「發刊の辭」竝「呈榎昌氏不徳の註釋」及前記被告人等ヨリ材料ヲ提供シテ被告人龜山貫一ニ執筆セシメタル「株式會社中國銀行最高幹部の横暴振りを公開し併せて銀行各關係者に警告す及大原頭取の御膝下倉敷市に於て中國銀行前代未聞の大暴舉大晦日迫まる舊臘十二月二十三日二百名の市民を差押ふ」ナル見出ノ下ニ中國銀行ノ信用ヲ害シ榎昌ノ私行ヲ非難攻撃スル記事ヲ掲載シタル昭和九年一月二十八日附創刊號(證第一號)三千五百部及前同様被告人龜山貫一ヲシテ執筆セシメタル「敢へてわか最も尊敬する大原孫三郎氏に借問す」「感謝とお願ひ」「關係會社の内情暴露を恐れてか縣下に於ける有力なる言論機關の全權を掌握する爲め株式會社中國銀行最高幹部の傍若無人振り」「〇〇銀行常務取締役〇〇氏の桃色罪業記」「色と慾との二道かけて上流夫人縊る」「編輯後記」ナル見出ノ下ニ前同様記事ヲ掲載シ殊ニ右「感謝とお願ひ」中ニ於テ尙更ニ益々攻撃ノ度ヲ高メ且益々深刻ナル攻撃ヲ加フル旨ヲ豫告シタル昭和九年二月十三日附第二號(第二號證)三千部ヲ印刷發行シ各其ノ頃之ヲ岡山市及倉敷市内ニ配布シ次テ被告人貫三郎ニテ被告人悦夫伯一仁平治ヨリ榎昌ニ對スル交渉方ヲ一任セラレタル上同年二月末頃ヨリ四月下旬頃迄ノ間岡山市天瀬荒神町料亭菊中村又ハ中國銀行本店等ニ於テ榎昌ニ對シ直接又ハ情ヲ知リタル被告人佐藤光治ヲ介シテ岡山市々新聞社ノ株式五百株ヲ被告人貫三郎ニ提供シテ同社ノ經營ニ當ラシメ且其ノ經營資金トシテ現金五千圓ノ交付方ヲ要求シ若シ榎昌ニ於テ之ニ應セサルトキハ右新聞肉彈紙上ニ於テ更ニ前示ノ如キ非難攻撃ヲ續行スヘキ旨ヲ暗示シテ同人ヲ困惑畏怖セシメ因テ榎昌ヲシテ被告人貫三郎ニ岡山日々新聞社ノ株式百株ノ名義ヲ與ヘ同社ニ入社セシメテ其ノ經營ニ當ラシムルコト及同社ノ社屋移轉費名義ニテ金二千圓經營費名義ニテ金千圓ヲ交付スヘキコトヲ承諾セシメ

同年四月二十五日岡山市内山下中國銀行本店ニ於テ金二千圓同年七月二日同所ニ於テ金千圓ヲ被告人貫三郎ニ交付セシメテ以上被告人等ノ目的ヲ遂ケ

第二 被告人佐藤光治ハ大正七年岡山縣巡查ヲ拜命シ昭和六年以降岡山西警察署高等係刑事トシテ勤務中同八年七月頃ヨリ被告人横田貫三郎ヲ知ルニ至リ爾來同人ノ意氣ヲ愛シ機會アラハ之ヲ支援セント思ヒ居ル内貫三郎カ前記第一ノ如ク肉彈新聞紙ニ中國銀行及榎昌ヲ非難攻撃スル記事ヲ掲載シテ發行シタルコトヲ知ルヤ貫三郎ヨリ其ノ事情ヲ聽取シ右ハ同被告人等カ前記第一記載ノ如ク肉彈新聞ノ攻撃記事ニヨリ榎昌ヲ畏怖困惑セシメ因テ同人ヲシテ岡山日々新聞社經營ノ實權ヲ横田貫三郎ニ委シ同社經營資金ヲ提供セシムル目的ナルコトヲ知悉シ該目的ヲ遂ケシムル爲茲ニ貫三郎ノ前記ノ犯行ニ加擔シ其ノ意ヲ受ケ昭和九年二月下旬頃ヨリ同年四月下旬頃迄ノ間岡山市天瀬荒神町料理店菊中村又ハ中國銀行本店等ニ於テ貫三郎ト共ニ又ハ單獨ニテ屢々榎昌ニ會見シ同人カ前記肉彈新聞紙上ノ記事ニヨリ少カラス困惑セルニ乘シ同人ニ對シ岡山日々新聞社ノ株式五百株ヲ貫三郎ニ供與シテ同社ヲ經營セシメ且其ノ經營費トシテ五千圓ヲ同人ニ交付セラレ度キ旨申入レ若シ之ニ應セサルトキハ貫三郎等カ肉彈新聞紙上ニ於ケル前記ノ如キ非難攻撃ヲ繼續スヘキ旨ヲ暗示シテ榎昌ヲ畏怖セシメ因テ同人ヲシテ前記第一末尾記載ノ條項ヲ承諾セシメ貫三郎ニ對シ同上記載ノ如ク昭和九年四月二十五日岡山市内山下中國銀行本店ニ於テ金二千圓同年七月二日同所ニ於テ金千圓ヲ供與セシメ

タルモノナリ

法律ヲ案スルニ被告人光治ノ判示第二ノ所爲ハ刑法第六十條第二百四十九條第一項ニ該當スルヲ以テ所定期ノ範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷シ尙同法第二十一條ニヨリ原審未決勾留日數中九十日ヲ右本刑ニ算入シ被告人ニ付右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アリト認メ同法第二十五條ニヨリ三年間其ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

未決勾留日數通算卜刑ノ執行猶豫

○主 文
本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人中尾芳助上告趣意書第一點原判決ハ主文ノ内容ニ於テ矛盾スル所アルヲ以テ違法ナリ原判決主文ニハ云々被告人光治ヲ懲役六月云々ニ處ス原審未決勾留日數中九十日ヲ右本刑ニ算入ス但云々三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ストアリ御院判例ノ示サル所ニ依レハ未決勾留日數ノ算入ハ之ニ依リ本刑ノ分量ヲ變更スルモノニ非ス唯其ノ算入シタル日數ニ付右本刑ヲ執行シタルモノト看做スモノニ過キサレハ此ノ趣旨ヨリスレハ裁判所カ刑ノ執行猶豫ト共ニ未決勾留日數ノ算入ヲ宣言スルトキハ一面ニハ本刑全部ノ執行ヲ猶豫シ他面ニハ本刑ノ一部ヲ執行シタルモノト看做サルコトナルヲ以テ主文ノ内容矛盾スルモノトス之ニ對スル反對ノ見解ハ第一審判決ニ於テ未決勾留日數ノ算入ヲ宣言シタル場合ニハ第二審ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ宣言スルトキト雖尙右未決勾留日數ノ算入ヲ宣言スルコトヲ要ス然ラサレハ刑事訴訟法第四百三條ニ違背スルニ至ルヘシト云フニ在ルモ既ニ本刑全部ノ執行ヲ猶豫スル旨ヲ宣言スル以上ハ第一審判決ヲ被告人ノ利益ニ變更シタルモノナレハ本刑ノ一部ノ執行ヲ爲シタルモノト看做サル趣旨ノ宣言ヲ爲ササルモ之ヲ以テ第一審判決ヲ被告人ノ不利益ニ變更シタルモノト解スルヲ得ス唯刑ノ執行猶豫期間内被告人カ罪ヲ犯シ爲ニ前ニ執行ヲ猶豫セラレタル本刑ノ執行ヲ

受クヘキ場合ニ敍上二個ノ宣言ハ被告人ノ利益ニ歸ス即チ算入セラレタル未決勾留日數ニ付刑ヲ執行シタルモノ看做サルノ效果ヲ生スルモ第二審裁判所ハ當該被告事件ニ付適切ナル裁判ヲ爲スヲ以テ足レリトシ被告人カ後日更ニ犯罪ヲ爲スコトヲ豫想シテ裁判ヲ爲スヘキモノニ非サレハ假令被告人ニ對シ上記ノ利益生スルコトアリトスルモ之ニ依リ敍上二個ノ宣言ヲ爲スコトヲ得ルモノト解スルヲ得ス以上ノ理由ニ依リ原判決ハ破毀セラルヘキモノト思料スト云フニ在レトモ

【要旨】

刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ該猶豫ヲ取消サル場合アルコトヲ豫想セル條件附判決ナルカ故ニ其ノ主文中未決勾留日數通算ノ言渡アルトキハ是亦條件附ノモノニシテ本刑執行猶豫ノ取消ニ因リ其ノ刑ノ執行セラルヘキ場合ニ於テ右通算日數ハ既ニ執行シタルモノト看做サレ無事猶豫期間ヲ經過セル場合ハ刑ノ言渡其ノ效力ヲ失フ結果トシテ未決勾留モ通算ノ效果ヲ生スルモノニ非ス從テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲ス判決ニ於テ同時ニ未決勾留算入ノ言渡ヲ爲スモ所論ノ如キ矛盾アルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○恐喝被告事件(昭和十年(九)第一五三二號 棄却)

(昭和十年二月三日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 松浦勲作 辯護人 深作良治

【第一審】 八王子區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判示事項

合議裁判所ノ評議ト公判調書ノ記載

○判決要旨

合議裁判所評議ヲ爲シタルコトハ公判調書ノ必要的記載事項ニ非
ス

【参照】 刑事訴訟法第六十條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘ

シ

合議裁判所ノ評議ト公判調書ノ記載

- 公判調書ニハ左ノ事項其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ
 - 一 公判ヲ爲シタル裁判所及年月日
 - 二 判事、檢事及裁判所書記ノ官氏名並被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通事ノ氏名
 - 三 被告人出頭セザリシトキハ其ノ旨
 - 四 公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由
 - 五 被告事件ノ陳述及公判開廷中口頭ノ起訴アリタルトキハ其ノ要旨
 - 六 辯論ノ要旨
 - 七 第五十六條第二項ニ掲クル事項
 - 八 朗讀シ又ハ要旨ヲ告ケタル書類
 - 九 被告人ニ示シタル書類及證據物
 - 十 公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收
 - 十一 裁判長ノ記載ヲ命ジタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項
 - 十二 被告人若ハ辯護人最終ニ陳述シタルコト又ハ被告人若ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘタルコト
 - 十三 判決其ノ他ノ裁判ノ宣告ヲ爲シタルコト
- 同法第三百四十四條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月ニ處ス第二審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入ス第二審ニ於ケル訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ東京市淺草區土木請負業高橋組ノ配下ニシテ昭和七年春頃ヨリ東京府北多摩郡府中町ニ居住シテ土木請負業ヲ營ミ居ルモノナルトコロ右府中町ニ於テハ豫テ小學校新築ノ議アリ同町在住ノ大工、左官、土工等ハ其ノ工事ヲ引受クル爲相集リテ府中町職工組合ヲ組織シ昭和十年二月十八日頃同組合長高橋良助個人名義ヲ以テ右小學校新築工事を請負ヒ其ノ基礎工事を同組合員タル大熊平藏、土屋辰五郎等ニ金九千五百圓ニテ請負ハシメタルカ之ヲ聞知シタル被告人ハ曩ニ右組合ニ加入方ヲ勸誘セラレタルモ之ニ應セザリシニ拘ラス同月二十二日頃右大熊平藏、土屋辰五郎等ニ對シ被告人ヲモ右工事を参加セシメラレ度キ旨申込ミ之ヲ拒絶セララルヤ茲ニ右大熊平藏等カ被告人ノ所屬セル高橋組ヲ畏怖シ居ルニ乘シ同人等ヨリ金員ヲ喝取センコトヲ企テ同月二十四、五日頃右大熊平藏ノ意ヲ承ケテ被告人ノ肩書居宅ニ來訪セル秋山梅吉カ被告人ニ對シ府中町小學校ノ工事を引キ大熊平藏等ヲシテ穩カニ該工事を爲サシメラルルヤウ依頼スルヤ被告人ハ右秋山梅吉ニ對シ金三百圓ノ提供ヲ迫リ之ニ應セサレハ手ヲ引カサルハ勿論大熊平藏等ノ右工事を妨害ヲ爲スカ如キ氣勢ヲ示シ以テ右秋山梅吉ヲ介シテ大熊平藏ヲシテ其ノ旨畏怖セシメタル結果同月二十八日同町料理店萬屋ニ於テ同人ヨリ金二百圓ヲ自己ニ交付セシメテ之ヲ喝取シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十九條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處シ同法第二十一條ニヨリ當審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入シ當審ニ於ケル訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

尙第二審第二回公判調書ニハ裁判長ハ前回留保シタル證人申請ハ全部之ヲ却下スル旨ヲ告ケタリト記

載アルノミニテ其ノ決定ニ付合議ヲ爲シタル事實ノ記載ヲ缺如ス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人深作貞治上告趣意書第二點原審公判調書ヲ閱スルニ其ノ第一回公判ニ於テ辯護人ハ證人トシテ府中町長 土屋辰五郎 秋山梅吉 ヲ喚問アリタキ旨ノ證據申請ヲ爲シタルニ對シ原審裁判所ハ土屋辰五郎ヲ喚問スルノ決定ヲ爲シ他ノ證人申請ニ對シテハ之カ決定ヲ留保シタルモノナリ(記錄第一九一丁)然ルニ第二回公判調書ニハ「裁判長ハ前回留保シタル證人ハ全部之ヲ却下スル旨宜シ事實證據調濟ノ旨ヲ告ケタリ」(記錄第二一八丁)ト記載シアリテ前回公判ニ於テ留保シタル證據決定ハ裁判長單獨ニテ之ヲ却下シタルモノナリトス然レトモ合議裁判所ニ於テ證據申出ニ對スル許否ノ決定ヲ爲スニハ裁判所ノ合議ニ依ルヘキモノニシテ裁判長單獨ニテ之ヲ決定スヘキモノニアラス從ツテ裁判所ノ合議ニ依ラス裁判長單獨ニテ許否ノ決定ヲ爲シタル場合ハ該決定ハ無効ナリト謂ハサルヘカラス然ラハ原審裁判所ニ於テハ前回ノ公判ニ於テ許否ノ決定ヲ留保シタル證據調ノ申請ニ對シテハ適法ノ決定ヲ爲サスシテ結審判決ヲ爲シタルコトトナリ公判手續上重大ナル違法アルモノトス然ラハ原判決ハ此ノ違法ノ公判ニ基キ下サレタルモノナルヲ以テ破毀セラルヘキモノナリト信スト云フニ在リテ

【要旨】

刑事訴訟法第三百四十四條第一項ニ依レハ證據調ノ請求却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘク從ツテ合議裁判所ニ於テハ定數判事ノ評議ニ基キ之ヲ言渡スヘキモノナルコト所論ノ如シト雖該評議ノ事實ハ刑事訴訟法第六十條所定ノ公判調書ニ明記スヘキ必要事項ニアラサルヲ以テ單ニ其ノ記載ナキノ一事ニ依リ直ニ評議ヲ爲ササリシモノト速斷スルヲ許サス殊ニ本件證據調ノ請求ハ第一回公判廷ニ於テ爲サレ其ノ却下ハ第二回公判廷ニ於テ宣告セラレタルモノナルコト記錄上明白ナルヲ以テ裁判長ハ既ニ法廷外ニ於テ成立シ居タル評議ニ基キ却下決定ヲ宣告シタルモノト認ムルヲ以テ當ヲ得タル自然ノ論結ナリト謂ハサルヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事秋山要關與

○背任被告事件(昭和十年(九)第一五四九號) 棄却

【上告人】 被告人 鈴木熊吉 辯護人 小淵方輔
【第一審】 靜岡地方裁判所濱松支部 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

刑法第二百四十七條ニ所謂他人ノ爲其ノ事務ヲ處理スル者ノ意義

○判決要旨

刑法第二百四十七條ニ所謂他人ノ爲其ノ事務ヲ處理スル者トハ獨
リ本人トノ雇傭關係其ノ他直接ノ法律關係ニ基キ本人ノ事務ヲ處
理スル者ノミナラス如キ直接ノ事務處理者ヲ通シテ間接ニ
其ノ處理ニ當ル者ヲモ包含スルモノトス

【參照】 刑法第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利
益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ
財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年六月ニ處ス(訴訟費用負擔ノ點

省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人山田稔ハ昭和二年二月頃ヨリ昭和八年九月頃迄磐田郡袋井町高尾袋井運送株式會社ニ雇ハレ到著係トシテ同運
送會社取扱ニ係ル貨物ノ保管及引渡ノ事務ヲ擔當シ居リタルモノナルトコロ貨物引換證荷替爲附貨物ノ取扱ヲ爲スニ
際シテハ荷送人ニ對シ貨物引換證ト引換ニ非サレハ荷受人ニ貨物ノ引渡ヲ爲スヘカラサル任務ヲ有スルニ拘ラス其ノ
任務ニ背キ當時袋井町ニ於テ米穀肥料商ヲ營メル被告人鈴木熊吉ト共謀ノ上同被告人ヲ荷受人トシ同運送會社ヲ著荷
取扱店トシテ荷爲替附ニテ運送セラレタル貨物ヲ貨物引換證ト引換ニ非スシテ被告人鈴木ニ引渡シ以テ同人ニ利益ヲ
得シメントラ企テ

(一) 昭和八年六月二十日同運送會社ニ到著セル棘粕百三俵荷送人富山縣射水郡伏木町滿鮮貿易株式會社荷爲替手形
金額千二百五十圓

(二) 同月二十六日到著セル棘粕百一俵荷送人函館市東濱町鈴木信治荷爲替手形金額千百十三圓二十三錢

(三) 同年七月十三日到著セル蓬萊米百六十五俵荷送人名古屋市西區木挽町株式會社加藤商會荷爲替手形金額千三百
二十四圓九十五錢

(四) 同月三十日到著セル蓬萊米百六十五俵荷送人愛知縣知多郡龜崎町細谷信平荷爲替手形金額千百五十九圓九十五
錢

(五) 同月二十一日到著セル蓬萊米百六十五俵荷送人前示細谷信平荷爲替手形金額千百八十八圓

(六) 同月一日到著セル越前米百二十八俵荷送人福井縣南條郡武生町岸本彌吉荷爲替手形金額千三十八圓二十錢

(七) 同月七日到著セル棘粕八十三俵荷送人前示鈴木信治荷爲替手形金額七百七十五圓七十九錢

(八) 同月十九日到著セル蓬萊米百六十五俵荷送人橫濱市中區花咲町株式會社望月商店荷爲替手形金額千百八十圓

刑法第二百四十七條ニ所謂他人ノ爲其ノ事務ヲ處理スル者ノ意義

- (九) 同日到着セル越前米百六十俵荷送人福井縣坂井郡金津町田端直吉荷爲替手形金額千二百六十四圓
- (十) 同日到着セル越前米百六十俵荷送人前示田端直吉荷爲替手形金額千二百四十八圓
- (十一) 同日到着セル蓬萊米百六十五俵荷送人前示細谷信平荷爲替手形金額千九百九十一圓三十錢
- (十二) 同年八月二十九日到着セル蓬萊米百六十五俵荷送人靜岡縣庵原郡興津町田中辰治郎荷爲替手形金額千四百三十三圓四十五錢

ナル被告人鈴木熊吉宛ナル荷爲替附貨物ヲ夫々其ノ到着ノ日時頃貨物引換證ト引換ニ非スシテ被告人鈴木ニ引渡シ因テ右各荷送人ニ對シ夫々其ノ荷爲替手形金額ニ相當スル損害ヲ蒙ラシメタルモノニシテ被告人山田ノ右各背任行爲及被告人鈴木ノ之ニ加功シタル行爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人鈴木熊吉ノ判示所爲ハ刑法第二百四十七條第六十條第五十五條及同法第六十五條第一項ニ該當スルヲ以テ右被告人ニ對シ懲役刑ヲ選擇シ其ノ所定期限範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役一年六月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人小淵方輔上告趣意書第一點原判決ハ漫然荷送人ト相被告山田稔トノ關係ヲ認メタルモ荷送人トノ法律上當事者ハ袋井運送株式會社ニシテ山田稔ニアラス然リトセハ該運送會社ノ營業上ノ實權ハ當時ノ取締役清水義久ノ掌中ニアリタルコト同人ノ檢事調書ノ供述中貨物引替證ト引換ニ渡スヤ否ヤハ同人ノ專斷ナリシ旨ノ供述證人後藤達也 鹽谷桑平ノ供述ノ等シク一致スル處ニシテ山田稔ハ其ノ命

ノ儘ニ事ヲ處理シタルモノニシテ同人ハ前記會社ト雇傭關係ニ立チタルモノニシテ荷送人ト法律上何等ノ關係ナク且ツ貨物引換證所持人ニ對シテモ同様間接責任ナリトスサレハ本件ニ付處罰上ノ責任ヲ負フ可キモノハ前記清水ニシテ被告山田稔ニ非ス然ルヲ同人ト上告人ノ共犯關係ヲ認定セル原判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ

【要旨】

刑法第二百四十七條ニ所謂他人ノ爲其ノ事務ヲ處理スル者トハ獨リ本人トノ雇傭關係其ノ他直接ノ法律關係ニ基キ本人ノ事務ヲ處理スル者ノミナラス斯クノ如キ直接ノ事務處理者ヲ介シテ間接ニ其ノ處理ニ當ル者ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス而シテ原判示事實ニ依レハ原審相被告人山田稔ハ判示袋井運送株式會社ニ雇ハレ到着係トシテ間接ニ判示各貨物發送人ノ爲ニ同運送會社取扱ニ係ル貨物ノ保管及引渡ノ事務ヲ擔當シ居タル者ニ外ナラサルヲ以テ其ノ者カ荷受人タル被告人ノ利益ヲ圖リ其ノ任務ニ背キ貨物引換證ノ交付ヲ受ケスシテ貨物引換證表示ノ貨物ヲ被告人ニ引渡シ因テ各荷送人ニ對シ損失ヲ加ヘタル旨ノ原判示事實ハ正ニ背任罪ニ該當スヘキコト論ナク從テ右行爲ニ加功シタル被告人亦右罪責ヲ免カル能ハサルヤ極メテ明白ナリ原判決ニ所論ノ如キ違法ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事秋山要關與

○贈賄收賄被告事件(昭和十年(九)第一四九八號 棄却)

(昭和十年二月十日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 増田 辰 記 辯護人

外五名

天野 頼 義
佐々木 好 秀
栗田 又 好
中村 又 好
一雄

【第一審】 御船區裁判所 【第二審】 熊本地方裁判所

○判示事項

贈賄者ニ對スル沒收又ハ追徴

○判決要旨

賄賂ノ物體力贈賄者ニ返還セラレタルトキハ贈賄者ヨリ之ヲ沒收シ贈賄者ヨリ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ者ヨリ價額ヲ追徴ス

【参照】 刑法第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス
同法第九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人益田辰記ヲ懲役八月被告人宮崎勝平同川部清彦ヲ各懲役五月被告人栗永傳十同松永正夫ヲ各懲役三月被告人木村德藏ヲ懲役一月ニ處シ被告人増田辰記同栗永傳十ヨリ各金三十圓同松永正夫ヨリ金二十圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人本田米藏同古閑繁樹同染田政之同栗永傳十ヲ除ク爾餘ノ被告人等ハ孰レモ熊本縣上益城郡七瀧村村會議員ニシテ村長選舉ノ職務ヲ有スルモノナリシトコロ同村村會ニ於テ其ノ村長タル被告人増田辰記ノ任期滿了ニヨリ昭和十年一月十二日其ノ後任村長ヲ選舉スルコトト爲リ其ノ際政友派ヨリ被告人増田辰記同岩田健藏ノ兩名國民同盟派ヨリ福田鼎カ夫々村長候補者トシテ立候補スルニ至リタル爲十八名ノ同村村會議員ノ分野三分シ勝敗ノ數逆睹シ難キ情勢ニ在リタルカ

第一 被告人増田辰記ハ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ犯意ヲ繼續シテ

贈賄者ニ對スル沒收又ハ追徴

其ノ一 被告人宮崎勝平同川部清彦ト共謀ノ上村會議員買收費トシテ前後二回ニ計金三百八十圓ヲ右被告人兩名ニ手交シ同被告人兩名ヲシテ後掲第二ノ其ノ一ノ記載ノ如ク同村村會議員タル清田辰清及被告人久保田卯太郎同宮村一岡木村德藏同永野秀雄同松岡和氣太郎同澤田芳松ニ對シ村長選舉ニ際リ自己ニ投票シ吳ルル様請託ヲ爲サシメ其ノ謝禮トシテ各金三十圓ヲ提供又ハ交付セシメ以テ同人等ノ職務ニ關シ贈賄シ

其ノ二 被告人古閑繁樹ト共謀ノ上村會議員買收費トシテ金百圓ヲ右被告人ニ手交シ同被告人ヲシテ昭和十年一月十二日同村役場ニ於テ村會議員タル被告人上林三郎ニ對シ村長選舉ニ際リ自己ニ投票シ吳ルル様請託ヲ爲サシメ其ノ謝禮トシテ金五十圓ヲ交付セシメ以テ上林三郎ノ職務ニ關シ贈賄シ

第二 被告人宮崎勝平同川部清彦ハ犯意ヲ繼續シテ

其ノ一 前掲第一ノ其ノ一記載ノ如ク被告人増田辰記ト共謀ノ上同被告人ヨリ計金三百八十圓ヲ受取リ

(一) 昭和九年十二月初旬頃同村村會議員タル同村清田辰清方ニ於テ同人ニ對シ村長選舉ニ際リ増田候補者ニ投票セラレ度キ旨請託シ其ノ謝禮トシテ宮崎被告人ノ手ヲ經テ金三十圓ヲ提供シ以テ清田辰清ノ職務ニ關シ贈賄シ

(二) 同月初旬頃村會議員タル同村被告人久保田卯太郎方ニ於テ同人ニ對シ前同様ノ請託ヲ爲シ其ノ謝禮トシテ川部被告人ノ手ヲ經テ金三十圓ヲ交付シ以テ久保田卯太郎ノ職務ニ關シ贈賄シ

(三) 同月初旬頃村會議員タル同村被告人宮村一岡方ニ於テ同人ニ對シ前同様ノ請託ヲ爲シ其ノ謝禮トシテ川部被告人ノ手ヲ經テ金三十圓(證第一號)ヲ交付シ以テ宮村一岡ノ職務ニ關シ贈賄シ

(四) 同月中旬頃同村役場附近ニ於テ被告人宮崎勝平ニ於テ村會議員タル被告人木村德藏ニ對シ前同様ノ請託ヲ爲シ其ノ謝禮トシテ金三十圓ヲ同村村會議員タル鶴野信太郎ニ同趣旨ノ下ニ交付スヘキ金三十圓ト共ニ交付シ

シ以テ木村德藏ノ職務ニ關シ贈賄シ

(五) 同月二十四、五日頃被告人川部清彦方ニ於テ同被告人ノ手ヲ經テ村會議員タル被告人永野秀雄ニ對シ前同様ノ請託ヲ爲シ其ノ謝禮トシテ金三十圓ヲ交付シ以テ永野秀雄ノ職務ニ關シ贈賄シ

(六) 同月中旬村會議員タル同村被告人松岡和氣太郎方ニ於テ同人ニ對シ右永野被告人ノ手ヲ經テ前同様ノ請託ヲ爲シ其ノ謝禮トシテ金三十圓ヲ交付シ以テ松岡和氣太郎ノ職務ニ關シ贈賄シ

(七) 昭和十年一月七日頃同村代區道路ニ於テ被告人宮崎勝平ノ手ヲ經テ村會議員タル被告人澤田芳松ニ對シ前同様ノ請託ヲ爲シ其ノ謝禮トシテ金三十圓ヲ交付シ以テ澤田芳松ノ職務ニ關シ贈賄シ

其ノ二 被告人永野秀雄ト共謀ノ上同被告人ヲシテ昭和十年一月五日頃村會議員タル被告人澤田芳松同上林三郎ニ對シ村長選舉ニ際リ増田候補者ニ投票セラレ度キ旨請託ヲ爲サシメ其ノ謝禮トシテ熊本市二本木町遊廓相生樓事雨森アイ方ニ於テ各一人前金二十圓相當ノ飲食遊興ヲ爲サシメ以テ澤田芳松 上林三郎ノ職務ニ關シ贈賄シ

(中略)

第五 被告人澤田芳松ハ犯意ヲ繼續シテ

(中略)

其ノ三 昭和九年十二月三日頃同村被告人松永正夫方ニ於テ同被告人及被告人栗永傳十ヨリ村長選舉ニ際リ候補者岩田健藏ニ投票シ吳レ度キ旨ノ請託ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ謝禮トシテ被告人栗永傳十ノ手ヲ經テ金十圓ヲ收受シ以テ其ノ職務ニ關シ收賄シ

第六 被告人宮村一ハ犯意ヲ繼續シテ

贈賄者ニ對スル沒收又ハ追徴

(中略)

其ノ三 昭和九年十二月二十八日頃同村ノ自宅ニ於テ被告人栗永傳十ヨリ村長選舉ニ際リ岩田候補者ニ投票シ吳レ度キ旨ノ請託ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ謝禮トシテ被告人栗永傳十ノ手ヲ經テ金二十圓ヲ收受シ以テ其ノ職務ニ關シ收賄シ

第七 被告人木村德藏ハ

前掲第二ノ其ノ一ノ(四)記載ノ如ク其ノ趣旨ヲ諒シ金三十圓ヲ收受シ以テ其ノ職務ニ關シ收賄シ

第八 被告人久保田卯太郎ハ犯意ヲ繼續シテ

其ノ一 前掲第二ノ其ノ一ノ(二)記載ノ如ク其ノ趣旨ヲ諒シ金三十圓ヲ收受シ以テ其ノ職務ニ關シ收賄シ

其ノ二 昭和九年十二月十八、九日頃同村自宅ニ於テ被告人松永正夫同栗永傳十ヨリ村長選舉ニ際リ岩田候補ニ投票シ吳レ度キ旨ノ請託ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ謝禮トシテ同人等ヨリ金二十二圓ヲ收受シ以テ其ノ職務ニ關シ收賄シ

(中略)

第十三 被告人中内學同栗永傳十同松永正夫ハ岩田候補者ヲ當選セシムル目的ヲ以テ共謀ノ上右中内學ヨリ村會議員

買收費トシテ前後二回ニ計金五十圓ヲ被告人栗永傳十同松永正夫ニ手交シ犯意ヲ繼續シテ

其ノ一 前掲第五ノ其ノ三記載ノ如ク被告人澤田芳松ニ對シ金十圓ヲ交付シ以テ同被告人ノ職務ニ關シ贈賄シ

其ノ二 同第六ノ其ノ三記載ノ如ク被告人宮村一ニ對シ金二十圓ヲ交付シ以テ同被告人ノ職務ニ關シ贈賄シ

其ノ三 同第八ノ其ノ二記載ノ如ク被告人久保田卯太郎ニ對シ金二十圓ヲ交付シ以テ同被告人ノ職務ニ關シ贈賄シ

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人増田辰記同宮崎勝平同川部清彦同栗永傳十同松永正夫ノ判示贈賄ノ所爲ハ夫々刑法第九十八條第一項第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ右被告人等ニ對シテハ孰レモ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人増田辰記ヲ懲役八月ニ被告人宮崎勝平同川部清彦ヲ各懲役五月ニ被告人栗永傳十同松永正夫ヲ各懲役三月ニ被告人木村德藏ヲ判示收賄ノ所爲ハ同法第九十七條第一項前段ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人木村德藏ヲ懲役一月ニ處スヘク被告人久保田卯太郎ノ收受シタル判示第八ノ其ノ一ノ賄賂金三十圓ハ被告人増田辰記ニ被告人澤田芳松ノ收受シタル判示第五ノ其ノ三ノ賄賂金十圓及被告人久保田卯太郎ノ收受シタル判示第八ノ其ノ二ノ賄賂金二十圓ハ被告人栗永傳十ニ被告人宮村一ノ收受シタル判示第六ノ其ノ三ノ賄賂金二十圓ハ被告人松永正夫ニ返還セラレ而モ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ前同條第二項後段ニ則リ主文掲記ノ如ク夫々其ノ價額ヲ追徴スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人増田辰記同宮崎勝平同川部清彦辯護人天野頼義同佐々木秀雄上告趣意書第一點原判決ハ證據理由不備ノ違法アリ原判決ハ其ノ主文ニ於テ「被告人増田辰記ヨリ金三十圓ヲ追徴ス」ル旨言渡シタリ然レ共原判決認定ノ事實ニ依レハ「被告人増田辰記ハ自己カ居村長トシテ當選スルノ目的ヲ以テ被告人宮崎勝平同川部清彦又ハ被告人古閑繁樹ト共謀ノ上判示村會議員ニ對シ村長選舉ニ際リ自己ニ投票シ吳ル様請託シ其ノ謝禮トシテ金員ヲ提供若クハ交付シタリ」ト言フニアリテ被告増田辰記ハ贈賄者ニシテ收賄者ニ非サルヲ以テ同被告人ヨリ其ノ賄賂ノ價格ヲ追徴スルニハ

贈賄者ニ對スル沒收又ハ追徴

同被告人カ賄賂トシテ既ニ收賄者ニ交付シタル金品カ同被告人ニ返還セラレタル場合ナラサルヘカラス蓋シ追徴ハ沒收不能ノ場合ニ於ケル特別ノ執行方法ニシテ沒收ト同一ニ論スヘキモノナルカ故ニ(泉二博士著 日本刑法論總論第四十三版九一六頁參照)追徴ノ言渡ハ沒收ノ言渡即チ財産刑ノ言渡ト云フヘク刑ノ言渡ヲ爲スニハ被告人増田カ交付シタル賄賂カ收賄者ヨリ同被告人ニ返還セラレタルコト及沒收不能ノ事實ヲ確定シ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說示セサルヘカラスハ明カナリ然ルニ原判決ハ被告人増田カ右追徴金ニ相當スル賄賂金ノ返還ヲ受ケタル事實ヲ何等舉示スルコトナク法令ノ適用ノ說示ノ部ニ於テ「被告人久保田卯太郎ノ收受シタル判示第八ノ其ノ一ノ賄賂金三十圓ハ被告人増田辰記ニ返還セラレ而モ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ刑法第九十七條第二項後段ニ則リ主文掲記ノ如ク其ノ價格ヲ追徴スヘクトアルニ止マル只ニ被告人増田辰記カ原審相被告人久保田卯太郎ヨリ賄賂金三十圓ノ返還ヲ受ケタル日時場所等ノ事實ヲ舉示セサルノミナラス證據說明ハ全然之ヲ爲ササルヲ以テ證據理由不備ノ違法アルモノニシテ破毀セラルヘキモノナリト云フニ在レトモ

追徴ハ犯罪構成事實ト異リ單ニ附加刑タル沒收不能ノ場合ニ於ケル特別ノ執行方法ニ過キサルヲ以テ判文上何故ニ被告人増田辰記ヨリ追徴スルカノ理由ヲ說示スルヲ以テ足り其ノ證據說明ハ勿論日時場所等ノ如キモ亦特ニ舉示スルノ要ナキモノトス而シテ原判文ニ依レハ原審相被告人久保田卯太郎ノ收受シタル判示第八ノ其ノ一ノ賄賂金三十圓ハ被告人増田辰記ニ返還セラレ而モ辰記ヨリ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ其ノ價格ヲ追徴スル旨ノ記載アリテ理由ノ明示ニ缺クルトコロナク原判決ニ理由不備ノ違法ナシ論旨理由ナシ

第三點原判決ハ擬律錯誤ノ違法アルモノトス原判決ハ其ノ主文ニ於テ「被告人増田辰記……ヨリ金三十圓ヲ追徴ス」ト言渡シ其ノ理由ニ於テ「被告人久保田卯太郎ノ收受シタル判示第八ノ其ノ一ノ賄賂金三十圓ハ被告人増田辰記ニ……返還セラレ而モ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ刑法第九十七條

第二項後段ニ則リ主文掲記ノ如ク其ノ價格ヲ追徴スヘキモノトス」ト判示シタリ然レトモ刑法第九十七條第二項ニハ「前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス」ト規定シアリテ同條ニ依リ其ノ價格ヲ追徴スルニハ不正ニ得タル利益ナラサルヘカラス然ルニ本件ニ付キ之ヲ觀ルニ被告人増田辰記ハ被告人宮崎勝平同川部清彦ト共謀ノ上村會議員タル被告人久保田卯太郎ニ對シ村長選舉ニ際リ増田候補者ニ投票セラレタキ旨請託ヲ爲シ其ノ謝禮トシテ川部被告人ノ手ヲ經テ金三十圓ヲ交付シテ贈賄シ久保田被告人ハ其ノ趣旨ヲ諒シテ之ヲ收受シ其ノ職務ニ關シ收賄シ」ト認定シアリテ判示金員ハ一旦久保田被告人ニ於テ之ヲ收受シタルモ同人ハ之ヲ贈賄者ニ返還シタル以上不正ニ利益ヲ得タルモノニアラサルハ勿論贈賄者トシテハ自己ノ金員ハ自己ニ返還セラレタルニ止マリ之又毫厘モ不正ノ利益ヲ得タルニアラサルナリ然ルニ原判決ハ被告人増田辰記ハ久保田被告人ヨリ判示金員カ返還セラレタリトノ一事ヲ以テ増田被告人カ之カ爲メ不正ニ利益ヲ得タルモノナリト斷シ前記法條ニ則リ同被告人ヨリ之カ價格ヲ追徴スル旨言渡シタルハ結局擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

賄賂金品カ收賄者ノ手ニ在ルトキハ收賄者ヨリ之ヲ沒收シ若シ贈賄者ニ返還セラレタルトキハ贈賄者ヨリ之ヲ沒收スヘク沒收ヲ科セラルヘキ者ヨリ之ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ者ヨリ價格ヲ追徴スルヲ要スルコト夙ニ當院判例(大正十年(れ)第一六二四號瀆職被告事件大正十一年四月二十二

日刑事聯合部判決)ノ是認スルトコロナルヲ以テ賄賂金三十圓カ贈賄者タル被告人増田辰記ニ返還セラレ而モ同人ヨリ之ヲ沒收スルコト能ハサル事實ヲ認定シタル原審カ同被告人ニ對シ其ノ價格金三十圓ノ追徴ヲ命シタルコト固ヨリ正當ニシテ原判決ニ擬律錯誤ノ違法ナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事秋山要關與

○工業組合法違反被告事件(昭和十年(九)第一五八四號
同十一年二月十日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 加藤 記夫 辯護人 酒井俊雄
【第一審】 名古屋區裁判所 【第二審】 名古屋地方裁判所

○判示事項

工業組合法第八條違反ト緊急避難ノ成否

○判決要旨

瀬戸陶磁器工業組合ノ地域内タル陶磁器製造販賣ヲ業トスル非組合員ハ工業組合法第八條所定ノ取締又ハ制限ニ從フニ於テハ自己ノ製産額ヲ著シク減少スルモ之ニ違反スル行爲ハ緊急避難ヲ以テ目スヘキモノニ非ス

【参照】 刑法第三十七條 自己又ハ他人ノ生命身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス
工業組合法第八條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ又ハ矯正スル爲テ必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ工業組合ノ組合員又ハ其ノ組合ノ組合員ニ非スシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ從フヘキコトヲ命スルコトヲ得

同法第四十二條 第八條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

工業組合法第八條違反ト緊急避難ノ成否

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ノ事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ罰金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ瀬戸陶磁器工業組合ノ地域内タル瀬戸市大字瀬戸三千十番地及愛知縣東春日井郡水野村大字中水野ノ二個所ニ於テ陶磁器製造販賣ヲ營ム者ニシテ右組合ノ非組合員ナルトコロ昭和十年二月七日及同年三月十二日ノ二回ニ互リ右組合理事長鈴木舜二ヨリ工業組合法ニ基キ日本陶磁器工業組合聯合會及瀬戸陶磁器工業組合ノ統制品種タル

(一) 電氣用ノツブノ生産數量ニ付

(1) 昭和十年二月一日ヨリ同十五日迄
一千七百六十九個以内

(2) 同年二月十六日ヨリ同月末日迄
無

(3) 同年三月一日ヨリ同月十五日迄
無

(4) 同年三月十六日ヨリ同月末日迄
二千六百五十四個以内

(二) 電氣用内線器具ノ生産數量ニ付

(1) 昭和十年二月一日ヨリ同月末日迄

五千五百十四個以内

(2) 同年三月一日ヨリ同月末日迄
五千五百十四個以内

ノ割當ヲ受ケ右數量ヲ超過シテ製造スル事ヲ得ヌ又之カ製品販賣ニ付瀬戸陶磁器工業組合ノ共同販賣ニ附シ且日本陶磁器工業組合聯合會ノ製品検査ヲ受クヘキ旨ノ通告ヲ受ケタルニモ拘ラス昭和十年二月七日頃ヨリ同年三月二十七日頃ニ至ル迄前後數回ニ互リ前記瀬戸市大字瀬戸三千十番地及愛知縣東春日井郡水野村大字中水野所在ノ各工場ニ於テ被告人ニ對スル右割當數量ヲ遙カニ超過シ

(一) 電氣用ノツブ二十二萬二千百個
内 譯

(1) 電氣用ノツブ竝ニ二九六品
三萬九千六百個

(2) 東邦ノツブ (直徑三十五ミリメートル
高サ五十五ミリメートル)
十八萬二千五百個

(二) 電氣用内線器具一萬八千五百四十個
内 譯

(1) 輸出向モーガルソケット
四千七百九十三個

(2) 東電型レセツブタクル
工業組合法第八條違反ト緊急避難ノ成否

七千八百七個

(3) 輸出向キーンケット

三千九百十五個

(4) 小型ガンダスキツチ

二千二十五個

ヲ製造シ右製品中東電型レセツブタクル二千六百四十七個ヲ除キ其ノ餘ノ製品ニ付テハ所定ノ製品検査ヲ受ケス且瀬戸陶磁器工業組合ノ共同販賣ニ附スルコトナクシテ其ノ頃被告人ニ於テ直接東京市、大阪市、名古屋市等ニ搬出シ賣却シタルモノナリ

辯護人ハ被告人カ判示ノ如キ犯行ニ出テタルハ瀬戸陶磁器工業組合ヨリ被告人ニ對スル製品割當數量内ノ製造ヲ爲スノミニテハ其ノ生計ヲ維持スル能ハス自己及家族ノ生命ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲己ムコトヲ得サルニ出テタル所謂緊急避難行爲ナレハ被告人ハ無罪タルヘキモノナリト主張スレトモ該事由ハ未タ以テ刑法第三十七條第一項ニ所謂緊急避難行爲トハ認め難キヲ以テ右主張ハ之ヲ採用セス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ工業組合法第八條同法施行規則第二十條昭和九年六月二十六日商工省告示第三十三號昭和六年六月二十九日同省告示第三十二號及工業組合法施行規則第二十一條ニ違反シ工業組合法第四十二條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定罰金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處スヘク尙右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ罰金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人酒井俊雄上告趣意書原判決ハ被告人ヲ工業組合法違反トシテ問擬シ罰金三十圓ニ處シタリ然レトモ此ハ原審ニ於テ法規ノ適用ヲ誤リタルモノニシテ被告人ノ行爲ハ刑法第三十七條第一項前段ノ適用ヲ受クヘキモノナリ即チ被告人ハ陶磁器ノ製造販賣ヲ業トスル者ニシテ瀬戸陶磁器工業組合ノ非組合員ナル處右組合ニ於テハ被告人ニ對シテ昭和十年二月ニ至ル迄同組合ノ統制品ノ生産割當ヲ爲サス又被告人ノ販賣品仕入註文ニモ殆ト應セス同年二月ニ至リ始メテ原審記録ニ記載ノ如キ僅少ノ生産割當ヲ爲シタリ然レトモ此ノ割當數ノ生産ヨリ得ラルル製造利益ハ一ヶ月當リ金六圓程度ニ過キサレモノニシテ之ヲ以テ一家ノ生活ヲ支ヘンコトハ全ク不可能ナリシカモ瀬戸陶磁器組合ハ其ノ地域内ニ於テ製造販賣スル陶磁器ノ殆ト總テノ種類ヲ統制品トシテ定メ尙偶々新規ナル考案等ニヨリ統制品以外ノ品種ノ製作等ヲ爲スモノアレハ右組合ハ直チニ之ヲ統制品トシテ指定スルヲ以テ統制品以外ノ陶磁器ノ製造販賣ニヨリテ利益ヲ得ンコトモ亦不可能ナリサレハ被告人ニシテ法規ヲ守ル以上ハ一ヶ月金六圓程度ノ收入ニ甘セサルヘカラス然ルニ被告人ハ無資産ナルノミナラス他ヨリ收入ヲ得ルノ途モナク又大正八年以來十六ヶ年ノ永キニ互リテ從事シ來レル本業ヲ捨テテ他ニ轉業シテ一家ノ生計ヲ立ツル術モナシ此處ニ於テ被告人ハ止ムヲ得ス生活ノ爲ニ割當數量以上ノ數量ヲ製造販賣スルニ至リタルモノナリ由是觀之被告人ノ行爲ハ全ク自己及家族ノ者ノ生命ヲ維持スル爲ニ止ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ之以外ニ方法ナカリシモノナリシカモ其ノ避ケントシタル害ハ自己及家族ノ生命ノ維持ニ

關スルモノニシテ假令其ノ行爲ヨリ生シタル害カ國法ノ違反ナリトスルト雖モ普通人ノ有スル合理的自衛本能ヲ基礎トシテ法益輕重ノ測定ヲ爲スニ於テハ前者ハ後者ニ比シテ遙カニ重要ナル法益ナルヘキハ何人モ疑ハサルヘシ以上ノ如キ事實ニ對シテハ當然ニ刑法第三十七條第一項前段ノ適用アルヘキニ原審ニ於テ其ノ事ナク有罪判決ヲ爲シタルハ重大ナル法律適用ノ誤アルモノニシテ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レスト云ヒ」被告人上告趣意書今回私事工業組合法違反トシテ罰金刑ノ申渡ヲ受ケシカ爾來正道ヲ守リ今タ一回タリトモ刑罰ヲ受ケシコトモナキ此ノ身ヲ斯ル事件ニテ前科者トナルヲ實ニ遺憾トシ其ノ事情ヲ訴ヘ無罪ヲ嘆願スルモノナリ上申書ニ記載ノ如ク工業組合ハ品質納期等ノ點ニ對シ無責任甚タシク私等商人ハ其ノ爲華客先ト取引上屢蹉跌ヲ生シ多大ノ損失ヲ招キタルニヨリ責任ヲ追求ナシタルニ言ヲ左右ニシテ聊モ責任ヲ負ハス以後ハ橫暴獨占態度ニテ品物ヲ賣讓ナサス品物入手ナシ得サレハ營業不能ニ付製作致スヨリ品物ヲ得ヘキ途ナキニヨリ昭和七年十月弟ノ名義ニテ組合ニ加入ナシタルモ品物製作ヲ許サス斯クノ如ク品物ハ一點タリトモ仕入ルルコトヲ得ス製作モ許サレズ大正八年以來十六ケ年間生活ヲ爲シ來タル途モココニ杜絶シ他ニ轉業ナサントスルモ經驗ナク生クルタメ止ムヲ得ス從來販賣ニ經驗アル電氣用陶器ノ製作販賣ヲ組合員外ニテ開始シタルニ工業組合ヨリ昭和十年二月ニ至リ極メテ少數ノ生産割當ノ附與ヲ受ケタルモ是レハ私ヲ本事件ニ告發スルタメ形式的ニ割當ヲ爲シタルモノニテ工業組合法ニ依レハ生産割當ヲ附與セスシテ法ノ適用ハ出來サルニヨ

ルモノナリ附與ヲ受ケシ生産割當額ハ昭和十年二月ヨリ三月末マテノ二ケ月間ニ電氣用ノツブ四千四百二十三個右ノ金額金二十二圓十一錢ナリ電氣用内線器具一萬一千二十八個右ノ金額金九十九圓二十五錢ナリ合計金額金一百二十一圓三十六錢也右製造利益金約金十二圓也一ケ月當リ金六圓ノ利益ニテハ到底生活スルコトヲ得ス從テ割當數量以上製作販賣ナシタリ一般組合員ハ割當以上製作未檢査販賣ハ現在公然ノ如ク盛ニ行ハレ居リ私カ只一人行ヒタルニ非ス全組合員ヲ私同様工業組合法ニ照シタルトキハ悉ク違反者ニシテ潔白ナル者ハ斷シテ一人モナク既ニ組合ノ定款ニ反シ過怠金ヲ申シ渡サレシ者約三分ノ一ノ人數ニ及ヒ居リ是レ即チ工業組合法違反ノ確證アルモノニテ私同様ノ性質ノモノト思料ス斯ル不正ナル組合幹部ニヨリ不公平ニ告發セラレタルハ誠ニ遺憾ニ堪エ難ク嘆願ニ及ヒタル次第ナリト云フニ在リ

因テ按スルニ瀬戸陶磁器工業組合ノ地域内ニ於テ陶磁器製造販賣ヲ業トスル非組合員ハ右組合理事長ヨリ工業組合法ニ基キ日本陶磁器工業組合聯合會及瀬戸陶磁器工業組合ノ統制品ニ付生産數量ノ割當ヲ受ケタルトキハ該數量ヲ超過シテ製造スルコトヲ得ス又之カ製品販賣ニ付瀬戸陶磁器工業組合ノ共同販賣ニ附シ且日本陶磁器工業組合聯合會ノ製品檢査ヲ受クヘキ旨ノ通告ヲ受ケタルニモ拘ラス右ニ違反シタル行爲ヲ爲シタルトキハ工業組合法第八條ニ違反スルモノニシテ假令右非組合員カ右割當及通告ニ從フニ於テハ著シク自己ノ生産額ヲ減シ一ケ月六圓ノ利益ヲ得ルニ過キサリシトスルモ緊急避

【要旨】

難行爲ヲ以テ目スヘキモノニ非ス蓋シ斯ル行爲ハ現在ノ危難ヲ避クル爲已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ト謂フヲ得サレハナリ原判決ノ確定シタル事實ハ之ヲ要スルニ被告人ハ瀬戸陶磁器工業組合ノ地域内タル瀬戸市及水野村ニ於テ陶磁器製造販賣ヲ營ムモノニシテ右組合ノ非組合員ナルトコロ昭和十年二月七日及同年三月十二日ノ二回ニ亙リ右組合理事長鈴木舜二ヨリ工業組合法ニ基キ日本陶磁器工業組合聯合會及瀬戸陶磁器工業組合ノ統制品タル電氣用ノツブ及内線器具ノ生産數量ニ付一定ノ割當ヲ受ケ右數量ヲ超過シテ製造スルコトヲ得ヌ又之カ製品販賣ニ付瀬戸陶磁器工業組合ノ共同販賣ニ附シ且日本陶磁器工業組合聯合會ノ製造検査ヲ受クヘキ旨ノ通告ヲ受ケタルニモ拘ラス昭和十年二月七日頃ヨリ同年三月二十七日頃ニ至ル迄前後數回ニ亙リ前記瀬戸市及水野村所在ノ各工場ニ於テ被告人ニ對スル右割當數量ヲ遙カニ超過シテ製造シ該製品中東電型レセツブタクル二千六百四十七個ヲ除キ其ノ餘ノ製品ニ付テハ所定ノ製品検査ヲ受ケス且瀬戸陶磁器工業組合ノ共同販賣ニ付スルコトナクシテ其ノ頃被告人ニ於テ直接東京市、大阪市、名古屋市等ニ搬出シ賣却シタルモノナリト云フニ在ルヲ以テ該所爲ハ工業組合法第八條同法施行規則第二十條昭和九年六月二十六日商工省告示第三十三號昭和六年六月二十九日同省告示第三十二號及工業組合法施行規則第二十一條ニ違反シ工業組合法第四十二條ニ該當シ原判決ニ擬律錯誤ノ違法ナキト同時ニ右所爲ハ緊急避難ヲ以テ目スヘキモノニ非ス若シ夫レ組合ノ統制品ニ對スル指定宜シキヲ得ストノ所論ニ至リテハ別個ノ問題ニ屬シ所論ノ如ク緊急ナ

ラサル組合ノ處置ヲ緊急ナリトスル論旨ハ肯察ヲ失セルモノトス論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事棚町丈四郎關與

○公選投票増減被告事件 (昭和十年(九)一六三四號 棄却)

(昭和十年二月十三日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 柳谷助四郎 辯護人 平松市藏

伊藤雄介

【第一審】 青森地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

官公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ト契印

○判決要旨

官公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ト契印

官公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ契印ヲ施スコトハ其ノ要件ニ非サルヲ以テ鑑定書ニハ契印ヲ缺クモ無効ニ非ス

【参照】 刑事訴訟法第七十三條 官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日

ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

同法第二百二十一條 鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ依リ又ハ口頭ヲ以

テ之ヲ報告セシムヘシ

鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

鑑定書ヲ差出シタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ説明ヲ爲サシムル

コトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮六月ニ處ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ青森市會議員ニシテ青森同志會ニ屬シ同會總裁タル同市會議長加賀秀雄ヲ支持後援シ居リタル處昭和九年八月五日施行ノ同市長選舉ニ際シ加賀秀雄カ青森同志會ノ要望ニヨリ市長候補者トシテ立候補スルヤ同志ト共ニ同人ノ當選ヲ期シタルモ他ニ北山一郎 千葉傳藏カ立候補シ自然競争激甚トナリシ爲被告人ハ加賀秀雄ノ當選ヲ憂慮スルノ餘リ右選舉當日投票所ナル青森市役所内市會議事堂ニ於テ開票立會人ニ指名セラレ投票ノ検査及其ノ數ノ計算ニ從事中北山一郎ニ對スル投票ヲ無効トシ其ノ得票數ヲ減センコトヲ企テ即時其ノ場ニ於テ祕カニ北山一郎ノ有效投票一票

(證第一號ノイ)ニ鉛筆ノ芯ヲ以テ二條ノ線ヲ引キ以テ議長加賀秀雄ヲシテ該投票ヲ無効ナリト宣言セシメテ北山一郎ニ對スル投票一票ヲ減セシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法施行法第二十五條舊刑法第二百三十五條ニ該當スルところ刑法施行法第十九條第一項第二條ニ依リ輕禁錮刑ヲ有期禁錮刑ト爲シ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮六月ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主文

尙本件ハ第二審カ事實ヲ認定スルニ當リ證據資料ト爲シタル鑑定書ニ契印ヲ缺キタル事案ナリ
本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人平松市藏 伊藤陽介 後藤泰雄上告趣意書第十點原判決ハ無効ナル鑑定書ニ依リ事實ヲ認定シタル違法アリ原判決ハ判示事實ノ證據トシテ第二審鑑定人石川哲郎作成ノ鑑定書ヲ援用シタリ然レトモ右鑑定書ハ契印ヲ缺クモノナルヲ以テ(記錄第一一八三丁裏ト同一一八四丁表トノ間)書類ノ連續性ヲ缺キ從テ同一鑑定人ニ依リテ作成セラレタル一個ノ鑑定書タルノ效力ナキモノナリ然シテ原判決援用ノ證據中右鑑定書ヲ外ニシテハ本件投票上ニ現出セル二條ノ線カ鉛筆書ナル事實及其ノ線ハ投票上ノ——北山一郎ナル文字ヨリ後ニ記サレタルモノナル事實ヲ認定スルニ由ナキモノナリ即チ原判決カ判示事實ヲ認定スルニ無効ナル鑑定書ヲ以テシタルハ違法ナリト云フニ在レトモ

官公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ト契印

【要旨】 刑事訴訟法第七十三條ハ官吏公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シ署名捺印スヘシト規定スルノミニシテ契印ヲ施スコトハ其ノ要件ニ非サルヲ以テ所論鑑定書ニ契印ヲ缺クモ無効ニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事秋山要關與

○詐欺未遂被告事件(昭和十年(九)第一六四四號 棄却)
(昭和十一年二月十三日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 堀岡榮作 辯護人 重山徳好
外一名

【第一審】 高岡區裁判所 【第二審】 富山地方裁判所

○判示事項

附帶控訴ノ理由ト控訴審ノ判決

○判決要旨

控訴裁判所ハ附帶控訴ノ申立ニ付舉示セラレタル理由ニ拘束セラ
 ルルコトナク自由ナル見地ニ於テ原審ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シ得
 ルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第三百九十六條 控訴ヲ爲スニハ申立書ヲ第一審裁判所ニ差出ス
 ヘシ

同法第三百九十九條 控訴裁判所ノ檢事ハ辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコト
 ナ得

同法第四百三條 被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事件ニ
 付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

同法第三百七十八條 被告人ノ法定代理人保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ上訴
 ナ爲スコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人兩名ヲ各懲役八月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シ
 タリ

被告人堀岡榮作及開發友次郎ノ兩名ハ第一審相被告人井山外次郎同都祐根ト共ニ富山縣射水郡作道村鏡宮市橋田藏ヨ

附帶控訴ノ理由ト控訴審ノ判決

リ所謂鹿追詐欺ノ方法ニテ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和十年八月十二日頃高岡市坂下町井山外次郎方ニ於テ堀岡榮作ハ市橋豐藏ヲ工場ノ敷地賣買ニ藉口シテ一定ノ場所ニ誘引シ都祐根ハ工場ノ敷地買收ノ爲來リタル資本家開發友次郎ハ其ノ番頭ナルカ如ク裝ヒ市橋豐藏ト同人ノ土地ヲ高價ニテ買收スル意嚮アルカ如ク應待シ井山外次郎ハ以上三名ノ知人ニシテ偶然其ノ場所ニ來リタル者ノ如ク仕倣シテ同席スル旨ノ各役割ヲ定メ都祐根ハ土地賣買交渉談ヨリ市橋豐藏ト飲酒ヲ共ニシ且雜談ノ末井山外次郎ヲ相手ニ五目竝碁石握リノ丁半等ヲ試ミ果テハ金錢ヲ賭スルニ非サレハ面白カラサル旨主張シ都祐根ヲ除ク其ノ餘ノ三名ハ右資本家ニ假裝セル都祐根カ暫時退席シタル間ニ市橋豐藏ニ對シ右資本家ハ大金ヲ所持シ居リ且浪費ノ習癖アルヲ以テ同人カ碁石握リノ丁半ヲ挑ムヲ奇貨トシ自分等四名共謀シテ之ト右方法ニテ賭博ヲ爲シ賭者カ交々胴元ト爲リ自分等ノ中胴元トナリタル者カ握リタル碁石ノ數ニ應シテ先ツ丁ナリ或ハ半ナリト云フニヨリ他ノ者ハ之ニ應シテ胴元側ニ賭シテ資本家ヲ反對側ニ賭シムルニ於テハ勝ツコト確實ナリト申向ケテ市橋豐藏ヲ其ノ旨誤信セシメテ勝負ニ加ハラシメタル上被告人等五ニ相策動シテ都祐根カ胴元トナリタル時ニ賭錢ヲ多クシテ同人ヲ勝タシムル等種々不正手段ヲ講シ結局ニ於テ同人ニ賭錢ヲ集中シテ市橋豐藏ヲ敗者ト爲シテ賭錢名下ニ金員ヲ騙取スヘク協議ヲ遂ケ右協議ニ基キ昭和十年八月十四日巧ミニ市橋豐藏ヲ富山縣射水郡小杉町料亭中村樓ニ誘引シ前記方法ニテ同人ヲ欺罔シ因テ同人ヲシテ勝負ニ加ハルコトヲ承諾セシメテ賭錢ノ調達ヲ約セシメタルモ後同人ニ感知セラレテ其ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第二百五十條第六十條ニ該當スルヲ以テ所定期刑範圍内ニ於テ被告人等ヲ各懲役八月ニ處スヘキモノトシ主文ノ如ク判決ス

而シテ第二審裁判所ノ公判廷ニ於テ立會檢事ハ各被告人ニ對シ懲役六月ノ言渡ヲ爲シタル第一審判決ハ被告人等ノ改悛ノ情見ルヘキモノナキニ照シ科刑輕キニ失スルモノトシテ附帶控訴ノ申立ヲ爲ス旨

述ヘタリ

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人堀岡榮作同開發友次郎辯護人重山徳好上告趣意書第二點本件被告人等ニ對シ第一審裁判所ハ懲役六月ノ刑ノ言渡ヲ爲シタルニ原審ハ檢事カ附帶控訴シタル理由ニ基キ懲役八月ノ刑ノ言渡ヲ爲シタルニ而シテ原審公判調書ヲ精査スルニ前略「檢事ハ本件被告人ノ犯行ハ被告人ノ當廷ニ於ケル陳述其ノ他一件記録ニ徴シ其ノ證明充分ナリ然ルニ被告人等ハ當公廷ニ於テ原審公判廷ノ自白ノ一部ヲ覆シ之ヲ否認セントスル其ノ態度ノ如キハ改悛ノ情ヲ見ルヘキモノナシ而モ本件犯罪ハ其ノ情重キニ比シ原審判決ハ輕キニ失スルモノト思料セララルルニ依リ茲ニ檢事トシテ附帶控訴ヲ爲スト述ヘ被告人兩名ニ對シ各懲役十月ニ處スルヲ相當トスト事實及法律ノ適用ニ付原審判決記載ト同様ノ意見ヲ述ヘタリ云々」トノ記載ニ依リ見ルトキハ原審檢事ノ附帶控訴ハ被告人等カ第一審ニ於テ自白シタル點ノ一部ヲ第二審ニ於テ一部否認シタルハ被告人等ニ於テ改悛ノ情ナキモノナリトノ理由ニ基キ爲シタルモノナルコト明カナリ果シテ然ラハ裁判所ハ刑ノ分量ヲ定ムルコト自由心證ニ依ルヘキモノナルコト勿論ナリト謂フモ被告人ニ於テ改悛ノ情アリヤ否ヤニ依リ刑ノ輕重ヲ定ムル根據アルヘキコトナシ即チ吾カ

附帶控訴ノ理由ト控訴審ノ判決

刑法上改悛ノ情アリヤ否ヤノ事實ヲ適用スルハ刑法第二十五條ヲ適用スル場合ニ限り其ノ他ハ反社會性ノ大小犯意ノ反社會性ノ程度又ハ累犯加重再犯加重等ノ法律事實ノ範圍内ニ於テ裁判所ハ自由ナル心證ニ基キ刑ノ分量ヲ定ムヘキモノナリト信ス然ルニ原審ハ前記ノ如ク誤レル檢事ノ附帶控訴ヲ採擇シ第一審ヨリ重キ刑ヲ被告人等ニ科シタルハ明カニ違法ヲ免レサルモノナリト云フニ在レトモ

【要旨】

刑事訴訟法上控訴審ハ一ノ覆審ナルヲ以テ控訴申立人一定ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨ノ意思ヲ明確ニ表示スルヲ以テ足り其ノ何故ニ控訴申立ヲ爲スカノ理由ノ如キハ之ヲ示スヘキ必要ナク又假令其ノ理由舉示セラレタリトスルモ控訴裁判所ハ之ニ拘泥スヘキ筋合ノモノニ非ス右ハ附帶控訴ニ就テモ亦同様ナルヲ以テ檢事ヨリ附帶控訴ノ申立アリタル以上控訴裁判所ハ刑事訴訟法第四百三條ノ制限ニ服スルコトナク全ク自由ナル立場ニ於テ更ニ之カ審理裁判ヲ爲スコトヲ得ヘク附帶控訴ノ理由ニ羈束セラシタルコトナシ而シテ刑ノ量定ヲ爲スニ當リ被告人ノ性格年齡境遇犯罪ノ情狀及犯罪後ノ情況殊ニ悔悟シタリヤ否等參酌考慮セラルヘキコト論ナク殊ニ記録ニ依レハ檢事ハ本件附帶控訴ヲ爲スニ際シ被告等ノ犯罪後ニ於ケル改悛ノ情見ルヘキモノナキ態度ヲ云爲論告シタルモノナルヲ以テ縱シヤ原審ニ於テ檢事ト同様ノ見地ニ立脚シ被告人等ニ對スル科刑ヲ裁量シ之ヲ不利益ニ變更シタリトスルモ固ヨリ正當ニシテ徒ニ獨自ノ解釋ヲ弄シ之ヲ論難スルヲ許サス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事武松久吉關與

○村會議員選舉罰則違反虛偽公文書作成行使被告事件

(昭和十年(れ)第一四二四號 棄却)
(同十一年二月十四日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 小笠原喜代太郎

辯護人

(牧野良三)
(新家修三)
(土川修三)

【第一審】 青森地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

刑法第五十六條ノ罪ト間接正犯

○判決要旨

行使ノ目的ヲ以テ情ヲ知ラサル選舉長ヲ利用シ該選舉長ノ職務上

刑法第五十六條ノ罪ト間接正犯

其ノ名義ヲ以テ作成スヘキ選舉錄ニ虚偽ノ事實ヲ記載シ署名セシメテ該選舉長ノ職務ニ關スル虚偽ノ選舉錄ヲ作成セシメタル行爲ハ刑法第一百五十六條ノ間接正犯ヲ以テ論スヘキモノトス

【参照】 刑法第一百五十六條 公務員其ノ職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月ニ處ス押收ニ係ル證第十五號ハ之ヲ沒收ス訴訟費用中第一審ニ於テ生シタル分ハ被告人及第二審相被告人葛西藤太郎 高橋佐太郎 片山永作及第一審相被告人須藤雅 木村喜助ノ連帶負擔トシ第二審ニ於テ生シタル分ハ被告人及第二審相被告人葛西藤太郎 高橋佐太郎 片山永作ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ノ居村ナル青森縣西津輕郡出精村ハ由來政争烈シク昭和六年中村長改選以降ハ民政黨系ニ屬スル役場派ト政友會系ニ屬スル非役場派ト相對立抗爭シ來リタルモノニシテ同八年四月二十五日施行ノ同村會議員選舉ニハ議員定數十二名ニ對シ被告人等ノ屬スル役場派ハ村長タリシ三上雅夫外七名非役場派ハ石澤潔外六名ノ各候補者ヲ擁立シタル爲メ定員ヲ超過シ競争激甚ヲ豫想セラレタルカ偶々當時ノ同村收入役ニシテ該選舉ノ投票計算係タリシ原審相被告人須藤雅ハ收入役トシテ占有中ノ公金千五百六十六圓八十七錢ヲ費消横領シ居リテ選舉ノ結果反對派首領石澤潔ニ於テ

當選スルトキハ同人ハ永ラク同村役場ニ奉職シタルコトアリテ其ノ事務ニ精通セルニ依リ容易ニ右不正行爲ヲ摘發セラルヘキコトヲ危懼ノ餘リ其ノ當選ヲ阻止セムコトヲ欲シ懇親ノ間柄ナル同村助役ニシテ同様投票計算係ナル被告人小笠原喜代太郎ト相謀リ選舉事務ニ關與スルヲ奇貨トシ投票ヲ擅ニ増減シテ石澤候補者ヲ落選セシメ且ハ自派ノ壓倒的勝利ヲ獲得セムコトヲ企テ先ツ選舉立會人トシテ役場派ニ屬スル 被告人葛西藤太郎 高橋佐太郎 片山永作並原審相被告人木村喜助ノ四名ヲ選定シテ之ヲ自派ニ獨占シタル上昭和八年四月二十日頃喜代太郎ハ村長ヲ代理シテ右立會人選任ノ通知ヲ發シ其ノ頃雅ハ同村有權者總數八百餘名ニ過キサルニ投票用紙千枚ヲ註文印刷セシメ其ノ内百枚ヲ自宅ニ藏置シ選舉ノ前日ナル同月二十四日正午頃雅 喜代太郎兩名ハ選舉立會人タル被告人藤太郎 佐太郎 永作並前記ノ木村喜助ヲ出精村役場ニ呼集メ同所樓上ニ會合シ右四名ニ對シ同派ノ必勝ヲ期スル爲メ選舉場ニ於テ反對派ノ得票ヲ自分達カ自派ニ混入計算スヘキヲ以テ立會人ニ於テハ投票ノ點檢ヲ爲サスシテ計算係ナル自分達ニ交付アリ度ク然ラハ計算係ニ於テ點檢シ適當ニ候補者ノ得票ヲ増減シ目的ヲ達成スヘキ旨申向ケ同人等ヨリ賛同ヲ得タルニ依リ茲ニ右被告人等ハ選舉當日ナル翌二十五日右謀議ニ基キ投票ノ不正増減ヲ爲スヘク其ノ結果ハ必然的ニ之ニ符合スル様投票ヲ偽造シ選舉錄ニハ自然虚偽ノ記載ヲ爲サシメ該偽造文書ヲ行使スヘキコトノ意圖ノ下ニ孰レモ前記選舉事務ニ關係アル吏員又ハ立會人トシテ右役場樓上ニ於ケル選舉會ニ臨ミ夫々投票ヲ點檢シ計算スルニ當リ擅ニ非役場派候補者石澤潔外四名ノ得票中合計五十一票ヲ役場派候補者三上雅夫外七名ノ得票中ニ混入計算シテ投票中役場派ノ三上雅夫分六十三票ヲ七十九票ニ、木村喜助分六十一票ヲ六十九票ニ、澁谷貫一分六十二票ヲ六十七票ニ、對馬專太郎分六十四票ヲ六十六票ニ、小笠原喜代太郎分六十一票ヲ六十三票ニ、開米與作分四十八票ヲ六十二票ニ、高橋佐右衛門分五十六票ヲ五十七票ニ、片山永作分五十一票ヲ五十四票ニ各増加シ、他方非役場派葛西征太郎分四十八票ヲ四十五票ニ、菊地貞夫分五十三票ヲ五十九票ニ石澤潔分六十一票ヲ三十二票ニ、小笠原千代太郎分二十八票ヲ二十五票ニ、對馬彌兵

衛分十九票ヲ十七票ニ夫々減少セシメ以テ當選スヘキ反對派ノ首領候補者石澤潔ヲ落選セシメ落選スヘカリシ同派ノ候補者白戸棚ヲ當選セシメタルモノナルカ之ニ因リ選舉長三上雅夫名義ヲ以テ作成スヘキ選舉錄ニ選舉記錄係役場書記田戸岡吉一ヲシテ投票ノ點檢、計算ニ付テ虛偽ノ記載ヲ爲サシメ右増減ノ情ヲ知ラサル選舉長ヲシテ之ニ署名セシメタル後立會人タル被告人等ニ於テ亦之ニ署名シ以テ公務員ノ職務ニ關スル虛偽ノ文書ヲ完成シタル上即時之ヲ同役場ニ備付行使セシメタルモノナルカ候補者別投票票數ヲ選舉錄ニ記載ノ虛偽ノ計算ト一致セシメサレハ前記得票混入ノ不正行爲ヲ容易ニ發覺セラルル虞レアリタルヲ以テ之ヲ糊塗スル爲右選舉終了後雅ハ私カニ投票入袋ヲ役場ヨリ持出シ同村大宮上瀧三十二番戸ナル自宅ニ於テ喜代太郎外役場書記二名ト共ニ右袋ヲ開披シ雅ニ於テ豫テ用意セル投票用紙ヲ使用シテ三上雅夫分十六票、小笠原喜代太郎分二票、對馬專太郎分二票、木村喜助分八票、澁谷貫一分五票、開米與佐分十四票、高橋佐右衛門分一票、片山永作分三票合計五十一票ノ投票ヲ偽造シテ反對派石澤候補者等ノ得票中前記ノ如ク減少セシメタル投票五十一票ト差シ替ヘ之ヲ他ノ投票ト共ニ別袋ニ入レ喜代太郎カ役場ヨリ持チ來レル雅夫ノ認印及喜代太郎 田戸岡吉一等ニ於テ立會人等ヨリ預リ居タル認印ヲ用ヒテ封印シ翌朝雅カ之ヲ同村役場ニ携帶藏置シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人喜代太郎ノ判示所爲中投票數ヲ増減シ且之ヲ偽造シタル點ハ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第二百二十七條第四項第三項刑法第六十條ニ各該當シ選舉錄ニ虛偽ノ記載ヲ爲サシメテ之ヲ偽造シタル點ハ刑法第五十六條第五十五條第一項第六十條ニ各該當スルトコロ以上ノ所爲ハ其ノ間順次ニ手段結果ノ關係ニ在ルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ刑情重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ從ヒ處斷スヘキトコロ孰レモ犯罪ノ情狀憫諒スヘキモノアルヲ以テ刑法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ヲ適用シ酌量減輕シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十月ニ處スヘク押收ニ係ル證第十五號ノ偽造投票ハ刑法第十九條第一項第三號第二項ヲ適用シテ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ從ヒ主文記載ノ如ク其ノ負擔ヲ定ムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護士牧野良三 新家猛 土川修三上告趣意書第一點一、原判決ハ判示理由ニ於テ「選舉長三上雅夫名義ヲ以テ作成スヘキ選舉錄ニ選舉記錄係田戸岡吉一ヲシテ投票ノ點檢計算ニ付テ虛偽ノ記載ヲ爲サシメ右増減ノ情ヲ知ラサル選舉長ヲシテ之ニ署名セシメタル後立會人タル被告人等ニ於テ亦之ニ署名シ以テ公務員ノ職務ニ關スル虛偽ノ文書ヲ完成シタル」旨ヲ判示シ刑法第五十六條ヲ適用シテ處斷セラレタリ然レトモ之擬律錯誤ノ違法アルモノト信ス二、蓋シ村會議員選舉ニ於テ法律上選舉ニ關スル職務ヲ有スル者ニ就テハ町村制第二十條ノ規定スル所ニシテ同條第一項ニ「町村長ハ選舉長トナリ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス」トアリ又同第二項ニ「町村長ハ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ」トアリ之等ノ者ハ何レモ法律上選舉ニ關スル公務員タルコト明ナリ然レハ町村助役收入役其ノ他ノ吏員カ選舉事務ニ關與スル場合ニ於テモ右ハ職務上選舉ニ關スル公務員トナルモノニアラスト信ス或ハ町村制第七十九條ニ「助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス助役

ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理スルトアルニヨリ助役ハ選舉事務ニ關スル公務員ニアラサルヤノ疑ナキニアラサレトモ選舉長トナル者ハ町村長ニ限り助役ハ同法第七十九條第二項ニヨリ町村長ノ故障ニヨリ正式ニ代理シタルトキ始メテ選舉ニ關スル公務員トナルモノニ過キス被告人小笠原喜代太郎ハ村長三上雅夫ヲ代理シテ選舉事務ニ關與シタルニアラスシテ單ニ之ヲ補助シタルニ過キサレモノナルカ故ニ原判決認定ノ事實ニ對シテハ刑法第一百五十五條ヲ擬律スヘキニ拘ラス刑法第一百五十六條ヲ適用シテ處斷セラレタルハ破毀ヲ免レサル擬律ノ錯誤アルモノト信スト云ヒ同第二點原判決ハ被告人小笠原喜代太郎ノ所爲ニ對シ刑法第一百五十六條及同第一百五十五條第一項ヲ適用セラレタレトモ之亦擬律錯誤アル違法ノ判決ナリト信ス第一點ニ於テ述ヘタル如ク本件選舉錄ノ作成ハ町村制第二十八條第一項ニ依リ原審相被告人タル選舉長三上雅夫ノ職務權限ニ屬スルモノニシテ三上選舉長ハ自ら選舉場ニ於テ之ヲ作成シ選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ立會人ト共ニ署名シタルモノニシテ法律上眞正ナル公文書トシテ成立シタルモノナルコトハ原判決ノ確定セル事實ナリ即チ本件ハ被告人小笠原喜代太郎カ三上選舉長名義及同人ノ印章及選舉立會人ノ名義及印章ヲ擅ニ冒用シテ偽造ノ選舉錄ヲ作成シタルニアラスシテ眞正ニ成立シタル選舉錄ノ内容中投票ノ計算ニ付眞實ニ反スル事實ヲ告ケテ虛偽ノ記載ヲ爲サシメタリト云フ事實ナルカ故ニ斯ノ如キハ刑法第一百五十五條第一項ノ文書偽造罪ヲ構成スルモノニアラスシテ同條第二項ニ規定スル公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書ヲ變造シタル罪ニ該當スルモノナルニ拘ラス原判決カ同條第一項ヲ適用處斷シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法ノ判決ナリト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

町村會議員選舉事務ニ從事スル町村長ノ事務ヲ補助シ町村長故障アルトキ之ヲ代理スヘキ法律上ノ權限ヲ有スル町村助役ハ町村會議員選舉事務ニ關係アル吏員ナルコトハ當院ノ判例トスル所ニシテ(昭和四年(レ)第一三六〇號同年十二月十九日第五刑事部判決參照)今之ヲ翻スヘキ何等ノ理由ヲ認めス然レハ原判決カ判示出精村助役タル被告人ヲ選舉事務ニ關係アル吏員ト認メタルハ固ヨリ違法ニ非ス然リ而シテ原判決カ所論被告人ノ行爲ヲ刑法第一百五十六條ニ問擬シタルハ被告人カ敍上ノ如ク選舉事務ニ關係アル吏員ナルカ爲ニ非ス原判決ノ認定判示セル事實ハ被告人ハ其ノ居村ナル青森縣西津輕郡出精村ニ於ケル昭和八年四月二十五日施行ノ同村村會議員ノ選舉ニ際リ情ヲ知ラサル選舉長三上雅夫ヲシテ職務上其ノ名義ヲ以テ作成スヘキ選舉錄ニ判示ノ如ク虛偽ノ事實ヲ記載シテ署名セシメタル後立會人タル原審相被告人等ニ於テ亦之ニ署名シ以テ公務員ノ職務ニ關スル虛偽ノ文書ヲ完成シタル上即時之ヲ同村役場ニ備付行使セシメタリト云フニ在ルヲ以テ原判決ハ右被告人ノ行爲ヲ以テ所謂間接正犯ト解シ右情ヲ知ラサル選舉長三上雅夫ヲ利用シ判示ノ如ク虛偽ノ文書ヲ作成シ且之ヲ行使シタルニ付被告人ヲシテ直接ニ其ノ責ニ任セシメタルモノナルコト自ラ明ニシテ又其ノ解釋ニ誤アルコトナシ然レハ原判決カ右被告人ノ行爲ヲ刑法第一百五十六條ノ罪及其ノ行使罪ニ問擬シタルハ正當ニシテ

記録ニ徴スルモ原判決ノ右事實認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ヲ發見セ
ス論旨ハ孰レモ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和十年(九)第一五四二號 同十一年二月十五日第三刑事部判決 棄却)

〔上告人〕 被告人 横川勘次郎 辯護人 松浦松次郎

〔第一審〕 山形區裁判所 〔第二審〕 山形地方裁判所

○判示事項

議員候補者届出前ノ選舉運動

○判決要旨

選舉運動ハ届出ヲ爲シタル議員候補者ノ存在ヲ前提トスルモノニ
非ス

〔参照〕 府縣制第三十九條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第十章及第
十一章並第四百四十四條第二項第四百四十二條及第四百四十七條ノ規定ヲ準用ス但シ議員
候補者一人ニ付定ムヘキ選舉委員ノ數、選舉運動ノ爲使用スル勞務者ノ數及選舉運
動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル
同法第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス
衆議院議員選舉法第九十五條ノ二 選舉運動ハ第六十七條第一項乃至第三項ノ届出
アリタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト
能ハサルトキハ被告人ヲ五十日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル山形縣縣會議員選舉ニ際シ南村山郡選舉區ヲ無競争状態トナシ同郡東
澤村村長鈴木鈴馬ヲ議員候補者タラシメ以テ其ノ當選ヲ得シムル目的ノ下ニ未タ其ノ立候補又ハ推薦ノ届出ナカリシ
同年七月二十一日頃被告人肩書居宅ニ於テ選舉人タル板垣龜壽彌及佐藤利作ニ同日同村前田利七方ニ於テ同シク選舉
人タル同人ニ對シ夫々同郡選舉區ヲシテ無競争ト爲シ鈴木鈴馬ヲ議員候補者タラシムルニ付先ツ居村ヲ無競争トナス
様盡力セラレ度キ旨依頼ヲ爲シ以テ届出前ノ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

議員候補者届出前ノ選舉運動

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ府縣制第三十九條第四十條第十三條ノ二衆議院議員選舉法第九十五條ノ二百二十九條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ヲ適用シ被告人ヲ五十日間勞務役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人松浦松次郎上告趣意書第一點第二審判決ハ「被告人ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル山形縣縣會議員選舉ニ際シ南村山郡東澤村村長鈴木鈴馬ヲ議員候補者タラシメ以テ其ノ當選ヲ得セシムル目的ノ下ニ未タ其ノ立候補又ハ推薦ノ届出ナカリシ同年七月二十一日頃……旨依頼ヲ爲シ届出前ノ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ」云々ト認定セラレ以テ衆議院議員選舉法第九十五條ノ二ヲ適用セラレタリ然レトモ右同條則同法第六十七條第一項乃至第三項中ニ所定スル「立候補又ハ届出ヲ爲サントスル議員候補者」トハ選舉運動ヲ開始スル當時既ニ客觀的ニ又ハ主觀的ニ議員候補者トシテ豫定セラレアリテ特殊ノ事情ニ妨ケラレサル限り必然的ニ議員候補者トシテ立候補又ハ推薦ノ届出ヲ爲サルヘキ者ノミヲ指稱スヘキモノニシテ未タ客觀的又ハ主觀的ニ議員候補者トシテ豫定セラレサルニ不拘選舉運動ヲ爲サントスルモノカ獨斷ニテ其ノ者ノ爲ニ選舉運動ヲ爲シタレハトテ是ヲ以テ直ニ其ノ者ヲモ

「立候補又ハ届出ヲ爲サントスル議員候補者」ト指稱スヘカラサルコト素ヨリ當然ナリト信ス則議員候補者トハ他人ノ選舉運動ノ開始ニヨリテ之ヲ定ムヘキモノニアラサレハナリ而シテ本件第二審裁判ノ資料トナリタル證據中「一、被告人ニ對スル檢事ノ第一回聽取書中同人ノ供述トシテ私ハ居村村長鈴木鈴馬氏ノ人格ニ感服シ居リ鈴木氏ヲ是非縣會ニ出シ度イト考ヘ居タル故本年二月頃鈴木氏方ニ年始ニ行キタル時本年九月ノ本縣縣會議員選舉ニ立候補シテ吳レナイカト頼ミタル處同人ハ絶對ニ駄目タト斷リタリ其ノ後五月頃同人方ニ行キタル時若シ南村山郡カ無競争ニテ村民カ舉ケテ貴方ヲ候補者ニ推シタラ假令三日テモ引受ケナケレハナルマイト申シタルニ村長ハ縣會議員ニ立候補シタラ村長ヲ罷メナケレハナラヌカ夫レテハ村長ヲ罷メ縣會議員ニ三日モナリ罷メテ何モセスニ居レハ一番ヨイト言ハレタルニヨリ何レ鈴木氏ハ南村山郡カ無競争ニナレハ縣會議員ニ立候補スル氣カアルノタト思ヒタリ……(以下略ス)云々同シク一、板垣龜壽彌ニ對スル司法警察官ノ聽取書中「村長ノ鈴木鈴馬ヲ出シテ無競争トサセ度ク鈴木ハ出ヌト申シ居ル故何分村ノ名譽ノコトテモアリ舉村一致ノ上應援スル様ニシテ貫ヒ度シト申ス故自分モ(中略)……應援センモ……然シナカラ鈴木ハ出ヌト申シテ居ル故鈴木ヲ舉村一致シテ當選サセ度キ故應援シテ貫ヒ度イト言フコトナリシトノ旨ノ記載」云々ノ各證據ニヨルモ未タ以テ鈴木鈴馬ハ必然的ニ立候補又ハ推薦ノ届出ヲ爲サルヘキコトニ客觀的又ハ主觀的ニ豫定セラレタルモノニアラサルコト明白ナリ果シテ然ラハ上告人ノ本件事實ハ衆議院議員選舉法第九

十五條ノ二同法第六十七條第一項乃至第三項ニ所謂「議員候補者」ノ爲ニ選舉運動ヲ爲シタルモノニアラサルヲ以テ第二審裁判ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノナリト信スト言ヒ」第二點第二審判決ハ「被告人ハ……同年七月二十一日頃被告人肩書居宅ニ於テ選舉人タル板垣龜壽彌及佐藤利作ニ同日同村前田利七方ニ於テ同シク選舉人タル同人ニ對シ夫々同郡選舉區ヲ無競争ト爲シ鈴木鈴馬ヲ議員候補者タラシムルニ付先ツ居村ヲ無競争ト爲ス様盡力セラレ度キ旨依頼ヲ爲シ届出前ノ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ」云々ト判示セラレタリ而シテ右判示ヲ要約スレハ「上告人ハ鈴木鈴馬ヲ議員候補者タラシメンカ爲運動ヲ爲シタリ右ハ届出前ノ選舉運動ニ該當ス」ト謂フニ在リ然レトモ衆議院議員選舉法第九十五條ノ二ニ規定スル選舉運動トハ一定ノ議員候補者ヲ當選セシムル爲投票ヲ得又ハ得セシムルニ付直接又ハ間接ニ爲ス諸般ノ行爲ヲ汎稱スルモノニシテ則一定ノ議員候補者ノ存在ヲ前提トシテ爲ス諸般ノ行爲ヲ指稱スルモノナレトモ未タ一定ノ議員候補者ノ存在セサルニ不拘爲ス所ノ諸般ノ行爲ヲモ包含スルモノニアラサルコトハ同法第九十六條ト對比シ洵ニ明瞭ナリトス從テ一定ノ議員候補者ナケレハ選舉運動モ亦存在スヘカラサル筋合ナリト信ス然ルニ本件第二審判示ヲ觀ルニ上告人ハ未タ一定ノ議員候補者ノ存在セサル間ニ於テ議員候補者ヲ擁立セントスル準備行爲ヲ爲シタルニ過キサレハ素ヨリ選舉運動ニ屬セサルコト事理明白ナリ然ルニ第二審裁判ハ如斯行爲モ亦「届出前ノ選舉運動ニ該當ス」ト判斷シ衆議院議員選舉法第九十五條ノ二ヲ適用セラレタルハ法令ヲ不當ニ適用シタルカ擬律錯誤ノ裁判ナリト信スト云ヒ」第三點苟モ選舉運動トハ一定ノ議員候補者ノ爲ニ當選ヲ斡旋スル一切ノ行爲ヲ指稱スルモノニシテ換言スレハ當選ヲ目的トスル投票獲得行爲一切ヲ謂フニアリト信ス然ルニ本件第二審判示ヲ見ルニ「……鈴木鈴馬ヲ議員候補者タラシムルニ付先ツ居村ヲ無競争ト爲ス様盡力セラレ度旨依頼ヲ爲シ」云々トアリテ則上告人カ選舉人ニ求メタルハ投票ニアラスシテ「無競争ト爲ス様盡力」シテ又上告人カ意圖シタル目的ハ鈴木鈴馬カ立候補ノ決意ヲ喚起シテ當選セシムルコトヲ直接ノ主眼ト爲シタルモノニアラサルコト明瞭ナルニ拘ラス第二審裁判ハ此ノ事實ヲ以テ漫然選舉運動ニ該當スト判斷セラレタルハ裁判ニ理由ヲ付セサル違法アルモノニシテ第二審裁判ハ此ノ點ニ於テモ亦破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニアリ

然レトモ原判決カ證據ニ依リ認定シタル事實ハ被告人カ昭和十年九月二十五日施行セラレタル山形縣縣會議員選舉ニ際シ南村山郡選舉區ヲ無競争狀態トナシ同郡東澤村村長鈴木鈴馬ヲ議員候補者タラシメ以テ其ノ當選ヲ得セシムル目的ノ下ニ未タ立候補又ハ推薦ノ届出ナカリシ同年七月二十一日頃選舉人板垣龜壽彌 佐藤利作 及前田利七等ニ對シ夫々同郡選舉區ヲシテ無競争トナシ鈴木鈴馬ヲ議員候補者タラシムルニ付先ツ居村ヲ無競争ト爲ス様盡力セラレ度キ旨依頼ヲ爲シ以テ届出前ノ選舉運動ヲ爲シタリト謂フニアリテ其ノ採用ニ係ル檢事ノ被告人ニ對スル第一回ノ聽取書ノ供述記載ニ依レハ被告人カ判示山形縣縣會議員選舉ニ際シ鈴木鈴馬ノ立候補ヲ豫期シ其ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ判示ノ

【要旨】

如ク板垣龜壽彌外二名ニ其ノ盡力方ヲ依頼シタルモノナルコトヲ推知スルヲ得ヘシ而シテ府縣制第三十九條第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十五條ノ二ハ議員候補者タラントスル旨ノ届出前ニ於ケル選舉運動ヲ禁止シタルモノニシテ特定人カ將來自ラ議員候補者タラントスル旨ノ届出ヲ爲ス意思アリ自己又ハ第三者カ推薦届出ヲ爲サムトスル意思ノ存スル場合ニ於テ其ノ届出以前ニ議員候補者タラムトスル者ノ爲ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ之ニ關シ直接又ハ間接ニ必要且有利ナル周旋勸誘若クハ誘導其ノ他諸般ノ行爲ヲ爲スコトヲ禁止シタルモノニ外ナラス從テ所論ノ如ク已ニ届出ヲ爲シタル議員候補者ノ存在ヲ前提トスルモノニ非サルコト當然ナリト謂ハサル可ラス然ラハ判示被告ノ所爲カ府縣制第三十九條第四十條ニテ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十五條ノ二ニ該當スルコト明カニシテ被告人ノ所爲ニ對シ右各法條及衆議院議員選舉法第二百二十九條ヲ適用處斷シタル原判決ハ相當ニシテ論旨ハ何レモ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事棚町丈四郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和十年(九)第一六五三號
 同十一年二月十七日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 石澤基吉 辯護人 秋山高三郎

外一名

【第一審】 山形區裁判所 【第二審】 山形地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法第九十八條第一項ノ戸別訪問

○判決要旨

投票ヲ得若ハ得シムルノ目的ヲ以テ同一選舉區内ノ數村ニ互リ一村一人乃至三人ノ選舉人宅ヲ歴訪シタル行爲ハ衆議院議員選舉法第九十八條第一項ニ所謂戸別訪問ニ該當ス

【參照】 衆議院議員選舉法第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ス
 何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

衆議院議員選舉法第九十八條第一項ノ戸別訪問

同法第二百二十九條 第九十五條ノ二、第九十六條第一項、第九十八條若ハ第九十八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ従ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人石澤基吉同高橋佐市ヲ各罰金百圓ニ處ス右罰金ヲ完納セサルトキハ被告人等ヲ夫々一圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人石澤基吉ハ昭和十年九月二十五日施行ノ山形縣縣會議員選舉ニ際シ同年九月三日同縣東村山郡選舉區ヨリ立候補ノ届出ヲ爲シ同年七月中ニハ既ニ其ノ起意アリタルモノナルトコロ右立候補届出前ナル同年七月二十八日被告人石澤ハ自己ニ投票ヲ得ル爲被告人高橋ハ石澤ニ投票ヲ得セシル爲同選舉區内俗ニ川東ト稱スル地域ノ各村有力者ヲ訪問センコトヲ共謀シ相携ヘテ同日午前九時半頃ヨリ夕刻ニ至ル迄ノ間選舉人ナル同郡高橋村荻野清太郎同村三宅傳九郎同村鈴木惣九郎同郡藏増村市川岩次同村阿部彌太郎同郡高瀬村鐘水健治同郡干布村菱沼新三郎同郡楯山村石山與市同郡山寺村渡邊佐正同郡千歳村山川定七同村武田龜治同村會田庄八ノ各居宅ヲ順次歴訪シテ面會ヲ求メ以テ戸別訪問ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ届出前ノ選舉運動ノ點ニ於テ府縣制第三十九條第四十條第十三條ノ二衆議院議員選舉法第九十五條ノ二、第二百二十九條刑法第六十條ニ戸別訪問ノ點ニ於テ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十八條第一項、第二百二十九條刑法第六十條ニ各該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナル

ヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニヨリ犯情重シト認ムル戸別訪問ノ罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人兩名ヲ各罰金百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルト能ハサルトキハ同法第十八條ニヨリ被告人等ヲ一圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人秋山高三郎上告趣意書第一點原審判決ニハ其ノ法律適用ニ關シ理由ノ不備存ス原審判決ハ「被告人石澤ハ自己ニ投票ヲ得ル爲被告人高橋ハ石澤ニ投票ヲ得セシムル爲同選舉區内俗ニ川東ト稱スル地域ノ各村有力者ヲ訪問センコトヲ共謀シ相携ヘテ同日午前九時半頃ヨリ夕刻ニ至ル迄ノ間選舉人タル同郡高橋村荻野清太郎同村三宅傳九郎同村鈴木惣九郎同郡藏増村市川岩次同村阿部彌太郎同郡高瀬村鐘水健治同郡干布村菱沼新三郎同郡楯山村石山與市同郡山寺村渡邊佐正同郡千歳村山川定七同村武田龜治同村會田庄八ノ各居宅ヲ順次歴訪シテ面會ヲ求メ以テ戸別訪問ヲ爲シタルモノナリ」トノ事實ヲ認定シ之ニ衆議院議員選舉法第九十八條第一項、第二百二十九條ヲ適用シタリ然レトモ同條項ニ謂フトコロノ戸別訪問トハ選舉人ヲシテ自己ニ投票セシムルコトヲ目的トスルカ故ニ戸別訪問ノ對照ハ選舉人ニシテ其ノ目的ハ其ノ選舉人ヲシテ自己ニ投票セシメントスルノ目的ヲ有スル場合ナラサルヘカ

ラス本件ニ於テ被告人カ判示十二名ヲ訪問シタルハ同人等カ選舉人タリシカ爲ニ非ス全ク同人等カ何レモ各其ノ居村有力者ナリシカ爲ナリ原審判決カ「各村有力者ヲ訪問センコトヲ共謀シ」ト判示セルニ因テ觀ルモ明カナリ被告人ハ選舉人ヲ訪問セント意圖シタルモノニ非ス各村有力者ヲ訪問セントシタルモノナリ偶共ノ者等カ選舉人タリシニ過キサリシモノナリ又被告人等ハ決シテ被訪問者ヲシテ自己ニ其ノ一票ヲ投セシメントシタルモノニ非ス各村有力者ニ付其ノ村内ニ於ケル情勢ヲ探ラントシタルニ外ナラスシテ又戸別訪問ノ行爲ハ他人ノ住居ニ付選舉人ニ面會ヲ求ムルノ意思アリ且連續シテ之ヲ爲スコトヲ必要トス連續ヲ要スルカ故ニ時間的場所的ニ相當ノ關聯アル場合ニ限ラサルヘカラス本件ノ場合ノ如キ一村ニ一人多クモ三人ヲ超エサルカ如ク廣キ地域ニ相互ノ間相當遠隔セルカ如キ人々ヲ訪問シタルカ如キハ之ヲ連續ト認ムヘキニ非ス以上ノ諸點ヲ考察スルトキハ本件被告人等ノ訪問ハ之ヲ法律ニ謂フトコロノ戸別訪問ト認ムヘキニ非ス普通選舉法釋義(第四百四十一頁)ニ「部落ヨリ部落ヘ其ノ一、二ノ地方有力者又ハ長老ノ住居ヲ訪問スルコトハ連續ト認メヌノカ穩當テアラウ」ト記述セルハ本條項ヲ正解セルモノニシテ原審判決ハ此ノ點ニ於テ疑律ノ錯誤ニ陷レル失當アリ法律上ノ理由具備セサルモノトシテ破毀セラルヘキモノナリト思料スト云フニ在レトモ

原判示ニ依レハ被告人石澤基吉ハ昭和十年九月二十五日施行ノ山形縣縣會議員選舉ニ際シ同年九月三日同縣東村山郡選舉區ヨリ立候補ノ届出ヲ爲シ同年七月中ニハ既ニ立候補ノ意思アリタルモノナルト

コロ同年七月二十八日被告人基吉ハ自己ニ投票ヲ得ル爲被告人高橋佐市ハ基吉ニ投票ヲ得シムル爲同選舉區内俗ニ川東ト稱スル地域ノ各村有力者ヲ訪問センコトヲ共謀シ相携ヘテ同日午前九時半頃ヨリ夕刻ニ至ル迄ノ間選舉人ナル同郡高橋村荻野清太郎同村三宅傳九郎同村鈴木惣九郎同郡藏増村市川岩次同村阿部彌太郎同郡高瀬村澁水健治同郡干布村菱沼新三郎同郡楯山村石山與市同郡山寺村渡邊佐正同郡千歳村山川定七同村武田龜治同村會田庄八ノ各居宅ヲ順次歴訪シテ面會ヲ求メテ戸別訪問ヲ爲シタリト云フニ在ルヲ以テ被告人兩名ノ右行爲ハ府縣制第三十九條ニ依リ府縣會議員選舉ニ付準用セラルル衆議院議員選舉法第九十八條第一項ニ所謂戸別訪問ニ該當スルコト明カナリ而シテ苟モ右ノ如ク投票ヲ得若ハ得シムルノ目的ヲ以テ選舉人ノ居宅ヲ歴訪シタルトキハ假令當該選舉人等カ孰レモ各村有力者ナル爲併セテ其ノ村内ニ於ケル選舉ノ狀勢ヲモ探知セントスル目的ヲ有シタリトスルモ之カ爲ニ右法條ニ所謂戸別訪問タルコトヲ妨クルモノニ非ス又其ノ所謂戸別訪問トハ連續シテ多數ノ選舉人宅ヲ訪問スルコトヲ指稱スルモノニシテ必スシモ一部落ト謂フカ如キ隣接シタル戸ヨリ戸ヘ間斷ナク訪問スル場合ノミニ限ルモノニ非サルヲ以テ右ノ如ク同日朝方ヨリ夕刻ニ至ル間ニ於テ同一選舉區内ノ數村ニ互リ一村一人乃至三人ノ選舉人宅ヲ歴訪シタル場合ヲモ包含スルコト勿論ナリトサレハ原判決カ被告人兩名ノ右行爲ニ對シテ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十八條第一項第二百二十九條ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ法律適用ニ關スル理由不備存スル

【要旨】

モノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事棚町丈四郎關與

○放火被告事件(昭和十年(九)第一五六〇號 棄却)

(昭和十年二月十八日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 庄子勇吉 辯護人 小齋甚治郎 古關 治泉

岩瀬 脩

【第一審】 仙臺地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

刑法第一百五條ノ放火罪ト公共危險

○判決要旨

火ヲ放チ火災保險ニ付シタル自己所有ノ刑法第九條第一項記載
物件ヲ燒燬シタル罪ハ公共危險ノ發生ヲ要件トセス

【參照】 刑法第九條 火ヲ放チ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物

艦船若クハ礦坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ
生セサルトキハ之ヲ罰セス

同法第一百五條 第九條第一項及ヒ第一百條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ
係ルト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬
シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年ニ處ス但第一審ニ於ケル未決勾
留日數中五十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ肩書地ニ於テ米穀商ヲ營ミ居ルモノナルトコロ豫テ約六千圓ノ借財アリテ其ノ支拂ニ窮シタル結果曩ニ其ノ
所有ニ係ル仙臺市新河原町東裏丁三番地所在間口三間興行六間半木造瓦葺二階建家屋一棟ニ付帝國火災保險株式會社
トノ間ニ保險金額三百八十五圓、橫濱火災海上保險株式會社トノ間ニ保險金額千圓及新日本火災海上保險株式會社ト
ノ間ニ保險金額六百圓ノ各火災保險契約ノ締結シアルヲ奇貨トシ之ヲ燒却シテ右保險金ヲ騙取シ以テ右債務ノ辨濟ニ
充テ窮境ヨリ脱セムコトヲ企テ昭和十年三月二日午前一時半頃當時空家ナリシ右建物階下奥八疊間東南隅ニ所携セル

刑法第一百五條ノ放火罪ト公共危險

新聞紙竝杉根小割等ヲ積ミ重ネ之ニ所携ノ燐寸ヲ以テ點火シ因テ同建物ノ柱鴨居疊建具等ヲ燒失セシメ以テ該建物ヲ燒燬シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ右所爲ハ刑法第一百五條第九條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處シ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中五十日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ從ヒ被告人ヲシテ全部ヲ負擔セシムヘキモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人小齋甚治郎上告趣意書第五點原判決ハ理由不備ノ違法アルモノナリ原判決ハ事實理由ニ於テ「被告人ハ肩書地ニ於テ米穀商ヲ營ミ居ル者ナルカ豫テ約六千圓ノ借財アリテ其ノ支拂ニ窮シタル結果曩ニ其ノ所有ニ係ル仙臺市新河原町東裏丁三番地所在間口三間奥行六間半木造瓦葺二階建家一棟ニ付(中略)之ヲ燒却シテ右保險金ヲ騙取シ以テ右債務ノ辨濟ニ充テ窮地ヨリ脱センコトヲ企テ昭和十年三月二日午前一時半頃當時空家ナリシ右建物(中略)ヲ燒燬シタルモノナリ」ト判示シタリ然レトモ右建物ハ判示ノ通り夫々火災保險契約ヲ締結シ在リト雖該建物ハ自己ノ所有ニ係ルモノナルカ故ニ公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰スヘキモノニ非サルコトハ刑法第九條第二項但書ノ規定ニ徴シテ明白ナリ然ルニ原判決ハ此ノ犯罪要件タル公共ノ危險ヲ生シタルヤ否ヤニ付毫モ説明スル所ナシ論者或

ハ曰ハク刑法第一百五條ノ規定存スルヲ以テ假令自己ノ所有ニ係ルトキト雖保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シト規定スルカ故ニ刑法第九條第一項ニ該當スヘシト原判決モ亦同様ノ解釋ヲ爲セリ然レトモ刑法第一百五條ハ單ニ刑ノ量定ニ付他人ノ物ヲ燒燬シタルト同例ニ取扱ハルルモノニシテ苟モ其ノ物件自己ノ所有ニ係ルモノナルトキハ縱ヤ刑法第一百五條ニ該當スル場合ト雖犯罪構成要件タル公共危險ヲ生シタルヤ否ヤヲ判決理由中ニ説明セサルヘカラス然ルニ原判決ハ比ノ點ニ付何等説明ヲ爲ササルハ理由不備ノ違法アルモノト信スト謂フニ在リ

【要旨】

仍テ按スルニ火ヲ放テ犯人ノ所有ニ係ル刑法第九條第一項記載ノ物件ヲ燒燬シタル場合ニ若シ同物件カ火災保險ニ付セラレタルモノナルニ於テハ他人ノ物ヲ燒燬シタルト同様刑法第九條第一項ノ刑ヲ以テ處斷スヘク同條第二項所定ノ公共危險ノ發生ヲ要件トセサルコトハ同法第一百五條ノ解釋上疑ヲ容レサルトコロナリ蓋シ刑法第九條第二項ニ於テ同第一項記載ノ物件カ犯人ノ所有ニ屬スル場合ニ公共危險ノ發生ヲ犯罪構成要件ニ加ヘタル上特ニ刑ノ減輕ヲ規定シタル所以ハ此ノ場合若シ公共ノ危險ヲ生セサルニ於テ結局斯ル行爲ハ寧ロ單ナル財産權ノ處分ニ過キスシテ毫モ不法ノ分子存セサルモノト認メタル結果ニ外ナラサルカ故ニ若シ該物件ニシテ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若ハ保險ニ付セラレタル場合ニ於テハ之ヲ燒燬スルコトハ損害ヲ他人ニ及シ若シクハ之ヲ及ス危險ヲ招來スルコトト爲リ單ナル財産權ノ處分トシテ之ヲ放任スルコトヲ許ササルニ鑑ミ此ノ如キ場合ニハ最早前

殺ノ如キ刑ノ減輕ヲ爲ス事由ヲ認メス他人ノ物ヲ燒燬シタルト同様ニ處罰スルヲ以テ最モ事理ニ適シ
シタモノト爲シ同法第十五條ノ規定ヲ置キタルモノニシテ所論ノ如ク同條ヲ以テ同法第九條第二
項ノ犯罪ノ成立ヲ前提トシタル刑ノ加重ノ規定ト解スヘキニ非ス從ツテ公共危險發生ノ如キハ全ク前
示犯罪成立ノ要件ト爲ルモノニ非サルナリ然レハ前審カ公共ノ危險ヲ生シタリヤ否ヤニ付何等判決理
由中ニ説示スルトコロナカリシハ當然ニシテ原判決ニハ所論ノ如ク理由不備ノ違法アルコトナシ論旨
理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事黒川涉關與

○收賄被告事件

(昭和十年(れ)第一六三一號 棄却)
同十二年二月二十一日第四刑事部判決

【上告人】 被告人 岸上清助 辯護人 森末繁雄

【第一審】 岡山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

將來ノ事情ニ繫ル職務ノ執行ト收賄罪

○判決要旨

公務員カ其ノ職務ノ執行ニ因リ將來ノ利益ヲ期待スル贈賄者ノ意
思ヲ諒シテ賄賂ヲ受ケタルトキハ右職務ノ執行力不特定又ハ未必
的ナル將來ノ事情ニ繫ル場合ト雖收賄罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非
ス

【参照】 刑法第九十七條第一項 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ
之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以上十年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又
ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二月ニ處ス但シ二年間右刑ノ執行ヲ
猶豫ス被告ヨリ金九十圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人岸上清助ハ昭和六年六月岡山縣技手トシテ赴任シ同縣土木技手兼道路技手ヲ奉職シ昭和七年九月十五日同縣笠
岡土木出張所長ヲ命セラレ昭和九年十一月二十一日休職ヲ命セラルル迄引續キ其ノ職ニ在リタルモノナルコロ其ノ

將來ノ事情ニ繫ル職務ノ執行ト收賄罪

在職中土木出張所長トシテ右笠岡出張所管内ニ於ケル縣營土木事業ニ付(一)工事額一千五百圓未滿ノ工事ニ於テハ自ラ請負人ヲ撰擇シテ隨意契約ノ形式ヲ以テ工事請負契約ノ締結(二)工費額五百圓以内ノ工事ニ付成功検査(三)工費豫算額二百圓未滿ノ範圍ニ於テハ縣營緊急工事ノ應急處置(四)工事ノ中間検査及十日以内ノ施行中止又ハ解除ヲ專行スル等ノ職務權限ヲ有シ居タル間ニ於テ

(一) 昭和八年十二月上旬頃同出張所管内土木請負業原審相被告人妹尾總一ニ於テ同人カ將來請負施行スヘキ縣營諸工事ニ關シ職務上便宜ヲ與ヘラレ度キ旨暗ニ請託シ其ノ謝禮トシテ同縣小田郡笠岡町大字笠岡ナル被告人岸上清助ノ住宅ニ於テ清助ノ實父牧野佐太郎死亡ニ因ル香奠ニ藉口シテ現金五十圓ヲ供與スルヤ其ノ情ヲ知リテ之ヲ受取リ(二) 其ノ頃同管内土木請負業原審相被告人藤井實平ニ於テ暗ニ前同趣旨ノ請託ヲ爲シ其ノ謝禮トシテ同所ニ於テ前同様現金二十圓ヲ供與スルヤ其ノ情ヲ知リテ之ヲ受取リ

(三) 其ノ頃同管内土木請負業小田寬ニ於テ香川縣三豐郡柞田村ナル被告人清助ノ實家ニ於テ郵便ニ依リ暗ニ前同様ノ請託ヲ爲シ其ノ謝禮トシテ前同様金額二十圓ノ郵便小爲替券一枚ヲ供與スルヤ其ノ情ヲ知リテ之ヲ受取リ以テ夫々其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノナリ而シテ被告人ノ判示賄賂收受ノ所爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ賄賂收受ノ所爲ハ刑法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定期刑ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二月ニ處シ尙被告人ニ對シテハ情狀ニ因リ刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ則リ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫シ被告人ノ收受シタル賄賂ハ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同法第九十七條第二項後段ニ依リ主文掲記ノ價格ヲ追徵スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人岸上清助辯護人森末繁雄上告趣意書第二點原判決ハ「(一)管内土木請負人妹尾總一カ將來請負施行スヘキ諸工事ニ關シ職務上便宜ヲ與ヘラレ度キ旨暗ニ請託シ…香奠ニ藉口シテ金五十圓ヲ供與之ヲ請取り云々第(二)(三)何レモ同趣旨ナリ」ト認定シ刑法第九十七條ニ所謂賄賂トハ公務員ノ特定ノ職務行爲ニ對シテ爲サル利益ニシテ不特定ナル職務行爲一般ニ對スル利益供與ハ賄賂ニ非ス原判決ノ言フ處ニ依レハ將來請負施行スヘキ縣營諸工事ニ關シ職務上便宜ヲ與ヘラレ度キ旨被告人ノ正當ニ行フヘキ職務行爲一般ニ對スル謝禮トシテ金員ヲ供與スヘキコトヲ判示シタルモノニシテ斯ノ如キ正當ナル不特定行爲ニ對シテ供與サル利益カ賄賂ナリトセンカ公務員ニ對スル就任ノ歡迎又ハ惜別ノ饗宴若シクハ記念品ノ供與ノ如キモ凡テ賄賂ト云ハサル可カラサル可シ故ニ本件ノ如キ香奠カ不正ノ授受ナリト認定スルカ爲ニハ其ノ當時又ハ過去ニ於ケル如何ナル職務關係ニ對スル請託謝禮ニ該當スルヤヲ具體的ニ明確ニ認定セサルヘカラサルモノト信ス然ルニ原判決ハ單ニ「將來請負施行スヘキ諸工事」ト判示シタルモノニシテ本件ノ如キ社會一般ニ何人カ見テモ香奠ナルコト一點疑ナキ金員ヲ賄賂ナリト認定シ收賄罪ニ問擬スルカ爲ニハ其ノ具體的牽連關係ヲ有スル職務關係ヲ明確ニ判示スヘキニ不拘コレヲ爲ササル原判決ハ理由不備ノ違法アルモノト信スト云フニ在レトモ

將來ノ事情ニ繫ル職務ノ執行ト收賄罪

賄賂罪ニ於ケル請託關係ハ請託者カ事項ヲ特定シテ囑託スルト否トヲ問ハサルヲ以テ苟モ公務員カ其ノ職務ノ執行ニ依リ將來ノ利益ヲ期待スル贈賄者ノ意思ヲ諒トシテ賄賂ヲ受ケタル以上ハ右職務ノ執行カ不特定又ハ未必的ナル將來ノ事情ニ繫ル場合ト雖收賄罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス原判決ノ認定判示シタル所ニ依レハ被告人ハ岡山縣笠岡土木出張所長トシテ同出張所管内ニ於ケル縣營土木事業ニ付(一)工事額一千五百圓未滿ノ工事ニ於テハ自ラ請負人ヲ選擇シテ隨意契約ノ形式ヲ以テ工事請負契約ノ締結(二)工費額五百圓以内ノ工事ニ付成功検査(三)工費豫算額二百圓未滿ノ範圍ニ於テハ縣營緊急工事ノ應急處置(四)工事ノ中間検査及十日以内ノ施行中止又ハ解除ヲ專行スル等ノ職務權限ヲ有シ居リタル間ニ於テ同出張所管内土木請負業妹尾總一外二名ヨリ孰レモ暗ニ同人等カ將來請負施行スヘキ縣營諸工事ニ關シ職務上便宜ヲ與ヘラレ度キ旨ノ請託ヲ受ケ其ノ謝禮トシテ被告人ノ實父牧野佐太郎ノ死亡ニ因ル香奠ニ藉口シテ各判示ノ現金又ハ郵便小爲替券ヲ收受シタリト云フニ在ルヲ以テ敍上ノ理由ニ依リ被告人ノ右判示行爲カ收賄罪ヲ構成スルコト明ニシテ原判決ノ判示ニ缺クル所アルコトナク記録ニ徵スルモ原判決ノ右認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナシ然レハ原判決ニハ毫モ所論ノ如キ違法アルコトナク論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事黒川涉關與

○放火被告事件(昭和十年(九)第一七一八號 棄却)

【上告人】 被告人 岡見ヨネ 辯護人 (三) 谷錦太郎 (森) 保祐昌

【第一審】 廣島地方裁判所吳支部 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

刑事訴訟法第三百四十六條ニ所謂自白ノ意義

○判決要旨

刑事訴訟法第三百四十六條ニ所謂自白ハ公判廷ニ於ケル口頭辯論ノ際ノ自白ヲ意味スルモノニシテ豫審等ニ於ケル自白ヲ包含スルモノニ非ス

【參照】 刑事訴訟法第三百四十六條 區裁判所ニ於テ被告人自白シタルトキハ訴訟關係人異議ナキトキニ限リ他ノ證據ヲ取調ヘサルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六年ニ處ス但シ第二審ニ於ケル未決勾留日數中五十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ十九歳ノ頃石工職岡見本造ニ嫁シ同人トノ間ニ十一歳ヲ頭ニ五人ノ子女ヲ儲ケ居レルモノナルカ昭和五年頃夫本造ハ肩書住居ニ當時其ノ所有金約千圓ニ落札ノ頼母子講金ヲ加ヘ約千四百圓ヲ投シテ家屋ヲ新築シ昭和六年日本簡易火災保險株式會社トノ間ニ右家屋ニ對シ保險金額二千二百二十五圓ノ火災保險契約ヲ締結シ昭和七年中該家屋ノ一部ヲ燒失シタル爲之ニ相當スル保險金一部ヲ受領シ更ニ該家屋ヲ改築シ同時ニ離家ヲ増築シ昭和九年七月頃ヨリハ保險金額ヲ前同様二千二百二十五圓ト爲シ該火災保險契約ヲ更新シ來リタルトコロ被告人ハ昭和八年三月頃ヨリ右家屋ニテ頼母子講ノ落札金ヲ資金トシテ吳服商ヲ始メタルモ商賣ニ不馴ノ爲失敗缺損ヲ招キ一方被告人方ニハ從前ヨリ多數ノ頼母子講ニ加入シ居リ昭和九年十二月頃ニハ其ノ返掛金毎月百圓ヲ越エ尙右營業ノ仕入等ニ充ツル爲石橋三助ヨリ同年十二月末日ヲ買戻期限ト爲シ右家屋ヲ賣渡擔保トシテ金五百圓ヲ借受ケ居タル外合計千數百圓ノ借財ヲ生シ商品ノ吳服類ヲモ入質シテ金策セサルヘカラサルノ窮狀ニ在リ而モ到底之等負債消却ノ見込ナカリシヨリ日夜懊惱苦慮シ居タルカ同年十二月二十四日夜當時被告人ハ妊娠八箇月ノ身前記住家奥六疊ノ間ニ寢ニ就キ夜中覺醒又々借財ニ思フ廻ラシテ煩悶シ同家裏側便所ニ赴キタル際偶々昭和七年中出火ニ依リ保險金ヲ受領シタルコトヲ想起シ茲ニ現在ノ苦境ヲ免カルル爲該住家ニ放火シテ之ヲ燒燬シ不法ニ前記保險金ヲ取得センコトヲ決意シ該便所ニ至ルニ當リ明リヲ採ル爲持出シタル燐寸ヲ擦リ點火セル其ノ軸木ヲ便所ノ窓ヨリ差延ヘ其ノ外側近ク該住家本屋ノ軒下ニ積重

ネアリタル枯松葉ニ火ヲ移シ直ニ寢間ニ立歸リタル爲火ハ忽チ燃エ擴カリ多數駈付ケ防火ニ努メタルモ右便所ヲ全燒シ之ニ接續セル被告人カ家族ト共ニ居住セル間口六間半奥行六間ノ木造瓦葺平家建本屋及木造瓦葺離家共上方部分ヲ燒燬シテ漸ク消止メ因テ現ニ人ノ住居ニ使用セル建造物ヲ燒燬シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示放火ノ所爲ハ刑法第百八條ニ該當スルヲ以テ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六年ニ處シ同法第二十一條ニ依リ原審未決勾留日數中五十日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人三谷錦太郎上告趣意書第四點區裁判所ニ於ケル外被告人自白シタルトキト雖他ノ證據ノ取調ヲ要スルコト刑事訴訟法第三百四十六條ノ明定スル所ナルニ原審ハ本件犯罪事實タル放火ノ點ニ付強制處分ニ於ケル豫審判事ノ被告人訊問調書ノ供述即チ自白ノ外他ノ證據ノ取調ヲ爲ササリシ違法アリ或ハ同條ニ自白トハ公判廷ニ於ケル自白ノ謂ナリトノ見解アルヘキモ凡ソ自白トハ被告人ノ不利益ナル供述ナルヲ以テ身體自由且最モ公平ニ行ハルル公判廷ニ於テ自白アル場合ニ於テスラ他ノ證據ノ取調ヲ爲スヲ要スル以上放火ノ事實ノ有無ニ付縱令結局ノ認定ハ原審ノ自由ナリトスルモ強制處分ニ於ケル被告人ノ自白ノ外他ノ證據ノ取調ヲ爲ササルヘカラサルニ其ノ之ヲ爲ササリシハ違法ト謂フヘシト

云フニアレトモ

【要旨】

刑事訴訟法第三百四十六條ニ所謂自白ハ公判廷ニ於ケル口頭辯論ノ際ノ自白ヲ意味スルモノニシテ豫
 審等ニ於ケル自白ヲ包含スルモノニ非ス而シテ原審公判調書ヲ閱スルニ裁判長ハ被告人ヲ訊問シタル
 後強制處分ニ於ケル被疑者ノ訊問調書檢證調書各豫審訊問調書等ヲ讀聞ケ且押收物件ヲ示シ逐一意見
 辯解ヲ求メ證據調ヲ爲シタルコトヲ認メ得ヘク所論ノ如ク強制處分ニ於ケル被告人ノ自白ノ外他ノ證
 據ノ取調ヲ爲ササルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
 以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事池田克關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和十一年(九)第八九號 棄却)
(同年二月二十四日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 黒田松雄

【第一審】 大垣區裁判所 【第二審】 岐阜地方裁判所

○判示事項

勞務者ノ選任

○判決要旨

選舉運動者カ偶自宅ニ來合セタル友人ヲシテ專屬的ニ候補者ノ推
 薦狀九百通ノ表書ヲ爲サシメタル行爲ハ勞務者ヲ選任シタルモノ
 ニ該當ス

【参照】 府縣制第三十九條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第十章及第
 十一章並第四百四十條第二項、第四百四十二條及第四百四十七條ノ規定ヲ準用ス但シ議員
 候補者一人ニ付定ムヘキ選舉委員ノ數、選舉運動ノ爲使用スル勞務者ノ數及選舉運
 動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

同法第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス
 衆議院議員選舉法第八十九條第一項 選舉事務長ニ非サレハ選舉事務所ヲ設置シ又
 ハ選舉委員若ハ選舉運動ノ爲使用スル勞務者ヲ選任スルコトヲ得ス

同法第三十一條 第八十九條第一項、第九十九條又ハ第九十九條ノ規定ニ違反シタル
 者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

勞務者ノ選任

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ二十日間勞役場ニ留置ス被告人ニ對シ衆議院議員選舉法第三十七條第一項ノ規定ヲ適用セサル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年九月二十五日施行ノ岐阜縣會議員選舉ニ際シ同月二十一日被告人肩書住居ニ於テ同議員候補者松永弘ノ爲居村其ノ他ノ選舉人約九百名ニ對スル推薦狀ヲ郵送セントスルニ當リ同候補者ノ選舉事務長ニアラスシテ其ノ勞務者ニアラサル奧村正二三ヲシテ推薦狀ノ表書ヲ爲サシメ以テ選舉運動ノ爲使用スル勞務者ヲ選任シタルモノナリ而シテ推薦狀ノ封筒ノ表書ヲ爲サシメタル所爲ハ選舉運動ノ爲勞務ヲ提供セシメタルモノト認ムルヲ相當トスヘク辯護人ヨリ此ノ點ニ關シ或仕事ノ完成ヲ目的トスル請負契約ニシテ勞務者ニアラサル旨辯解スレトモ之ヲ採用セス法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ府縣制第三十九條第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法第八十九條第一項、第三百十一條ニ該當スルヲ以テ罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處スヘク刑法第十八條ヲ適用シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定メ尙當裁判所ハ其ノ犯情ニ因リ被告人ニ對シ府縣制第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法第三十七條第一項所定ノ選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セサルヲ相當ト認ムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書ハ衆議院議員選舉法罰則第三百十條第二項ノ適用ニ依リ同法第九十六條第二項ノ勞

務提供ニ問ハレ第二審ニ於テ有罪ノ判決相受ケタルモ事實推薦狀發送ニ當リ偶々來合セシ隣佑ノ親友奧村正二三ニ「煙草(バット)ヲヤルカラ宛名ヲ書イテクレ」ト依頼シタルニ快諾シテ代筆セリ而シテ是レハ恰モ推薦狀ヲ印刷屋ニ印刷ヲ依頼スルト同様ノ性質ニシテ斯ル事例ハ當地方諸所ニ散見スル處ナリ亦其ノ筆耕中駐在所ノ巡查モ來合セ此ノ様子ヲ認メラレタルモ一言ノ注意モアラサリキ加之曩ニ司法内務兩省ヨリモ「專屬的ニアラサル請負」ハ差支ナシトノ解釋ヲ新聞紙上ニテ承知セリ而シテ私ハ當初ヨリ斯ル一時的ノ請負行爲ハ毫モ罪トナラサルモノトノ信念ノ下ニ代筆ヲ受ケタル次第ナリト云フニ在レトモ

議員候補者推薦狀ノ表書ヲ記入スルニ過キサル行爲ハ單純ナル機械的勞務ニ服スルモノト謂フヘク殊ニ被告人カ奧村正二三ヲシテ表書ヲ記入セシメタル推薦狀ハ九百通ニシテ比較的多數ナルト右記入カ被告人居宅ニ於テ行ハレタルトニ依リ之ヲ稽フレハ奧村ハ被告人ノ爲專屬的ニ右記入ニ從事シタルモノナルコト明白ナレハ判示被告人ノ行爲ハ選舉運動ノ爲使用スル勞務者ヲ選任シタルモノトス論旨ニ主張スルカ如ク被告人ハ奧村ノ親友ニシテ偶被告人方ニ來合ハセタル同人ニ對シ煙草バットヲ與フル約束ノ下ニ右記入ヲ爲サシメタルモノトスルモ之カ爲ニ所論ノ如ク右奧村ノ行爲ヲ以テ專屬的ニ爲サレタルニ非スト爲シ又ハ之ヲ請負ナリトシ印刷業者又ハ筆耕業者ニ爲サシメタルト同一視シ之ヲ專屬的ニ非サル請負ナリト爲スヘカラス被告人カ本件行爲ノ如キハ罪トナラスト信シ居リタリトスルモ這

勞務者ノ選任

ハ法ノ不知ニ過キス記録ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認ムルヲ得サルヲ以テ論旨ハ理由ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事池田克關與

○重要輸出品取締規則違反被告事件 (昭和十年(九)第一六六三號 棄却)
(同十一年二月二十二日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 小早瀬利光 辯護人 早稻田逸郎

【第一審】 横濱區裁判所 【第二審】 横濱地方裁判所

○判示事項

重要輸出品取締規則違反ト會社ノ使用人ノ處罰

○判決要旨

重要輸出品ノ輸出ヲ業トスル合名會社ノ使用人ニシテ輸出一切ノ事務ヲ擔當スル者重要輸出品取締規則違反ノ行爲アリタルトキハ同規則ニ依リ處罰セラルヘキモノトス

【参照】 重要輸出品取締規則第一條 本法ニ於テ重要輸出品ト稱スルハ左ノ各號ノ一

重要輸出品取締規則違反ト會社ノ使用人ノ處罰

ニ該當スルモノヲ謂フ

七 セルロイド製品中飾、長又ハ直徑四吋ヲ超ユル玩具

同第二條 重要輸出品ハ商工大臣ノ定ムル検査標準ニ依リテ行フ検査ニ合格シタルモノニ非ザレバ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ検査ヲ受ケズシテ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得
燐寸ヲ朝鮮又ハ臺灣ニ移出スル場合亦前項ニ同シ
前二項ノ検査ハ商工大臣ノ認可ヲ受ケ組合若ハ其ノ聯合會、公益法人又ハ道府縣ニ於テ之ヲ行フ

同第三條 本則ノ規定ニ違反シテ重要輸出品ヲ輸出シ移出シ、又ハ積戻シタル者ハ百圓以下ノ罪金ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ東京市淺草區淺草橋三丁目四番地玩具販賣竝ニ輸出商合名會社加藤榮商店ノ使用人ニシテ輸出ニ關スル事務ヲ擔當シ居ルモノナルトコロ昭和十年四月二十七日長サ又ハ直徑四吋ヲ超ユルセルロイド製玩具ヲ營利ノ目的ヲ以テ輸出スルニハ成規ノ検査ヲ受クルコトヲ要スルコトヲ知リナカラ商工大臣ノ認可ヲ受ケタル工業組合ノ検査ヲ經サル長約七、八吋ナルセルロイド製玩具百三十四打ヲ同會社營業ノ爲マニラ所在ノ高橋商店ノ註文ニ應シ横濱港ヨリマニ

ラニ向ケ輸出スル目的ヲ以テ情ヲ知ラサル丸三運搬合資會社ヲシテ横濱税關構内ニ搬入セシメ以テ輸出セントシタルモ同稅關係員ニ發見セラレ其ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ重要輸出品取締規則第三條第二條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處スヘク被告人ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人早稻田逸郎上告趣意書原判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人ハ玩具販賣竝ニ輸出商合名會社加藤榮商店ノ使用人ニシテ輸出ニ關スル事務ヲ擔當シ居ルモノナルトコロ昭和十年四月二十七日長又ハ直徑四吋ヲ超ユルセルロイド製玩具ヲ營利ノ目的ヲ以テ輸出スルニハ成規ノ検査ヲ受クルコトヲ要スルコトヲ知リナカラ商工大臣ノ認可ヲ受ケタル工業組合ノ検査ヲ經サル長サ約七、八吋ナルセルロイド製玩具百三十四打ヲ同會社營業ノ爲マニラ所在ノ高橋商店ノ註文ニ應シ横濱港ヨリマニラニ向ケ輸出スル目的ヲ以テ情ヲ知ラサル丸三運搬合資會社ヲシテ横濱税關構内ニ搬入セシメ以テ輸出セントシタルモ同稅關係員ニ發見セラレ其ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリ云々」ト判示シ右所爲ハ重要輸出品取締規則

重要輸出品取締規則違反ト會社ノ使用人ノ處罰

則第三條第二條ニ該當スルモノトシテ罰金刑ヲ適用處斷セラレタリ然レトモ抑重要輸出品取締規則ノ設ケラレタル趣旨精神ハ云フ迄モナク重要輸出品ト指定セラレタル商品ヲ輸出スルニ付テハ成規ノ檢査ヲ受クルコトヲ要シ即チ換言スレハ重要輸出品ニ付一定ノ機關ノ檢査ヲ受ケシメ海外輸出ノ日本製品ノ聲價ヲ維持シ以テ海外貿易ノ進展ヲ圖ルニ出ツルコト明白ナリ從テ前記取締規則ノ對照タルヘキモノハ實ニ重要輸出品ヲ輸出シ又ハ移出セントスル營業主體ヲ罰セントスル趣旨精神ニシテ偶輸出行爲ヲ擔當シタル個々ノ行爲者ヲ罰スルノ法意ニ非スト謂ハサルヘカラス蓋シ前記取締規則第二條ハ「重要輸出品ハ商工大臣ノ定ムル檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ檢査ヲ受ケスシテ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得」ト規定シ第三條ハ「本則ノ規定ニ違反シテ重要輸出品ヲ輸出シ移出シ又ハ積戻シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス」ト規定シ即チ營業主體ヲ罰スルノ趣旨ナルコト明白ナリト謂ハサルヘカラス營利ノ目的ヲ以テ輸出スル者ハ營業主體タルヘキ主人ニシテ個々ノ店員ニ非ス地方長官ノ認可ヲ受クル者亦個々ノ店員ニ非スシテ營業主體タルヘキモノナルヤ勿論ナリ即前示取締規則ノ趣旨ハ營利ノ目的ヲ以テ檢査ヲ受ケサル商品ヲ輸出シ又ハ輸出セントシタル者即チ輸出ニ關スル責任者ヲ罰スルノ趣旨ト解スヘク個々ノ輸出事務擔當ノ行爲者ヲ罰スルノ精神ニ非サルモノト云ハサルヘカラス被告人ハ一使用人ニシテ自己ノ計算自己ノ利益ニ於テ行動スルモノニ非ス自己カ輸出スルモノニ非ス即前記法條

【附則】

ニ所謂營利ノ目的ヲ以テ輸出セントスルモノニ該當セサルモノト謂ハサルヘカラス今更ニ之ヲ重要輸出品ノ檢査ヲ爲スヘキ工業組合ニ關スル工業組合法第三條ニ依ルモ其ノ檢査ヲ受クル者ハ組合員即工業者自體ニシテ個々ノ店員使用人ニ非サルコト甚タ明白ナリト謂ハサルヘカラス若シ之ヲ然ラストセハ多クノ場合營業者即主人ハ常ニ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責任ヲ店員小僧等ノ使用人ニ轉嫁シ其ノ責ヲ免ルヘク本取締規則ヲ設ケタル精神ハ遂ニ没却セララルニ至ルヘシ要之前示取締規則ハ對照タルヘキ犯則者ハ營業主體タルヘキモノニシテ個々ノ使用人ニ非ス被告人ハ當該犯則事件ノ主體タルヘキモノニ非ス然ルニ原判決カ一使用人タル被告人ニ對シ前記法條ヲ適用處斷シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタル違法アルモノト信スト云ニアリ

仍テ按スルニ重要輸出品取締規則ニ依レハ長又ハ直徑四吋ヲ超エルセルロイド製玩具其ノ他同規則第一條ニ所謂重要輸出品ハ地方長官ノ認可ヲ受クル場合ノ外商工大臣ノ定ムル標準ニ依リテ行フ檢査ニ合格シタルモノニ非サレハ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ス之ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ又其ノ未遂罪モ之ヲ罰スヘキモノトス而シテ敍上重要輸出品ノ輸出行爲ハ法人ニ非サル者ハミナラス法人モ爲シ得ヘキモノナルコトハ言ヲ俟タサルトコロニシテ而モ法人カ右ノ規則ニ違反シタル場合ハ何人ヲ處罰スヘキヤハ同規則ニ毫モ定ムルトコロナシ思フニ法人ハ原則トシテ犯罪能力ナキモノナルヲ以テ特ニ法人ヲ處罰スル旨ノ規定ナキ以上事實行爲者ヲ處罰スヘキモノト解スルヲ妥當

トス本件ニ於テ原審ノ確定シタル事實ニ依レハ被告人ハ東京市淺草區淺草橋三丁目四番地玩具販賣並ニ輸出商合名會社加藤榮商店ノ使用人ニシテ輸出ニ關スル事務ヲ擔當シ居ルモノナルトコロ昭和十年四月二十七日長又ハ直徑四吋ヲ超ユルセルロイド製玩具ヲ營利ノ目的ヲ以テ輸出スルニハ成規ノ検査ヲ受クルコトヲ要スルコトヲ知リナカラ商工大臣ノ認可ヲ受ケタル工業組合ノ検査ヲ經テ長サ約七・八吋ナルセルロイド製玩具百三十四打ヲ同會社營業ノ爲「マニラ」所在ノ高橋商店ノ注文ニ應シ横濱港ヨリ「マニラ」ニ向ケ輸出スル目的ヲ以テ情ヲ知ラサル丸三運搬合資會社ヲシテ横濱稅關構内ニ搬入セシメ以テ輸出セントシタルモ同稅關係員ニ發見セラレ其ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリト謂フニアリテ被告人ハ合名會社加藤榮商店ノ使用人ナリト雖主トシテ輸出ニ關スル事務ヲ擔當シ即玩具ノ輸出事務ニ關スル限リ右會社ノ爲ニ一切之ヲ擔當シ居リタル者ナルコトヲ推認スルニ餘リアリ而モ本件セルロイド製玩具百三十四打ハ「マニラ」所在ノ高橋商店ノ注文ニ應シ横濱港ヨリ「マニラ」ニ向ケ輸出セント爲シタル行爲ナルヲ以テ營利ノ目的ヲ有スルモノナルコトハ論ヲ俟タス果シテ然ラハ本件行爲ニ付テハ被告人ハ行爲者トシテ其ノ責ニ任スヘキハ當然ナリト謂ハサルヘカラス從テ之ト同趣旨ニ出タル原判決ハ相當ニシテ論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事武松久吉關與

【要旨】

○偽證偽證教唆有價證券虛偽記入行使詐欺未遂被告事件

(昭和十年(九)第一六六〇號 棄却)
同十一年二月二十四日第一刑事部判決

【上告人】 被告人 中山 仙吉 辯護人 山崎 佐六
外一名

【第一審】 宇都宮地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

刑法第六十二條第二項ニ所謂虛偽ノ記入

○判決要旨

刑法第六十二條第二項ニ所謂虛偽ノ記入トハ有價證券ニ眞實ニ反スル記載ヲ爲ス總テノ行爲ヲ指稱シ其ノ記入カ既ニ作成セラレタル有價證券ニ於テ行ハルルト現ニ作成スル有價證券ニ於テ行ハ

刑法第六十二條第二項ニ所謂虛偽ノ記入

【參照】 刑法第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人中山仙吉ヲ懲役一年六月ニ被告人鈴木祭之助ヲ懲役一年ニ處ス押收ニ係ル約束手形（昭和十年領第十八號ノ二）ノ虛偽記入ノ部分ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人中山仙吉同鈴木祭之助及第一審相被告人小林喜一郎ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一（省略）

第二 被告人鈴木祭之助ハ昭和九年三月頃原審相被告人小林喜一郎ノ實弟小林正夫ヨリ同人カ宇都宮市大寬町大久保鼎ヨリ賃借セル同市日野町二十五番地所在三階建家屋一棟ハモト原審相被告人喜一郎ノ所有ナリシトコト喜一郎ヨリ昭和七年五月三日之ヲ大久保鼎ニ金千百圓ニテ賣渡シタルモノナルコト及喜一郎カ宇都宮市池上町蒲鉾商片岡恒次其ノ他ニ對シ多額ノ債務アルコトヲ聞知シ被告人中山仙吉ト協議シタル結果兩名ハ右家屋ノ賣買ヲ以テ右債權者片岡恒次ヲ詐害スル行爲ナリトシテ裁判所ニ對シ其ノ取消ノ裁判ヲ求メ其ノ確定ニ因リ原審相被告人喜一郎ヲシテ該家屋ヲ取戻シ得ヘキ財産上不法ノ利益ヲ得セシメント共謀シ片岡恒次カ右家屋ノ賣買アリタル昭和七年五月三日以前ニ喜一郎ニ對シ有シタル債權ハ合計金九百圓餘ナリシモ其ノ證據薄弱ナリシヨリ先ツ其ノ頃右事件ノ證據

ト爲サンカ爲被告人中山仙吉及鈴木祭之助ハ共謀シ行使ノ目的ヲ以テ小林正夫ニ命シ同人方ニ於テ其ノ頃同人ノ作成シタル小林喜一郎振出名義ノ片岡恒次宛金額九百四十五圓二十九錢ナル約束手形（昭和十年領第十八號ノ二）ニ振出日及支拂期日ヲ廻ラシメテ夫々昭和七年四月一日及同年同月三十日トシ猶右振出日附ニ於テ原審相被告人喜一郎ノ實母小林ナカカ支拂保證ヲ爲シタル旨記入セシメ以テ右手形ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル上片岡恒次ヲシテ情ヲ知ラサル辯護士猪狩滿ヲ訴訟代理人トシ大久保鼎ニ對シ昭和九年四月五日「片岡恒次ハ前記家屋賣買開始前ナル昭和七年四月一日ニ於テ原審相被告人小林喜一郎ニ對シ前記手形債權ヲ有シタルモノニシテ右家屋賣買ハ債權者ヲ詐害スル行爲ナリトシ之カ取消ヲ求ムル訴訟」ヲ宇都宮地方裁判所ヘ提起セシメ昭和九年五月二十一日同辯護士ヲシテ前記手形ヲ證據トシテ同裁判所ニ提出セシメテ行使シ

次テ被告人仙吉ハ同事件ノ證人トシテ原審相被告人小林喜一郎及被告人鈴木祭之助ノ訊問ノ申出ヲ爲サシメ同人等カ證人トシテ昭和九年七月十九日ノ口頭辯論期日ニ出頭スヘキ旨呼出ヲ受クルヤ同月十八日同市日野町二十五番地小林正夫方ニ於テ被告人中山仙吉及鈴木祭之助ハ原審相被告人喜一郎ニ對シ前記ノ事情ヲ告ケタル上前記約束手形ハ昭和七年四月一日眞實同人ニ於テ振出シタルモノニシテ當時片岡恒次ニ對シ右手形債務ヲ負擔シタルニ相違ナキ旨虛偽ノ事實ヲ證言スヘキコトヲ依頼シ以テ偽證ヲ教唆シ又被告人仙吉及被告人祭之助ハ祭之助ニ於テ昭和七年五月三日以前ニ大久保鼎方ニ到リ同人ニ面接シタル事實全然ナキニ拘ラス其ノ以前ニ原審相被告人小林喜一郎方ノ債務整理ノ依頼ヲ受ケ右大久保方ヲ訪レ同人ニ面接シ債務支拂猶豫ヲ求メタル際喜一郎ハ他ニ多額ノ債務アル事實ヲ告ケタル旨虛偽ノ事實ヲ證言セムコトヲ共謀シ

原審相被告人小林喜一郎ハ右教唆ヲ承諾シ被告人鈴木祭之助ト右共謀ニ基キ孰レモ同月十九日前記裁判所ニ於テ證人トシテ宣誓シタル上其ノ眞實ニアラサルコトヲ知悉シナカラ夫々右依頼セラレ又ハ共謀シタル通り虛偽ノ事實ヲ

陳述シテ偽證シ

以テ右被告人兩名及原審相被告人小林喜一郎ハ共謀ノ上右裁判所ヲ欺罔シ眞實片岡恒次カ前記家屋賣買前原審相被告人小林喜一郎ニ對シ前記手形債權ヲ有シ大久保鼎ハ他ノ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ右家屋ヲ買受ケタルモノト誤信セシメ同年十二月二十七日片岡ニ對シ勝訴ノ判決ヲ得セシメタルモ大久保ニ於テ控訴中右犯行發覺シ前示目的ヲ遂ケサリシモノナリ

法律ニ照スニ被告人中山仙吉ノ判示第一ノ偽證教唆ノ點ハ刑法第六十九條第六十一條第一項ニ判示第二ノ有價證券虛偽記入ノ點ハ同法第六十二條第二項第一項第六十條ニ同行使ノ點ハ同法第六十三條第一項第六十條ニ判示第二ノ偽證教唆ノ點ハ同法第六十九條第一項ニ偽證ノ點ハ同法第六十九條第六十條ニ詐欺未遂ノ點ハ同法第二百四十六條第二項第二百五十條第六十條ニ各該當スルトコロ判示第二ノ有價證券虛偽記入同行使及詐欺未遂判示第二ノ偽證教唆ト右詐欺未遂判示第二ノ偽證ト右詐欺未遂トノ間ニハ夫々互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シ結局最モ重キ判示第二ノ偽證罪ノ刑ヲ以テ處斷スヘク之ト判示第一ノ偽證教唆ハ併合罪ニ係ルヲ以テ同法第四十五條第四十七條第十條ニ依リ重キ前者ノ刑ニ併合罪ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役一年六月ニ處スヘク

被告人鈴木祭之助ノ判示所爲中有價證券虛偽記入ノ點ハ刑法第六十二條第二項第一項第六十條ニ同行使ノ點ハ同法第六十三條第一項第六十條ニ偽證教唆ノ點ハ同法第六十九條第六十一條第一項ニ偽證ノ點ハ同法第六十九條第六十條ニ詐欺未遂ノ點ハ同法第二百四十六條第二項第二百五十條第六十條ニ各該當スルトコロ右有價證券虛偽記入同行使及詐欺未遂右偽證教唆ト詐欺未遂トノ間ニハ夫々互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シ結局最モ重キ右偽證罪ニ付定メラレタル刑罰範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役一年ニ處スヘク

押收ニ係ル主文掲記ノ物件ハ本件詐欺未遂ノ供用物件ニシテ被告人等以外ノ者ニ屬セサルニ依リ刑法第十九條第四十九條第一項ニ依リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ從ヒ主文ノ如ク之カ負擔ヲ命スヘキモノトス

主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

理 由

各被告人辯護人山崎佐六上告趣意書第一點原判決ハ被告人中山仙吉及鈴木祭之助ハ共謀シ小林正夫ニ命シ同人方ニ於テ其ノ頃同人ノ作成シタル小林喜一郎振出名義ノ片岡恒次宛金額九百四十五圓二十九錢ナル約束手形ニ振出日及支拂期日ヲ遡ラシメテ夫々昭和七年四月一日及同年同月三十日ト記入セシメタル事實ヲ認定シ之ヲ有價證券虛偽記入罪ニ該當スル旨判示シタリ然レトモ作成名義人小林喜一郎ハ小林正夫ノ兄ニシテ實印ヲモ正夫ニ預ケ居リ且本件手形作成ヲ承認シ居リシコトハ一件記録上明カニシテ民事廷ニ於ケル同人ノ右手形ニ付テノ證言ニ依リテモ一點疑ナキトコロナリ原判決カ手形偽造罪ヲ以テ問擬セス虛偽記入罪ノ認定ヲ爲シタル點ヨリ見ルモ議論ノ餘地ナキモノト謂フヘシ即チ正夫ハ兄喜一郎ノ代人トシテ手形ノ事實上ノ行爲ヲ爲シタルニ過キスシテ眞實ノ手形振出人ハ其ノ名義人

タル喜一郎本人ナリト認ムヘキモノトス而シテ本人カ約束手形ヲ振出ス場合振出日カ事實ニ相違シ又支拂期日ヲ遡ラシメテ記入シタリトスルモ右ハ有價證券虛偽記入罪ヲ構成セサルモノト解スルヲ刑法ノ精神ニ適合スルモノト信ス元來文書(廣義)偽造罪ハ其ノ作成名義ヲ偽ルヲ以テ本質トスルモノニシテ作成名義人カ爲ス虛偽ノ記入ハ其ノ記入カ文書偽造ト性質類似セル場合又ハ社會ノ信用ヲ害スルコト偽造ト同様ナル場合ニ限リ例外トシテ之ヲ罰スルモノナルカ故ニ其ノ取扱ニ付テハ慎重ナル考慮ヲ要スルモノトス學者カ虛偽記入罪ノ例示トシテ舉クル株式ノ拂込ナキニ拘ラス之レアルカ如ク記載シテ株券ヲ發行スルカ如キ又ハ貨物ノ存在セサルニ貨物證券ヲ發行スルカ如キ行爲ハ元來發行人ニ於テ斯ル權限ナキモノト謂ヒ得ヘク從テ作成名義ヲ偽造シタルト同一視セララルノミナラス人ノ信用ヲ害スルコト偽造ノ場合ト毫モ異ルコトナキモノナレハ之ヲ處罰スルヤ當然ナリト雖手形殊ニ約束手形ニ於テハ大ニ其ノ趣ヲ異ニスルモノナレハ之ヲ同一ニ論スヘカラス手形ハ形式證券ニシテ其ノ記載カ全部事實ト符合スルコトヲ要件トセス振出人其ノ他ノ手形行爲者ハ手形文言ニ從ヒテ責任ヲ負フモノナレハ手形振出日カ事實ニ相違スルト否トニ依リテ其ノ手形ノ效力ニ何等影響ヲ與フルモノニ非ス支拂期日ヲ遡リテ記載スルモ亦同様ニ論スルコトヲ得ヘシ如斯振出日又ハ支拂日ノ記載カ事實ニ符合セストスルモ手形行爲者ハ其ノ責任ヲ負ヒ從テ人ノ手形ニ付テノ信用ヲ害シ世ニ害毒ヲ流スコトナキモノナレハ前記例示ノ場合ト同一視シ之ヲ虛偽記入ノ嚴刑ヲ以テ處斷スル必要モ亦理由モ存スルコトナ

シ故ニ手形ノ效力ニ影響ヲ及ホサス又他ノ信用ヲ害セサル如キ事實ト符合セサル記載ハ刑法第六十二條第二項ノ犯罪ヲ構成セサルモノト解スヘキモノト信ス若シ單ニ振出日時ノ相違ヲ以テ一々處罰スル趣旨ノモノトセハ多クノ手形行爲者ハ其ノ罪人トナリ殊ニ慣習的ニ行ハルル小切手ノ先日附發行ノ如キ悉ク之ヲ罰スルヲ要スヘク商取引ノ圓滑ハ顯ク阻害セララルニ至ルヘシ之レ豈法ノ精神ナランヤ然ルニ原判決力之ヲ以テ有價證券虛偽記入ノ犯罪ヲ構成スルモノトナシタルハ法則ヲ誤解シ不法ニ法律ヲ適用シタル違法アルモノト思料スト云フニ在レトモ

【要旨】

刑法第六十二條第二項ニ所謂虛偽ノ記入トハ有價證券ニ眞實ニ反スル記載ヲ爲ス總テノ行爲ヲ指稱スルモノニシテ其ノ記入カ既ニ作成セラレタル有價證券ニ於テ行ハルルト現ニ作成スル有價證券ニ於テ行ハルルトハ敢テ問フ所ニ非ス而シテ原審カ證據ニ依リ認定シタル事實ハ被告人等ハ共謀ノ上行使ノ目的ヲ以テ小林正夫ニ命シ同人方ニ於テ昭和九年三月頃判示約束手形ニ振出日及支拂期日ヲ各遡及シテ昭和七年四月一日及同月三十日トシ尙右振出日附ニ於テ小林ナカカ支拂保證ヲ爲シタル旨虛偽ノ記入ヲ爲シタルモノナリト云フニ在リテ振出日支拂期日並保證ニ關シ眞實ニ反スル事實ヲ有價證券ニ記入シタルモノナレハ刑法第六十二條第二項ノ罪ヲ構成スルモノナルコト寔ニ明白ナリト謂フヘシ所論ハ小切手ノ先日附發行ノ場合ト比較シ本件ニ於ケル振出日及支拂期日ノ遡記ヲ以テ虛偽記入ニ非スト主張スルモ先日附發行ハ小切手ノ取引ノ便宜上正當視セララルモノニシテ本件ノ如ク不正ノ目的

ヲ以テ日附ヲ遡記スル場合ヲ之ト同一視スヘキモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事武松久吉關與

○恐喝未遂被告事件(昭和十年(九)第一六七六號 棄却)

【上告人】 被告人 池田 巖 辯護人 島田 武夫
【第一審】 長崎區裁判所 【第二審】 長崎地方裁判所

○判示事項

會社ノ庶務係ニ對スル恐喝ト恐喝罪ノ著手

○判決要旨

恐喝罪ハ會社ノ庶務係ニ對シテ恐喝手段ヲ施シ其ノ者ヲシテ會社

ノ重役ニ通達セシメ間接ニ之ヲ恐喝スル場合ニ於テモ成立シ斯ル
場合ニ於ケル實行ノ著手ハ其ノ庶務係ニ恐喝手段ヲ施シタル時ニ
在ルモノトス

【參照】 刑法第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲
役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同
シ
同法第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但
自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人巖ヲ懲役八月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
第一 (事實省略)

第二 被告人巖及相被告人伊三郎ノ兩名ハ日本足袋株式會社製造ニ係ル旭地下足袋ノ底裏ニ其ノ商標タル旭及太陽牌
ヲ標示シアルヲ奇貨トシ茲ヲ以テ強ヒテ會社ヲシテ金員ヲ交付セシムコトヲ共謀シ之ニ基キ被告人巖ニ於テ昭和
九年七月三十一日久留米市ノ同會社ニ赴キ庶務係橋樑要ニ對シ自分ハ長崎市所在長崎報知新聞社ノ社長ナルカ貴社
ノ後援ヲ得度ク尙貴社製造ノ旭地下足袋ノ底裏ニハ商標トシテ太陽ヲ象リ押シアルカ之ハ我國旗ヲ土足ニテ踏ムコ
トトナリ刻下ノ非常時ニ際シ國民精神ノ作興上甚タ面白カラストテ其ノ趣旨ノ投書カ各方面ヨリ自分ノ社ニ來リ居

會社ノ庶務係ニ對スル恐喝ト恐喝罪ノ著手

レモ此ノ際貴社カ自分ノ社ヲ後援シ吳ルレハ夫等投書ハ都合ヨク處置スヘク若シ之ヲ放任シテ新聞ニ掲載センカ目下非常時ノコト故必スヤ右地下足袋不買同盟カ起リ爲ニ貴社ニ於テ營業上甚大ナル不利益ヲ蒙ルナラムト申向ケ以テ被告人ノ要求ヲ容レ後援金ヲ提供セサレハ會社ニ財産上損害ヲ蒙ル虞アル前示商標表示方法ニ關スル攻撃記事ヲ新聞紙ニ掲載スヘキコトニ依リ會社重役ヲ畏怖セシメテ金員ヲ交付セシメントシタルモ前示要ニ於テ自ラ立所ニ之ヲ峻拒セシ爲恐喝ヲ遂ケサリシモノナリ

法律ニ照スニ被告人嚴ノ判示所爲ハ刑法第二百五十條第二百四十九條第一項第六十條ニ該當スルヲ以テ所定期刑範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役八月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人池田巖辯護人島田武夫上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由第二ニ於テ「被告人ハ日本足袋株式會社製造ニ係ル旭地下足袋ノ底裏ニ其ノ商標タル旭及太陽牌ヲ表示シアルヲ奇貨トシ會社ヲシテ金員ヲ交付セシメントシ昭和九年七月三十一日久留米市ノ同會社ニ赴キ庶務係檜橋要ニ對シ自分ハ長崎市所在長崎報知新聞社ノ社長ナルカ貴社ノ後援ヲ得度ク尙貴社製造ノ旭地下足袋ノ底裏ニハ商標トシテ太陽ヲ象リ押シアルカ之ハ我カ國旗ヲ土足ニテ踏ムコトト爲リ刻下ノ非常時ニ際シ國民精神ノ作興上甚タ面白カラストテ其ノ趣旨ノ投書カ各方面ヨリ自分ノ社ニ來リ居レルモ此ノ際貴社カ自分ノ社ヲ後

援シ吳ルレハ夫等投書ハ都合ヨク處置スヘク但之ヲ放任シテ新聞ニ掲載センカ目下非常時ノ事故必スヤ地下足袋不買同盟カ起リ爲ニ貴社ニ於テ營業上甚大ナル不利益ヲ蒙ルナラント申向ケ後援金ヲ提供セサレハ會社ニ財産上損害ヲ蒙ル虞アル前示商標表示方法ニ關スル攻撃記事ヲ新聞紙ニ掲載スヘキコトニ依リ會社重役ヲ畏怖セシメテ金員ヲ交付セシメントシタルモ前示要ニ於テ自ラ立所ニ之ヲ峻拒セシ爲恐喝ヲ遂ケサリシモノナリ」ト判示シ擬律ノ部ニ於テ刑法第二百五十條第二百四十九條第一項ヲ適用處斷シタリ然レトモ刑法第二百四十九條第一項ハ他人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシムル行爲ヲ罰スルモノニシテ素ヨリ脅迫サル者ト財物ヲ交付スル者トハ同一人タルヲ要セスト雖此ノ場合脅迫サル者ハ少クトモ財産的被害者ノ財物ヲ處分シ得ル地位ヲ有セサルヘカラス然ラサレハ脅迫サルルコトト財物ヲ交付スルコトトノ間ニ因果關係ナク脅迫サレタルカ故ニ財物ヲ交付シタルモノト認ムヘカラサレハナリ原判決ハ被告人カ日本足袋株式會社庶務係檜橋要ニ對シ後援金ヲ提供セサレハ會社ノ財産上不利益ナル記事ヲ新聞ニ掲載スル旨申向ケ會社重役ヲ畏怖セシメテ金員ヲ交付セシメントシタル旨判示スルモ庶務課員檜橋要カ重役ノ管理セル會社財產ヲ處分シ得ル權利ヲ有スルヤ否ヤニ付何等判示スル所ナシ檜橋要ニシテ重役ノ管理セル會社財產ヲ處分スルノ權限ナシトセンカ被告人カ同人ニ對シテ判示ノ如キ言辭ヲ弄シタリトスルモ未タ恐喝ノ著手トナラス檜橋要ニ於テ之ヲ會社財產ノ處分權アル重役ニ報告シ重役カ之ヲ聽取シタルトキ初メテ恐喝罪ノ著手アリト云フヘシ蓋シ檜橋要ハ被告人

ト重役間ニ於ケル意思表示ヲ通達スル機關ナレハナリ同人ニ對スル意思表示ハ例ヘハ文書發信ニ該當スヘク受信人カ之ヲ受信シタルトキ初メテ恐喝ノ著手アルカ如シ然ルニ檜橋要ハ被告人ノ要求ヲ重役ニ取次ク以前ニ之ヲ峻拒シ被告人ヲ立歸ラシメタルカ故ニ被告人ノ要求ハ重役ニ取次カルル以前ニ既ニ消滅シタルモノト云フヘシ故ニ判示被告人ノ行為ハ著手前ニ於ケル行為ニシテ豫備ノ程度ニアリ然ルニ原判決カ之ヲ恐喝罪ノ未遂ナリトナシ刑法第二百五十條第二百四十九條第一項ヲ適用シタルハ擬律錯誤又ハ理由不備ノ違法アリト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

恐喝罪ニ於ケル恐喝ノ手段ハ常ニ必スシモ犯人自ラ直接ニ被害者若ハ被害者ノ財産處分權ヲ有スル地位ニ在ル者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ要スルモノニ非ス此等ノ者ニ從屬シテ補助行動ヲ爲スニ過キサル者ニ對シテ恐喝手段ヲ施シ之ヲシテ其ノ事實ヲ通達セシメ以テ間接ニ斂上ノ者ヲ恐喝スル場合ニ於テモ亦恐喝罪ノ成立ヲ認ムヘク而モ斯ノ如ク間接ノ手段ヲ以テ斂上ノ者ヲ恐喝スル目的ヲ以テ其ノ補助者ニ恐喝手段ヲ施シタル場合ニハ已ニ其ノ時ニ於テ恐喝罪ノ實行ノ著手アリト解スルヲ相當ナリトス而シテ原判示事實ハ之ヲ證據ト對照シテ考察スレハ被告人ハ相被告人鳥羽瀨伊三郎ト共謀ノ上昭和九年七月三十一日久留米市日本足袋株式會社ニ赴キ庶務係檜橋要ニ對シ判示ノ如キ威シ文句ヲ竝ヘ被告人ノ要求ヲ容レ後援金ヲ提供セサレハ會社ニ財産上損害ヲ蒙ル虞アル攻撃記事ヲ新聞紙ニ掲載スルカ如キ態度ヲ示シ因テ以テ會社重役ヲ畏怖セシメ金員ヲ交付セシメントシタルモ遂ケサリシモノナリト

云フニ在リテ縱令被告人カ直接右會社重役ニ對シ恐喝手段ヲ施ササリシトスルモ會社ノ使用人トシテ重役ニ從屬シ其ノ補助者タル關係ニ在ル檜橋要ニ對シ恐喝ノ言辭ヲ弄シ因テ重役ヲ威嚇シ金員ヲ交付セシメントシタルモ遂ケサリシ事實ヲ認メタルモノト解スヘキカ故ニ原判決カ該事實ニ恐喝未遂ノ法條ヲ適用處斷シタルハ擬律ノ錯誤ニアラス所論ハ右ト相容レサル見解ニ立脚シ之ヲ非難攻撃スルモノニシテ到底採用ノ限リニ在ラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事武松久吉關與

○偽證詐欺未遂私文書偽造行使被告事件 (昭和十年(れ)第一六五二號 棄却)

【上告人】 被告人 高野 慶 辯護人 一坂本 哲夫
外二名 辯護人 神崎 正義

無効ニ補シタル死者名義ノ文書ノ作成ト偽造行使罪 牽連犯ヲ構成スル數行為中
ノ一行爲ニ加功シタル者ト共犯 牽連犯ノ一部無罪ト主文

○ 判示事項

無効ニ歸シタル死者名義ノ文書ノ作成ト偽造行使罪——牽連犯ヲ構成スル數行爲中ノ一行爲ニ加功シタル者ト共犯——牽連犯ノ一部無罪ト主文

○ 判決要旨

一 行使ノ目的ヲ以テ書換ニ因リ無効ニ歸シタル死亡者名義ノ借用證書ニ擅ニ債權者名義ヲ記入シ之ヲ行使シタルトキハ私文書偽造行使罪ヲ構成ス【要旨第一】

二 牽連犯ヲ構成スル數個ノ犯罪行爲中其ノ一行爲ノミニ加功シタル者ハ該犯罪行爲ノミニ共犯者トシテ其ノ責任ヲ負擔スヘキモノトス【要旨第二】

三 裁判所力牽連犯ノ一部トシテ公判ニ付セラレタル公訴事實ニ付審理ノ上其ノ一部ノ事實ヲ認めサル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ有罪事實トシテ判示セサルヲ以テ足り特ニ無罪ノ言渡ヲ爲スコト

ヲ要スルモノニ非ス【要旨第三】

参照 刑法第五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
同法第五十四條第一項 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス
同法第三百六十二條 被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人慶藏ヲ懲役一年ニ被告人直行ヲ懲役五月ニ被告人桂太ヲ懲役三月ニ處ス但シ被告人慶藏同直行ニ對シ各第一審ニ於ケル未決勾留日數ノ一部八十日ヲ夫々右本刑ニ算入ス被告人直行同桂太ニ對シ孰レモ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス押收ニ係ル證第十

無効ニ歸シタル死者名義ノ文書ノ作成ト偽造行使罪 牽連犯ヲ構成スル數行爲中
ノ一行爲ニ加功シタル者ト共犯 牽連犯ノ一部無罪ト主文

二號ノ偽造借用證書一通ハ之ヲ沒收ス訴訟費用中豫審ニ於テ昭和八年十月十一日爲シタル鑑定命令ニ依リ鑑定人山田吉之助ニ支給シタル鑑定料及第二審ニ於テ鑑定人三原潔ニ支給シタル分ハ被告人三名ノ連帶負擔トシ爾餘ノ三分ノ一ハ被告人慶藏ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人慶藏ハ鹿兒島市新屋敷町松下彦士ニ對シ明治四十四年十二月二十日頃貸與シタル金二百三十圓外數口ノ貸金立替金元利合計四千八百餘圓ノ債權ヲ有セシヲ以テ屢其ノ返済方ヲ求メ居リタルモ彦士ニ於テ返金ノ都合付カサルトコロヨリ大正十五年十一月二十日彦士ヨリ同人名義金額四千八百圓ノ借用證書一通ヲ該證書ヲ以テ何人ヨリ金借スルモ苦シカラサル旨諒解ヲ得特ニ宛名ヲ記載セシメシテ受取り之ニ自ラ保證人トシテ署名捺印シタル後該證書ヲ以テ金策ニ奔走シタルモ成功スルニ至ラザリシカ昭和三年十月三十日頃彦士ヲシテ前記債權ト同人ニ對スル別口債權トヲ合シ更ニ金額六千圓ノ借用證書一通ヲ差入レシメタルヲ以テ前記證書ハ當然無効ノ證書ニ歸シタルニ拘ラス昭和四年五月十日彦士死亡スルヤ前記證書カ被告人ノ手裡ニ存スルヲ奇貨トシ之ニ新ニ債權者名ヲ記入シテ彦士名義ノ借用證書ヲ偽造シ該債權者名義ヲ以テ彦士ノ家督相續人タル松下國彦ニ對シテ貸金請求訴訟ヲ提起シ前記證書ヲ證據トシテ提出行使シテ裁判所ヲ欺罔シ勝訴判決ヲ得國彦ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ豫テ惡意ノ間柄ナル被告人桂太ニ依頼シテ其ノ紹介ニ依リ同年十月二十七日熊本市練兵町ナル被告人直行當時ノ事務所ニ於テ桂太ト親交アリ辯護士事務ニ從事中ナル被告人直行ニ面會シ前記借用證書カ無効ニ歸シタル事情ヲ秘シ松下彦士ニ對スル債權證書ニシテ且之ニ何人ヲ債權者トシテ記入スルモ差支ナシト彦士ノ諒解ヲ得居ルモノナル旨申告ケテ彦士ノ相續人國彦ニ對スル訴訟ノ提起方ヲ依囑シタルヨリ右言ヲ信シタル被告人直行ハ前記證書ニ宛名人ヲ記スレハ即該宛名人ニ於テ法律上債權者ト看做サルルヲ以テ該宛人名義ヲ以テ國彦ニ對シ貸金請求訴訟ヲ提起スルモ何等違法ノ點アルナシトノ意見ヲ懷クニ

至リシ結果茲ニ同被告人ノ知人ナル同市二本木町中村長次郎ノ承諾ヲ得テ前記證書ニ宛名人トシテ其ノ氏名ヲ記シ同人ヲ該四千八百圓ノ貸主タラシメ同人名義ヲ以テ國彦ニ對シ貸金請求訴訟ヲ提起スルコトトナリタルカ被告人三名ハ即日同所ニ於テ被告人直行カ右中村長次郎ノ訴訟代理人トシテ前記訴訟ヲ提起シタル曉之カ立證方法ヲ容易ナラシムル爲直行ニ於テ被告人慶藏ヲ證人トシテ申請シ慶藏ハ證人トシテ出廷シ前記四千八百圓ノ證書ハ慶藏ニ於テ松下彦士ニ依頼セラレ被告人桂太ヲ介シテ中村長次郎ヨリ金借シ遺ハシタル折作成セラレタルモノニ相違ナキ旨證言スヘキコトヲ謀議決定シ斯クテ被告人直行ハ中村長次郎ノ承諾ノ下ニ昭和五年一月頃前同所ニ於テ前記證書ニ宛名人トシテ同人ノ氏名ヲ記シタル上同月二十日中村長次郎ノ訴訟代理人トシテ長次郎名義ヲ以テ松下國彦ヲ相手取り熊本地方裁判所ニ對シ金額四千八百圓ノ貸金請求訴訟ヲ提起シ同年三月十五日ノ準備手續期日ニ於テ前記證書ヲ真正ニ成立シタルモノトシテ同裁判所ニ提出シ次テ同年五月三日ノ準備手續期日ニ於テ被告人慶藏ヲ證人トシテ申請シ被告人慶藏ハ叙上ノ如ク情ヲ知ラサル被告人直行ヲシテ前記證書ニ宛名人トシテ中村長次郎ノ氏名ヲ記シメ以テ行使ノ目的ヲ以テ松下彦士名義中村長次郎宛大正十五年十一月二十日附金額四千八百圓ノ借用證書一通(證第十二號)ノ偽造ヲ遂ケ次テ前記訴訟ヲ提起セシメタル後該證書ヲ同裁判所ニ提出セシメテ行使シ更ニ同裁判所ノ囑託ニヨリ昭和六年四月二十四日鹿兒島區裁判所法廷ニ於テ右事件ノ證人トシテ訊問セラルルニ當リ宣誓ノ上故ラニ前記證書ハ被告人慶藏ニ於テ松下彦士ニ依頼セラレ被告人桂太ヲ介シテ中村長次郎ヨリ金借シ遺ハシタル際作成セラレタルモノニ相違ナキ旨虛偽ノ陳述ヲ爲シテ偽證シ以テ裁判所ヲ欺罔シ昭和七年五月二十六日原告勝訴ノ判決ヲ受ケ之カ執行ニ著手シタルモ國彦ニ於テ執行異議ノ訴ヲ提起シ熊本地方裁判所ニ繫屬中昭和八年十月二十一日該執行ヲ取消スノ已ムナキニ至リ金員騙取ノ目的ヲ遂ケザリシモノナリ

法律ニ照スニ被告人慶藏ノ判示私文書偽造ノ所爲ハ刑法第五百十九條第一項ニ判示偽造私文書行使ノ所爲ハ同法第百無効ニ歸シタル死者名義ノ文書ノ作成ト偽造行使罪 牽連犯ヲ構成スル數行爲中 一行爲ニ加功シタル者ト共犯 牽連犯ノ一部無罪ト主文 一七一 (九七)

六十一條第一項第五十九條第一項ニ判示詐欺未遂ノ所爲ハ同法第二百五十條第二百四十六條第一項ニ被告人三名ノ判示偽證ノ所爲ハ執レモ同法第六十條第六十九條ニ各該當スルトコロ被告人慶藏ノ右私文書偽造其ノ行使偽證並詐欺未遂ノ所爲ハ其ノ間順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ其ノ最モ重キ偽證罪ノ刑ニ從ヒ以上被告人三名ニ對シ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ夫々主文ノ刑ヲ量定處斷シ被告人慶藏直行ニ對シ同法第二十一條ニ依リ執レモ第一審ニ於ケル未決勾留日數ノ一部八十日ヲ右本刑ニ算入スヘキトコロ被告人直行桂太ニ對シテハ刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アリト認ムルヲ以テ各同法第二十五條ニ則リ裁判確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫シ主文掲記ノ押收物件ハ被告人慶藏ノ判示偽造私文書行使罪ヲ組成シタルモノニシテ何人ノ所有ヲモ許ササルモノナルヲ以テ同法第十九條第一項第一號第二項ヲ適用シテ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ被告人三名ヲシテ夫々主文掲記ノ如ク負擔セシムヘキモノトス

尙被告人直行桂太ニ對スル本件公訴事實中被告人直行桂太ハ被告人慶藏ト共謀ノ上被告人慶藏ニ於テ昭和四年五月十日死亡シタル松下彦士ヲ債務者トシ慶藏ヲ保證人トセル大正十五年十一月二十日附無効ノ宛名人ナキ金額四千八百圓ノ借用證書一通ヲ所持シ居レルヲ奇貨トシ之ヲ利用シテ彦士ノ家督相續人松下國彦ヨリ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和四年十月二十七日判示直行方ニ於テ熊本市二本木町中村長次郎ヲ右四千八百圓ノ貸主ニ仕立テ右證書ニ宛名人トシテ同人ノ氏名ヲ記入シ彦士名義中村長次郎宛金額四千八百圓ノ借用證書ヲ偽造シタル上被告人直行ニ於テ長次郎ノ訴訟代理人トシテ同人名義ヲ以テ判示訴訟ヲ提起シ右證書ヲ提出シテ其ノ事實ヲ證明セムコトヲ謀議決定シ被告人直行ニ於テ其ノ頃同所ニ於テ右證書ニ宛名人トシテ中村長次郎名義ヲ記入シ以テ松下彦士カ大正十五年十一月二十日中村長次郎ヨリ金額四千八百圓ヲ借用シタル旨ノ判示借用證書一通ヲ偽造シ次テ被告人直行ニ於テ昭和五年一月二十日熊本地方裁判所ニ對シ判示貸金請求訴訟ヲ提起シタル上同年三月十五日ノ準備手續期日ニ於テ甲第一號證トシテ右偽造證

書ヲ提出行使シ以テ裁判所ヲ欺罔シテ昭和七年五月二十六日原告勝訴ノ判決ヲ受ケ國彦ニ對シ執行ニ著手シタルモ同人ニ於テ執行異議ヲ提起シタル爲金員騙取ノ目的ヲ遂ケサリシトノ點ハ犯罪ノ證明ナキモ右被告人兩名ニ對スル判示偽證ノ事實ト牽連犯ノ關係アリトシテ公判ニ付セラレタルモノト認ムルヲ以テ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人高野慶藏同川上直行同橋口桂太辯護人坂本哲夫上告趣意書第二點原判決ハ事實理由ニ於テ被告人慶藏ヲ私文書偽造同行使罪ニ問擬スルニ當リ松下彦士名義金額四千八百圓ノ借用證書ニ付テハ同人ヨリ何人ヨリ金借スルモ苦シカラサル旨諒解ヲ得特ニ宛名ヲ記載セシメシテ受取リタリト判示シ其ノ後該證書カ無効ニ歸シタル後被告人直行ヲシテ該證書ニ宛名人トシテ中村長次郎ノ氏名ヲ記セシメ偽造ヲ遂ケテ之ヲ熊本地方裁判所ニ提出セシメテ行使シタリト認定セリ然レトモ固ヨリ契約ハ自由ニシテ現今消費貸借ノ取引觀念ニ於テ貸主ノ何人タルヤハ重要ナラサルヲ以テ本件ノ如キ契約カ民事法上如何ニ解釋スヘキカハ別問題トシテ之カ有效ナルハ一點疑ヲ容ルルノ餘地ナク一度何人ヨリ金借スルモ苦シカラストノ許諾ヲ得特ニ宛名ノ記載ナカリシモノトセハ其ノ契約ノ趣旨ニ從テ宛名ヲ記載セシメタリトスルモ何等罪トナラス假ニ宛名ノ記載カ詐欺ノ目的ニ出テタリトスルモ其ノ達成セントシ

無効ニ歸シタル死者名義ノ文書ノ作成ト偽造行使罪 牽連犯ヲ構成スル數行爲中
ノ一行爲ニ加功シタル者ト共犯 牽連犯ノ一部無罪ト主文

タル目的カ違法ナリトノ理由ヲ以テ直ニ本罪ノ成立アリト觀ルヘカラス（瀧川幸辰氏法と經濟第三卷第六號一〇五頁以下、Frank, Komm. 18. Aufl. S. 312. 草野豹一郎氏法學新報第四五卷第七號所載御參照）亦固ヨリ宛名記載ノ時期如何ニ依リ本罪ノ構成ニ消長ヲ來スヘキモノニ非スト信ス加之昭和四年五月彥士死亡シ其ノ後ニ宛名ノ記載セラレタルハ原判決ノ明ニ認ムル所ナリ然ラハ死者ハ曾テ人格者タリシモノナレトモ其ノ死亡ト同時ニ人格者タル資格ヲ失ヒタルモノナレハ死亡者ノ名義ヲ以テ文書ヲ偽造スルモ罪トナラサルヤ言フ俟タス（大場ドクトル刑法各論三六一頁以下御參照）仍テ孰レノ點ヨリ觀ルモ原判決ハ擬律錯誤ノ違法アモノナリト云フニ在レトモ

【要旨第一】

原判決認定ノ趣旨ハ前論旨ニ對シ説明シタル如クナルノミナラス行使ノ目的ヲ以テ死亡者ノ印章若ハ署名ヲ使用シ其ノ者ノ生存中ニ作成シタルカ如ク權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ヲ作成シタルトキハ私文書偽造罪ヲ構成スルモノナレハ原判決カ其ノ判示ノ如ク被告人慶藏カ判示彥士ノ署名ヲ不正ニ使用シ同人生存中ノ日附ヲ以テ判示借用證書ヲ作成シタル事實ヲ認定シタル以上本件カ私文書偽造行使罪ヲ構成スルハ固ヨリ論ナク原判決ニハ所論ノ如キ擬律錯誤ノ違法アルコトナク論旨ハ其ノ理由ナシ

同第七點原判決ハ被告人直行桂太ニ對スル本件公訴事實中私文書偽造行使竝詐欺未遂ノ點ハ犯罪ノ證明ナシトシテ無罪トシ一方被告人慶藏ニ對シテハ私文書偽造其ノ行使偽造竝詐欺未遂ノ所爲ハ其ノ間順次手段結果ノ關係アリトシ刑法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シ而モ被告人三名ノ偽造ノ所爲ハ孰レモ同法第六十條第六十九條ニ問擬セリ然レトモ被告人慶藏ニ對スル牽連犯ノ解釋トシテハ犯罪ノ手段タル行爲トハ或ル犯罪ノ實行上其ノ手段トシテ用ヒラレタル事實上之ト不可分ノ關係アル行爲ニシテ而モ其ノ法律上ノ構成要件ニ屬セサルモノヲ謂ヒ（昭和十年（れ）第一〇二六號同年十月二十一日御院第一刑事部判決御參照）單ニ行爲者ニ於テ主觀的ニ手段又ハ結果トシテ相牽連セシムルノ意思アリタルコトヲ以テ足レリトセス此等ノ犯罪カ客觀的ニ手段又ハ結果トシテ相牽連スル性質ノモノタルヲ要ス（御院昭和九年（れ）第八四九號同年九月二十九日第三刑事部判決御參照）仍テ牽連犯カ包括一罪トシテ法ノ適用アルノ趣旨ヲ知ルヘキナリ然ルニ一面原判決ハ被告人直行桂太ノ私文書偽造竝詐欺未遂ノ點ヲ無罪トセルヲ以テ尠クモ右兩名ノ偽造ノ所爲カ被告人慶藏ノ私文書偽造詐欺未遂ト牽連關係ナキ獨立ノ犯罪ト認定シタルヤ明ニシテ一ヲ包括一罪ノ一部トシ一ヲ獨立犯罪トス從テ兩者ハ各其ノ犯意罪質ヲ同ウセサルモノト謂フヘク既ニ原判決ハ被告人直行桂太ノ所爲ニ付偽證ノ點ヲ除キ他ヲ無罪ト認メタル一事ハ亦以テ被告人慶藏ノ偽證ノ所爲モ牽連關係ヲ離脱シタルモノト觀ルヘカリシナリ加之被告人慶藏ノ偽證ノ所爲タル元來敢テ必スシモ詐欺行爲ノ性質上其ノ手段トシテ用ヒラルルモノニアラス文書偽造行使ノミニヨリ詐欺ノ目的ヲ達シ得ヘク詐欺行爲ノ豫備ニ過キス（御院昭和五年（れ）第一七二九號同年十二月十二日第四刑事部判決御參照）然ラハ原判決カ被告人

無効ニ歸シタル死者名義ノ文書ヲ作成ト偽造行使罪 牽連犯ヲ構成スル數行爲中
ノ一行爲ニ加功シタル者ト共犯 竊取罪ノ一部無罪ト主文

三名ノ判示偽證ノ所爲ヲ孰レモ一律ニ同法第六十條ノ共同正犯ヲ以テセルハ失當ニシテ被告人慶藏ノ偽證ノ所爲ヲ他ノ被告兩名ト同シク獨立ノ犯罪トシ之ヲ併合罪トシ刑法第四十五條同第四十七條ヲ適用スルカ若シ假ニ被告人慶藏ノ偽證ノ所爲カ牽連犯ト認ムルヲ相當トセハ被告人直行桂太ノ行爲ヲ偽證教唆又ハ從犯ト認定スルノ外ニ途ナキナリ原判決カ事茲ニ出テサリシハ理由前後齟齬シ結局擬律錯誤ノ違法アリト謂フニ在レトモ

【要旨第二】

牽連犯ハ其ノ手段若ハ結果タル犯罪ト其ノ主タル犯罪トノ中最モ重キ刑ヲ以テ處斷スヘキモノナリト雖其ノ各個ノ行爲ハ他ノ行爲ニ包含セラレ又ハ其ノ一部ヲ爲スモノニ非スシテ全然別異ノ行爲ナルコト論ヲ俟タス然レハ右牽連犯ヲ構成スル獨立ノ一犯罪行爲ノミニ加功シタル者ハ該犯罪行爲ノミノ共犯者トシテ其ノ責任ヲ負擔スヘキハ勿論該一行爲ニ付共犯者ノ存スルカ爲他ノ行爲トノ間ニ牽連關係ヲ失フモノニ非サルコト亦言ヲ俟タス然リ而シテ財物騙取ノ目的ヲ以テ他人名義ニ依ル虚偽ノ債權ニ基キ民事訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テ其ノ目的ヲ達スル爲偽證ヲ爲シタルトキハ偽證ノ行爲ハ偽造證書ヲ證據トシテ之ヲ口頭辯論ノ際提出シタルト同シク詐欺ノ手段ニ外ナラサルヲ以テ刑法第五十四條第一項ニ所謂犯罪ノ手段タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルモルノト云ハサルヘカラス然レハ被告人慶藏ノ判示行爲カ私文書偽造行使詐欺未遂偽證ノ牽連犯ヲ構成スルト共ニ偽證罪ニ付被告人三名ノ共同正犯ヲ認ムルコトヲ得ヘキヲ以テ原判決カ右ト同趣旨ノ下ニ被告人等ノ行爲ヲ夫々所論判示ノ如ク處斷

シタルハ固ヨリ正當ナリ加之原判決カ牽連一罪ト認メテ處斷シタル行爲ヲ併合罪ナリト主張シテ之ヲ攻撃スルカ如キハ被告人慶藏ニ對シ不利益ニ歸スルモノナルヲ以テ之カ主張ニ付同被告人ハ何等ノ利益ヲ有セサルモノニシテ上告理由トシテハ適法ナラス要スルニ原判決ニハ所論ノ如キ違法毫モ存スルコトナク論旨ハ其ノ理由ナシ

同第十點原判決ハ法律適用ノ部末尾ニ於テ被告人直行桂太ニ對スル本件公訴事實中被告人慶藏ト共謀ノ上私文書偽造其ノ行使詐欺未遂ヲ爲シタリトノ點ハ犯罪ノ證明ナキモ右被告人兩名ニ對スル判示偽證ノ事實ト牽連犯ノ關係ニ在リトシテ公判ニ付セラレタルモノト認ムルヲ以テ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サスト判示セリ然レトモ元來裁判所ハ司法權ヲ行フ國家ノ機關ニシテ司法權ノ作用ハ裁判權ニシテ其ノ骨子ハ審判權ニアリ而シテ之ニ對シ檢察ハ通常裁判所ニ屬スル刑罰請求權ヲ實行スル國家機關ニシテ其ノ職權訴追ノ制ト裁判所ノ職權審理ノ制トハ相互ニ他ノ處分權ノ爲ニ拘束ヲ受ケス各獨立機關ヲ形成スルヲ我國司法制度ノ特色ト爲ス仍テ一度公訴ノ提起ニ因リ訴訟物體裁判所ノ手ニ歸センカ處斷一ニ其ノ職權ニ委ネラルヘキヤ言ヲ俟タサル所ナリ彼ノ現行刑事訴訟法カ第四百三條ノミヲ規定シテ舊同訴訟法第二百四十二條ヲ廢止シタル立法ノ精神ハ「檢察ハ公益ノ爲ニ控訴ヲ爲スモノナリ原判決不當ナルトキ被告人ノ利益ト爲ルヘキ理由ヲ以テ控訴スルハ公益上默過スルヲ得サルヲ以テナリ裁判所モ亦公益上其ノ見ル所ヲ以テ判決ヲ與フルモノナリ若シ裁判所檢察ノ意見ニ拘束セラレ

無効ニ歸シタル死者名義ノ文書ノ作成ト偽造行使罪 牽連犯ヲ構成スル數行爲中
ノ一行爲ニ加功シタル者ト共犯 牽連犯ノ一部無罪ト主文

ルモノトセハ結局検事ノ處分權ヲ認ムルノ結果トナリ職權主義ヲ基礎トスル審判ノ原則ヲ沒却スルニ至ルヘシ是舊法ノ如ク檢事控訴ヲ爲シタル場合ニ裁判所ノ職權ヲ制限スヘキ規定ヲ設ケサル所以ナリ」(平沼賦一郎氏刑事訴訟法要論六一五頁同旨矢追秀作氏刑事訴訟法要義六五九頁御參照) 果シテ然ラハ此ノ根本原則ニ據リテ之ヲ觀レハ本件私文書偽造行使詐欺未遂ナリトノ事實ハ判示偽證ノ事實ト牽連犯ノ關係ニ在リトシテ起訴シタルハ檢事ノ職權ニ基キシモノニシテ其ノ職權範圍ハ之ヲ限度トス訴訟物體一度裁判所ニ移レハ審判ノ權ハ檢事ノ職權範圍外タルヤ言フ俟タス起訴ノ事實ノ前後ニ於テ其處ニ嚴格ナル區分アルナリ仍テ檢事起訴ノ後ニ在リテハ裁判所ハ裁判所トシテ獨自ノ職權ニ依リ審判ヲ爲スヘク牽連犯トシテ起訴セラレタレハトテ何等之ニ羈束セラルヘキモノニアラス公訴事實カ牽連犯ナルヤ否ヤヲ判斷スルハ固ヨリ裁判所ノ見解ニ依リ初メテ決セラルヘキモノニシテ既ニ消滅シタル檢事ノ職權ニ依ル訴追ノ意見カ牽連犯ナレハトテ裁判所カ此ノ意見ニ束縛セラレ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ササル法律上ノ根據那邊ニアリヤ強テ之ヲ求ムレハ若シ公訴事實カ全部有罪ナリシナランニハ彼此ノ事實ハ牽連犯ナリシモノナリトノ關係アル以外其ノ理由ヲ發見スルニ苦シム起訴ハ起訴ナリ裁判ハ裁判ナリ裁判所カ三罪ニ互ル公訴事實中其ノ二罪ニ付テ之ヲ犯罪ノ證明ナシトスル以上判示偽證ノ罪ハ固ヨリ牽連犯ノ一部ニアラス三罪ヲ併合罪トシテ起訴セラレタル場合ニ二罪ヲ無罪トセハ之ヲ主文ニ於テ言渡スヘキニ偶牽連犯トシテ起訴セラレタルカ爲ニ二罪カ無罪ナリトスルモ主文

ニ於テ言渡ヲ爲サストハ到底了解スル能ハサル所ニシテ併合罪ノ場合ヨリ一層縁遠キモノアルヲ感得セスンハアラス固ヨリ牽連犯トシテ起訴セラレタルモノノ一罪カ親告罪ニシテ告訴ナカリシ結果犯罪ノ性質ヨリシテ公訴棄却ノ言渡ヲ主文ニ於テ爲ササルト同一視スヘキニアラサルナリ裁判所ト檢事トノ職權ハ徹底的ニ之ヲ區別スヘク一般世人ヲシテ多少ニテモ職權ノ混淆ヲ思ハシムル如キハ特ニ慎ムヘキ事ニ屬シ裁判所ノ權威ノ爲ニ採ラサル所ナリ加之刑事訴訟法第三百六十二條ノ規定ハ嚴トシテ存ス宜シク主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘカリシナリ原判決カ事茲ニ出テサリシハ法令違背ノ違法アリト謂フノ外ナキナリト云フニ在レトモ

【要旨第三】

豫審終結決定ニ數箇ノ行爲ヲ舉示シ其ノ數箇ノ行爲ハ牽連一罪ノ關係ニ在ルモノナリトシテ事件ヲ公判ニ付シタル場合ニ於テハ公判裁判所ハ其ノ數箇ノ行爲ヲ牽連罪トシテ審理ノ上之ニ對シ相當ノ裁判ヲ爲スノ職責アルモノニシテ其ノ數箇ノ行爲ニシテ有罪ノ證明アル場合ニ於テハ裁判所ハ固ヨリ檢事又ハ豫審判事ノ法律上ノ意見ニ羈束セラルルコトナク自己ノ法律上ノ見解ニ基キ或ハ併合罪トシ或ハ牽連犯トシテ夫々之ニ相當スル有罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノナルモ若シ裁判所カ右公訴事實ノ一部ニ付審理ノ上其ノ事實ヲ認メサル場合ニ於テハ有罪ト認メタル他ノ事實トノ關係ニ於テ併合罪若ハ牽連犯等ノ成立スヘキ謂レナキヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ右認メサリシ公訴事實カ牽連犯ノ一部トシテ公判ニ付セラレタルモノニ係ル以上之ヲ牽連關係ニ在ルモノトシテ取扱ヒ判決ヲ爲スニ當リテハ右認メ

無効ニ歸シタル死者名義ノ文書ノ作成ト偽造行使罪 牽連犯ヲ構成スル數行爲中
 一行爲ニ加功シタル者ト共犯 牽連犯ノ一部無罪ト主文

サリシ事實ヲ有罪事實トシテ判示セサルヲ以テ足り特ニ其ノ旨ヲ明示スルコトヲ要セサルハ勿論無罪ノ言渡ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非スト解セサルヘカラス原判決ハ之ト同趣旨ノ下ニ所論ノ如ク説示シタルモノナルヲ以テ所論ノ如キ違法アルコトナク論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和十年(九)第一六七一號) 棄却

【上告人】 被告人 鈴木千十郎 辯護人 新江 寅

【第一審】 宇都宮區裁判所 【第二審】 宇都宮地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法第九十六條(昭和九年法律第四十九號)ノ選舉運動

ノ意義——推薦狀ニ加名ヲ依頼スル行爲ト同法條

○判決要旨

一 衆議院議員選舉法第九十六條ニ所謂選舉運動トハ一定ノ議員選舉ニ付一定ノ議員候補者ヲ當選セシムヘク投票ヲ得若ハ得シムルニ付直接又ハ間接ニ必要且有利ナル周旋勸誘其ノ他諸般ノ行爲ヲ爲スコトヲ汎稱ス【要旨第一】

二 法定ノ選舉運動者ニ非サル者數人ノ選舉人ニ個々面接シ又ハ電話ニヨリ各別ニ推薦狀ニ推薦者トシテ加名セラレ度キ旨依頼スル行爲ハ衆議院議員選舉法第九十六條ニ違反ス【要旨第二】

【參照】 府縣制第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザレバ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ演説又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ

第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任セラレタル勞務者ニ非ザレバ選舉運動ノ爲勞務ヲ提供スルコトヲ得ズ但シ議員候補者ト同居スル親族家族及常備ノ使用人ハ此

衆議院議員選舉法第九十六條(昭和九年法律第四十九號)ノ選舉運動ノ意義
推薦狀ニ加名ヲ依頼スル行爲ト同法條

ノ限ニ在ラズ

同法第二百二十九條 第九十五條ノ二、第九十六條第一項、第九十八條若ハ第九十八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

衆議院議員選舉法施行令第五十七條ノ三 衆議院議員選舉法第九十六條第一項但書ノ規定ニ依リ議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザル者ガ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲ス場合ニ於テハ左ノ各號ノ制限ニ從フベシ

- 一 選舉人ニ對シ戸別訪問ヲ爲シ又ハ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ若ハ電話ニ依リ通話ヲ爲スコトヲ得ズ
- 二 演說會告知ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外新聞紙又ハ雜誌ヲ利用スルコトヲ得ズ
- 三 演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ付強テ議員候補者又ハ選舉事務長ノ承諾ヲ求ムルコトヲ得ズ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ三十日間被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人ニ對シ衆議院議員選舉法第三百三十七條第一項ノ規定ヲ適用セサル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年九月二十二日施行セラレタル栃木縣縣會議員選舉ニ際シ宇都宮市ヨリ立候補シタル富山叶ノ法定ノ選舉運動者ニ非サルモノナルトコロ同月十三日同市尾上町大島定吉方ノ電話ニ依リ選舉人ナル同市川向町塚原熊作同

市宿郷町糸井慶三及同市同町綱川金一郎ノ三名ニ對シ各別ニ連續シテ前記候補者ノ推薦狀ニ推薦者トシテ加名セラレ度キ旨依頼シ更ニ同夜右糸井慶三方ニ於テ選舉人ナル同市宿郷町岡部末吉及同町松山佐平ノ兩名ニ個々面接ノ上夫々前同様ノ依頼ヲ爲シ以テ不法ニ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項同選舉法施行令第五十七條ノ三第一號同選舉法第二百二十九條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ該罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ從ヒ被告人ヲ三十日間勞役場ニ留置スヘク尙情狀ニ依リ被告人ニ對シ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第三百三十七條第三項ニ則リ同選舉法第三百三十七條第一項ノ規定ヲ適用セサルコトヲ宣言スヘギモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人新江寅上告趣意書原審ハ左ノ理由ニヨリ被告人ヲ罰金三十圓也ニ處斷シタリ即チ被告人ハ候補者富山叶ノ法定ノ選舉運動者ニ非サル所電話ニヨリ選舉人塚原熊作 糸井慶三 綱川金一郎ノ三名ニ對シ推薦狀ニ推薦者トシテ加名セラレ度キ旨依頼シ更ニ糸井慶三方ニテ岡部末吉 杉山佐平ノ兩名ニ個々面接ノ上前同様依頼ヲ爲シ以テ不法ニ推薦狀ニヨル選舉運動ヲ爲シタルモノナル事實ヲ認定シ之ヲ衆議院議員選舉法第九十六條第一項同選舉法施行令第五十七條ノ三第一號ニ該當スルモノナリトシテ罰

衆議院議員選舉法第九十六條（昭和九年法律第四十九號）ノ選舉運動ノ意義
推薦狀ニ加名ヲ依頼スル行爲ト同法條

金三十圓也ニ處斷シタルコトハ原判決理由ノ明示スル所ナリ然レトモ右認定サレタル事實即チ電話ニヨリ推薦狀ニ加名ヲ求ムル行爲竝ニ同上ノ目的ノ爲ニ個々面接シテ依頼ヲ爲スハ(一)選舉法第九十六條第一項同施行令第五十七條ノ三第一號ニ所謂選舉運動ニ該當スルモノニアラスシテ選舉運動ノ準備行爲ニ過キサルモノナリ抑選舉運動トハ現ニ選舉民ニ働キ懸クル行爲ヲ指示スルモノナレハ未タ選舉民ニ直接ニ働キ懸クルコトナク單ニ推薦狀ニ加名ヲ求ムル選舉運動ノ爾前ノ行爲ハ準備行爲ニ屬シ未タ以テ選舉運動ト稱ス可カラサルコトハ既ニ御院昭和三年刑事(レ)第六六號事件(判決録昭和三年刑四三一頁所載)ニ於テ左ノ如ク判示セラルル所ニヨリテ明ナリト思料ス判決要示故ニ推薦狀ヲ配付スルニ先チ之ヲ作成スル行爲ノ如キハ論ナク特定ノ人ヲ議員候補者トシテ推薦スルニ付他人ニ對シ單ニ推薦狀ニ加名センコトヲ勸誘スル行爲ノ如キモ亦推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ至ルヘキ準備行爲ニ屬シ縱令之ヲ進展セシムルモ結局推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ至ル過程ニ過キサルモノナルカ故ニ均シク法ニ於テ之ヲ不問ニ付スルモノト解スルヲ正當トス故ニ他ニ投票ヲ得ル目的ヲ有シ如上ノ勸誘ヲ利用シテ之ヲ其ノ目的ヲ達スル手段ニ供スルニ非サル限リ其ノ勸誘ハ同法第九十六條ノ禁止ノ範圍外ニ在ルモノト謂フヘク勸誘カ立候補ノ届出以後ニ在ルト其ノ前ニ在ルトニ依リ論定ヲ異ニスル事ナキモノトス(二)抑モ推薦狀ニヨル加名ノ勸誘ハ適法ナル行爲ニシテ衆議院議員選舉罰則ニ抵触スルモノニアラサルコトハ曩ニ御院カ昭和三年刑(レ)第三四九號事件(判決録昭和三年刑二七三頁

所載)ニ於テ後記ノ如ク判示セラルルニヨリテ明白ナリ判決要示故ニ法定ノ選舉運動者ニ非サル者カ投票ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ選舉人ニ對シ或人ヲ議員候補者トシテ推薦センコトヲ依頼スル行爲ハ右法條ニ違反スルコト論ヲ俟タス然レトモ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サル者ト雖之ヲ爲スコトヲ得ヘキコト前記法條ノ明定スル所ナレハ或人ヲ議員候補者トシテ推薦スルニ際リ單ニ推薦者トシテ推薦狀ニ加名センコトヲ勸誘スルハ法ノ禁スル所ニ非スト解スルヲ正當トス蓋推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニハ推薦狀ノ作成ヲ要スルハ勿論多數ノ者同時ニ推薦者ト爲リ共ニ推薦狀ニ依ル選舉運動ニ從事スルモ亦法ノ認容スル所ト謂フヘク而シテ多數ノ推薦者カ推薦狀ニヨリテ選舉運動ヲ爲スニハ先同志相謀リテ推薦者タルヘキ者ヲ確定シ然ル後推薦狀ヲ作成シ以テ其ノ運動ヲ爲スニ至ル事普通ノ順序ナレハ特定ノ人ヲ議員候補者トシテ推薦スルニ付單ニ推薦者トシテ其ノ推薦狀ニ加名センコトヲ勸誘スルハ之唯推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲ス過程ニ過キサレハ苟モ其ノ勸誘ヲ利用シテ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ爲ササル以上毫モ違法性ヲ具有スルコトナケレハナリ(三)茲ニ於テ問題トナルハ衆議院議員選舉法施行令第五十七條ノ三第一號ニ選舉人ニ對シ戸別訪問ヲ爲シ選舉人ニ面接シ若クハ電話ニヨリテ通話ヲ爲スコトヲ得ストアルコトカ果シテ本件ノ場合ヲ律スルモノナリヤ否ヤカ問題トナルモノナレトモ茲所ニ所謂戸別訪問若クハ面接トハ既ニ推薦狀ノ準備行爲ヲ終リタル後選舉民ニ働キ懸クル選舉運動ノ場合ニ際シ選舉運動者ニアラサルモノカ推薦

衆議院議員選舉法第九十六條(昭和九年法律第四十九號)ノ選舉運動ノ意義
推薦狀ニ加名ヲ依頼スル行爲ト同法條

狀ヲ戸別ニ配付シ又ハ面接シテ之ヲ交付スル等ノ行爲ヲ禁止スルモノニシテ推薦狀ニヨル勸誘ノ如キ準備行爲ヲ律シタルモノニアラスト解スヘク又電話ニヨル通話トハ彼ノ從前行ハレタル演說ノ場合ニ總理大臣其ノ他各大臣カ聽衆ニ面接スルコトナク單ニラデオ若クハ蓄音器等ニヨリテ意見ヲ發表スルカ如キ行爲ヲ禁止シタルモノニシテ推薦狀ノ加名ヲ電話ニヨリテ爲ス場合ヲ律シタルモノニアラスト思考ス(四)抑モ選舉運動ニ於ケル推薦狀若クハ演說ハ第三者カ爲ス選舉運動ノ二大武器ニシテ之ヲ措イテ他ニ選舉運動ノ方法ナク管ニ之ニノミヨリテ以テ公明正大ニ候補者ノ應援ヲ爲シテ選舉ヲ明朗ニ爲スコトヲ得ルモノナリ從テコノ二大武器ノ利用ハ寧ロ之ヲ獎勵シ一面解釋ヲ寬容ニシテ以テ選舉ノ肅正ヲ企圖シ得ヘキモノナリト信ス從テ衆議院議員選舉法第五十七條ノ三第一號ノ面接若クハ演說ヲ狹義ニ解釋シテ以テ本件ノ如キ推薦狀加名行爲ヲ律シ一面御院カコノ二大武器ニ對シ寬容ノ態度ヲ示シタル鐵則ヲ打破スル迄ノ法ノ精神ニアラスト解スヘク否寧ロ御院ノ鐵則ヲ推演シタルモノト解スヘキモノト思料致候(五)曩ニ行ハレタル縣議戰ニ於テ地方警察官ノ無理解ハ往々繁些ナル手續ニ拘泥シ以テ文書戰言論戰ニ幾多ノ制肘ヲ加ヘ以テ選舉ノ明朗化ヲ阻害シ選舉ノ肅正ヲ防止シタルコトハ識者ノ鑒覺スル所タリ深ク御院ノ猛省ヲ仰望スル次第ニ御座候ト云フニ在レトモ

【要旨第一】

府縣制第三十九條第四十條ニヨリ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十六條ニ所謂選舉運動トハ一定ノ議員選舉ニ付一定ノ議員候補者ヲ當選セシムヘク投票ヲ得若ハ得シムルニ付直接又ハ間接ニ必要且

【要旨第二】

有利ナル周旋勸誘其ノ他諸般ノ行爲ヲ爲スコトヲ汎稱シ必シモ直接ニ投票ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ周旋勸誘等ヲ爲ス行爲ニ限局スヘキニ非ス從テ同條但書ノ推薦狀ニ依ル選舉運動中ニハ單ニ推薦狀ヲ選舉有權者ニ配布スル行爲夫レ自體ノミナラス該推薦狀ヲ作成スルニ付必要ナル行爲例ヘハ本件ノ如ク推薦狀ニ推薦者トシテ加名セラレ度キ旨依頼スルカ如キ行爲ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス而シテ法定運動者ニ非サル者ト雖同條但書ニ依ル命令ノ規定範圍内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スハ其ノ自由ニ屬シ之ヲ以テ同條違反ナリト爲スコトヲ得サルモ判示被告人ノ行爲ハ敍上說示ノ趣旨ニ照シ選舉運動タルコト明白ニシテ而モ右命令規定ニ背戾スルモノナルカ故ニ同法第九十六條ニ違反スルモノナルコト疑ヲ容レサル所ナレハ原判決カ判示行爲ニ付同法第二百二十九條ヲ適用シタルハ寔ニ正當ナリトス所論本院判例ハ改正後ノ現行法ノ解釋ニ適切ナラス論旨理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事武松久吉關與

○常習賭博被告事件(昭和十年(九)第一七五四號 棄却)

一八八 (二四)

【上告人】 被告人 森山正一 辯護人 (協谷武夫 林逸郎)

【第一審】 高松區裁判所 【第二審】 高松地方裁判所

○判示事項

常習賭博認定ノ資料

○判決要旨

賭博常習ノ事實ヲ證明スルニ當リテハ必スシモ本案ノ賭博行為以前ノ事實ニ依ルコトヲ要セズ現ニ公訴ニ係ル事案ニ於ケル賭博行為力數回反覆累行サレタル事情ヲ資料ト爲シ得ルモノトス

【參照】 刑法第百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ高松市福田町二番地ニ店舗ヲ設ケ株式現物賣買業ヲ營ミ居タルモノニシテ賭博常習者ナルトコロ眞實賣買ヲ爲ス意思無クシテ昭和十年一月中ヨリ同年八月末頃迄ノ間前後二百餘回ニ互リ被告人同様眞實賣買ヲ爲ス意思ナキ山本吉太郎外數名ヨリ大阪株式取引所ノ株式短期清算取引ノ相場ニヨル帝國人絹株式會社株式其ノ他數種ノ株式ノ賣買ノ注文ヲ受ケ取引所ニ上場スルコトナク自ラ其ノ相手方トナリ其ノ後轉賣又ハ買戻ノ形式ヲ執リテ手仕舞ヲ爲シ右注文當時ト手仕舞當時トノ前示相場ノ價格ノ高低ニヨリ勝敗ヲ決シ差金ヲ授受シ以テ常習トシテ賭博博奕ヲ爲シタルモノナリ

而シテ被告人ノ前科調書ニ依レハ被告人ハ昭和九年十二月二十八日高松區裁判所ニ於テ取引所法違反ニヨリ罰金二百圓ニ處セラレタルコトアリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第百八十六條第一項ニ該當スルヲ以テ所定期刑範圍ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人協谷武夫林逸郎上告趣意書第一點第二審判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人ハ高松市福田町二番地ニ店舗ヲ設ケ株式現物賣買業ヲ營ミ居タルモノニシテ賭博常習者ナルトコロ眞實賣買ヲ爲ス意思ナクシテ昭和十年一月中ヨリ同年八月末頃迄ノ間(中略)常習トシテ賭博博奕ヲ爲シタルモノナリ」ト判

常習賭博認定ノ資料

一八九 (二五)

示シ其ノ證據理由ニ於テ「證據ヲ按スルニ(中略)被告人カ賭博常習者ナル點ハ(中略)(ハ)被告人ノ本件犯行カ前示認定ノ如キ回数ヲ重ネ居ル事實ヲ綜合シテ認定ス」ト說示シタリ依是觀之第二審判決ハ其ノ理由ニ於テ判示シタル被告人カ賭博常習者ナリシ過去ノ事實ヲ證明スルニ當リ其ノ證據理由ニ於テ被告人ノ公訴事實自體ヲ說示シタルモノニシテ理由ニ齟齬アルコト一點ノ疑義ヲ殘サス即チ直ニ破毀セサル可ラサルヤ論ヲ俟タサルナリト云フニ在レトモ

【要旨】

刑法第八十六條第一項ノ罪ハ賭博常習ノ身分ヲ有スル者ノ犯シタル賭博罪ナレハ其ノ常習事實ヲ證明スルニ當リテハ必スシモ本案ノ賭博行為以前ノ事實ニ依ルコトヲ要セス現ニ公訴ニ係ル事案ニ於ケル賭博行為カ數回反覆累行サレタル事情ヲ資料ト爲シ得ルノミナラス該事情ニ他ノ證據ヲ綜合シテ之ヲ認定スルハ毫モ違法ニ非ス原判決ヲ閱スルニ被告人ノ賭博常習者タル點ヲ證明スルニ當リ本件賭博行為自體ノ外被告人ノ前科調書及第一審公判調書中該前科カ本件ト同一態様ノ賭博方リシ旨ノ被告人ノ供述記載トヲ綜合シテ之ヲ認メタルモノナレハ所論ノ如ク理由齟齬スルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事池田克關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和十一年(れ)第五七條 同年二月二十七日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 毛塚喜市 辯護人 寺内忠一

【第一審】 栃木區裁判所 【第二審】 宇都宮地方裁判所

○判示事項

特定候補者ニ投票ヲ爲スヘキ選舉人氏名ノ舉示ヲ求ムル行為ト選舉運動

○判決要旨

特定候補者ニ投票ヲ爲スヘキ選舉人十五、六名ノ氏名ノ舉示ヲ求ムル行為ハ選舉運動ナリ

【参照】 府縣制第三十九條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第十章及第十一章並第四百四十條第二項、第四百四十二條及第四百四十七條ノ規定ヲ準用ス但シ議員特定候補者ニ投票ヲ爲スヘキ選舉人氏名ノ舉示ヲ求ムル行為ト選舉運動

候補者一人ニ付定ムヘキ選舉委員ノ數選舉運動ノ爲使用スル勞務者ノ數及選舉運動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

同法第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

衆議院議員選舉法第九十六條第一項 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザレバ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ演說又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ

同法第十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

(中略)

四 第一號若ハ前號ノ供與、饗應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應ジ若ハ之ヲ促シタルトキ

同法第二十九條 第九十五條ノ二、第九十六條第一項、第九十八條若ハ第九十八條ノ

二ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮二月ニ處ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年九月二十二日施行セラレタル栃木縣會議員選舉ニ際シ同縣下都賀郡ヨリ立候補シタル石田耕作ノ法

定選舉運動者ニ非サルモノナル處

第一 同月十二日頃同郡栃木町大字片柳昭光運送合資會社ニ設ケラレタル前記候補者ノ選舉事務所ニ到リ同所ニ於テ候補者ノ選舉委員ナル關口平吉ニ對シ「既ニ四、五十票出來タカ運動費ハ如何ニシテ呉レルカ一票五十錢ヤ一圓ハ出シテ呉レルテセウ」ト申向ケ以テ同人ニ對シ他ノ選舉人ノ投票買收費ノ交付ヲ要求シ

第二 同月十六日頃同町河合町地内ノ道路ニ於テ同郡選舉人ニシテ豫テ知合ナル同町旭町清水友之助ニ對シ前記候補者ニ投票ヲ爲シ且候補者ニ好意ヲ有スル他ノ選舉人十五、六名ノ氏名ヲ舉示シ吳レ度キ旨依頼シ以テ選舉運動ヲ爲シ

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲中第一ノ金錢ノ要求ヲ爲シタル點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第十二條第一項第四號ニ法定ノ資格無クシテ選舉運動ヲ爲シタル點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項本文第二百二十九條ニ各該當スルトコロ以上ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ右所定刑中孰レモ禁錮刑ヲ選擇シ同法第四十七條第十條ノ規定ニ從ヒ重キ金錢ノ要求ヲ爲シタル罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ施シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮二月ニ處スヘク訴訟費用ニ付刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人寺内忠一上告趣意書第二點原裁判所ハ被告人ノ犯罪事實トシテ被告人カ昭和十年九月十六日頃清水友之助ニ對シ好意ヲ有スル他ノ選舉人十五、六名ノ氏名ヲ舉示シ吳レ度キ旨依頼シ以テ選舉運動

特定候補者ニ投票ヲ爲スヘキ選舉人氏名ノ舉示ヲ求ムル行爲ト選舉運動

ヲ爲シト判示セルモ右選舉人ノ舉示ノ依頼ハ國民同盟ニ好意ヲ有スル者ノ舉示ノ依頼ニシテ(被告人
供述)單ニ右ノ行爲アリタルヲ以テ直ニ選舉運動ナリト云フヲ得ス犯罪ノ準備ヲ以テ犯罪ノ著手ナリ
ト誤認シタルモノニシテ擬律ニ錯誤アリト云ハサルヘカラスト云フニ在レトモ

原判決ハ被告人ハ清水友之助ニ對シ栃木縣會議員候補者石田耕作ニ好意ヲ有シ同候補者ニ投票ヲ爲ス
ヘキ選舉人十五、六名ノ氏名ノ舉示ヲ求メタリト判示シタルモノニシテ所論ノ如ク國民同盟ニ好意ヲ
有スル選舉人氏名ノ舉示ヲ求メタリト認メタルモノニ非ス而シテ特定ノ候補者ニ投票ヲ爲スヘキ選舉
人十五、六名ノ氏名ヲ知ルコトハ該候補者ヲシテ當選ヲ得シムルニ付頗ル有利ナル事項ナレハ斯カル
事項ノ舉示ヲ求ムルカ如キハ選舉運動行爲ナルコト勿論ニシテ法定ノ選舉運動者ニ非サル者カ斂上行
爲ヲ爲スニ於テハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項本文第二百二十九條ノ犯罪ヲ構成
スヘク所論ノ如ク犯罪ノ準備ニ過キササル行爲ナリト謂フヘカラスト然レハ原判決カ右各法條ニ間擬シタ
ルハ正當ニシテ所論ノ如ク擬律錯誤ノ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理
由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事池田克關與

○恐喝被告事件

(昭和十年(れ)第一四六一號 同十一年三月五日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 浮田嘉三郎 辯護人

横山 廣太
島田 正
松田 市
平松 登藏
菅原 裕
外一名

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

貸貸人ノ承諾ナキ轉借家屋ノ不法占據——刑事訴訟法第三百四十二
條ニ所謂證據物及證據書類ノ意義

○判決要旨

一 貸貸人ノ承諾ヲ得スシテ賃借人ヨリ家屋ヲ轉借占有スル者ハ賃
貸人トノ關係ニ於テハ不法占據者ナリトス【要旨第一】

貸貸人ノ承諾ナキ轉借家屋ノ不法占據 刑事訴訟法第三百四十二條ニ所謂證據物
及證據書類ノ意義

二 刑事訴訟法第三百四十二條ニ所謂公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類トハ事件カ公判ニ繫屬シタル以後第一回公判期日迄ニ提出セラレタルモノヲ指稱ス【要旨第二】

【參照】 民法第六百十二條 賃借人ハ賃借人ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ讓渡シ又ハ賃借物ヲ轉貸スルコトヲ得ス
賃借人カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメタルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
刑事訴訟法第三百四十二條 公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ニ依リ作成シ又ハ集取シタルモノニ付亦同シ但シ訴訟關係人ニ異議ナキモノニ付テハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和三年中頃博徒大和奈良吉事吉川奈良吉ノ配下ト爲リ昭和七年頃ヨリ其ノ幹部ト爲リ大阪市南區千日前方面ニ於テハ事件師浮田ト綽名セラレ居ル者ナルトコロ昭和三年十一月終頃増田セイノ内縁ノ夫近藤正秀所有名義ニ係ル大阪市南區阪町十四番地所在家屋ヲ賃借人タル前任者木村昂ヨリ轉借シタルモ右家主ニ對シテハ其ノ承諾ヲ得ルコ

トナクシテ無斷ニ住込ミ不法ニ之ヲ占據シ居リタルカ同年十二月初頃家主ノ雇人吉田常吉カ右家屋ニ家賃ノ集金ニ來リタル際被告人ノ占據ノ事實ヲ發見シテ其ノ不當ヲ問責スルヤ被告人ハ却テ同人ニ對シ「オ前ノ方ハ家ヲ貸スノカ商賣タカラ家賃サヘ拂ヘハ俺カ這入ラウト誰カ這入ラウト差支ナイテハナイカ俺ノ金ハ通用シナイカ」ト怒鳴リ付ケ同人及之ヲ傳聞シタル家主ヲシテ狼狽困惑セシメタルモ家主ニ於テ右家屋ヲ被告人ニ貸與スル意思ナキコトヲ知ルヤ家主ヲ恐喝シテ金員ヲ交付セシムコトヲ圖リ其ノ後右家屋ニ於テ吉田常吉ニ對シ「オ前ノ方ハ願フ積リカ願フナラ願ツテ見ヨ民事訴訟スルナラシテ見ヨ一審テモ二審テモ何處迄行ツテモ相手ニナツテヤル一年ヤ二年テハ片付カ又答オ前ノ方ハ金カアルカラ幾年テモソナコトヲシテ見ヨ俺ノ方テモ其ノ間二年テモ三三年テモ家賃ハ拂ハヌカラオ前ノ方ハドナイテモシテ見ヨ俺ノ方テモ夫レ丈ハ覺悟シテ居ル」旨申向ケ右家屋ニ居据リテ續ケ家主ヲシテ何等施ス術ナキニ至ラシメ置キ昭和五年八月頃迄ノ間ニ於テ家主ヨリ森居豐次郎ヲ通シ明渡ヲ求メラルルヤ森居及家主ノ雇人福島國藏ヲ通シ家主ニ對シ「自分ハ木村昂ヨリ老舗及造作ヲ四千二百六十圓ニテ買受ケ尙敷金四百圓ヲモ讓受ケ居ルニ付合計金四千六百六十圓ノ支拂ヲ受ケサレハ右家屋ヲ立退カサル」旨申向ケ家主ヲシテ被告人ノ要求ニ應セサレハ依然トシテ不法占據ヲ繼續セラレ財産上莫大ナル損害ヲ受クル旨畏怖セシメ因テ家主ヲシテ右四千六百六十圓ヨリ昭和三年十二月一日ヨリ昭和五年十一月末日迄ノ家賃金二千六百六十圓ヲ差引キ殘金二千五百圓ヲ被告人ニ提供スル旨承諾セシメタル上同年十二月初頃右家屋ニ於テ二回ニ互リ合計二千百圓（現實ノ授受ハ敷金ヲ包含シ金二千五百圓）ヲ交付セシムルト共ニ昭和三年十二月一日ヨリ昭和五年十一月末日迄ノ不法占據ニ基ク一ヶ月九十圓ノ家賃相當金二千六百六十圓ノ損害金ノ支拂義務ヲ免除セシメテ財産上不法ノ利益ヲ得尙昭和五年十二月五日右家屋明渡ノ際右福島國藏ヲ通シテ家主ニ對シ被告人ハ自己ノ權利ニ屬セサル疊建具等ヲ家主側ニ於テ買受クルニ非サレハ右疊建具等ハ勿論天井裏鴨居等ヲモ外シ之ヲ持チ出スヘキ旨申向ケ家主ヲシテ被告人ノ右要求ニ應セサルニ於テハ右家屋ニ多大ノ損傷ヲ加ヘラ

賃借人ノ承諾ナキ轉借家屋ノ不法占據 刑事訴訟法第三百四十二條ニ所謂證據物及證據書類ノ意義

ルヘキ旨畏怖セシメタル上疊建具類買受名義ノ下ニ金百五十圓ヲ交付セシメタルモノニシテ右ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十九條第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人横山鑛太郎島田正純上告趣意書第二點原判決ハ其ノ冒頭ニ於テ被告人ハ昭和三年十一月終頃増田セイノ内縁ノ夫近藤正秀所有名義ニ係ル大阪市南區阪町十四番地所在家屋ニ賃借人タル前任者木村帛ヨリ轉借シタルモ右家主ニ對シテハ其ノ承諾ヲ得ルコトナクシテ無斷ニ住込ミ不法ニ之ヲ占據シ居リタルカ云々ト判示シタリ然レトモ凡ソ家屋ノ轉賃借ハ賃借人ノ承諾ナキニ因リ當然ニ第三者タル轉借人ノ居住ヲ以テ不法占有ト謂フヘキモノニアラス從テ轉借人ニ於テ賃借人ニ無斷居住シタリトスルモ直チニ之ヲ以テ不法占有ナリト謂フヲ得ス蓋賃借人カ賃借人ノ承諾ヲ得スシテ賃借物件ヲ他人ニ轉賃スルモ其ノ行爲ハ當然無効ニアラス唯契約解除ノ原因タルニ止マルモノナルコトハ民法第六百二十二條ノ明定スル通りニシテ御院判例モ亦然リ故ニ賃借人ハ其ノ承諾ナクシテ賃借人カ第三者ニ其ノ目的

物件ヲ轉賃シタル場合ニ於テハ賃借人ハ其ノ賃借人トノ間ノ賃借契約ヲ解除セサル限り轉借人ノ占有ハ不法ト爲ラサルノミナラス之カ賃借物ノ返還ヲ求ムルヲ得サルモノナリ翻テ本件ニ付之ヲ看ルニ原判決ハ被告人カ判示木村帛ヨリ本件家屋ヲ轉借シタルコトヲ認メナカラ家主タル増田セイノ承諾ヲ得サリシヲ以テ直チニ不法ニ占據シタルモノト判示シタルハ轉賃借契約ノ效力ヲ誤解シタルモノナリ果シテ然ラハ原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リ不法ニ事實ヲ認定シタルノ違法アリ此ノ點ニ於テ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨第一】

賃借人ノ承諾ヲ得スシテ賃借物件ヲ轉借シタル場合ニ於テハ其ノ轉賃借ヲ以テ賃借人ニ對抗スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ轉賃借契約カ其ノ當事者間ニ於テ有效ナルト或ハ又賃借人カ未タ賃借契約ヲ解除セサル場合ナルトヲ問ハス轉借人ハ賃借人トノ關係ニ於テ轉借物ヲ占有スヘキ權原ヲ有スルモノニ非ス從テ家主ノ承諾ヲ得スシテ賃借人木村帛ヨリ判示家屋ヲ轉借シタル被告人カ該家屋ヲ占有セシムルハ賃借人ニ對スル關係ニ於テ不法占據タルニ外ナラス此ノ趣旨ニ出テタル原判決ハ正當ナリ之ニ反スル見解ニ立脚シテ原判決ヲ非難スル論旨ハ理由ナシ

辯護人平松市藏 万城登上告趣意書第十一點原判決ハ公判廷ニ於テ取調フヘキ證據取調ヲ爲ササリシ違法アルモノナリ原審第一回公判調書中(記錄第二四三丁)ニハ「裁判長ハ被告人ニ對シ一、原審各公判調書一、檢事及司法警察官ノ各聽取書ヲ各讀聞ケ各證據ノ取調ヲ終ル毎ニ意見辯解ノ有無ヲ問ヒ

賃借人ノ承諾ナキ轉賃借家屋ノ不法占據
及證據書類ノ意義

刑事訴訟法第三百四十二條ニ所謂證據物

且利益ノ證據ヲ提出シ得ヘキ旨ヲ告ケタル旨ノ記載アリ然レトモ右記載ニ依リテハ各關係人ニ對スル檢事及司法警察官ノ聽取書中何人ニ對スルモノヲ讀聞ケタルモノナリヤ又果シテ各關係人ニ對スル書中ニハ原裁判所カ公判廷ニ於テ取調フヘキ證據物及證據書類ノ取調ヲ爲シタルコトヲ證明スルニ足ル記載ナキニ歸シ從ツテ原裁判所ハ公判廷ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシ違法アルモノナルコト前記第九點所論ノ如シ加之假ニ原審第一回公判調書中ニ於ケル前摘記ノ如キ記載ヲ以テ原裁判所カ各關係人ニ對スル檢事及司法警察官ノ聽取書全部ニ付證據調ヲ爲シタルコトヲ證明スルニ足ルモノトスルモ尙原裁判所ハ其ノ當時本件ニ關スル證據物トシテ押收セラレ居リタル證第一號(記錄第二九丁領置目錄記載ノ契約書一通)及證第二號(記錄第五二丁領置目錄記載賣渡證一通)竝證據書類タル司法警察吏作成ノ報告書及各關係人提出ノ始末書等ニ付證據調手續ヲ爲ササリシコト原審公判調書中此等各證據ノ取調ヲ爲シタル旨ノ記載ナキニ徴シ明カナル所ナリ而テ此等各證據物及證據書類ニ付キテモ亦證據調手續ヲ爲スヲ要スルコト勿論ナルヲ以テ此ノ點ヨリスルモ原判決ハ公判廷ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシ違法アルコト明カナルモノナリト云フニ在レトモ

論旨前段ノ採ルニ足ラサルコトハ第九點及第十點ニ對スル說明ニ依リ明白ニシテ證第一號證第二號ニ關スル論旨ノ理由ナキコトハ横山島田兩辯護人上告趣意書第一點ニ對スル說明ニヨリ之ヲ諒解スヘシ

【要旨第二】

而テ刑事訴訟法第三百四十二條ニ所謂公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類トハ事件カ公判ニ繫屬シタル以後公判準備ノ爲ニ提出セラレタルモノヲ指稱スルニ外ナラサルヲ以テ事件カ第二審公判ニ繫屬スル以前ニ於テ提出セラレタル證據物及證據書類ハ第二審ノ公判廷ニ於テ必スシモ之ヲ取調フヘキ要ナキモノトス記錄ニ徵スレハ所論ノ司法警察吏作成ノ報告書及始末書ハ本件カ第二審ニ繫屬スル以前ニ於テ提出セラレタルモノナルコト明カナルヲ以テ原審カ公判廷ニ於テ之カ取調ヲ爲ササリシハ職權ヲ以テ證據調ノ範圍ヲ裁量シタルニ過キス其ノ取調ナカリシコトヲ非難スル論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事武松久吉關與

○業務上横領詐欺被告事件 (昭和十年(九)第一七〇四號 棄却)

11011 (1101)

【上告人】 被告人 吉野 吞鹿 辯護人 作間 耕逸

【第一審】 大分地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

判事ノ轉職ト従前ノ職務ノ執行

○判決要旨

判事未タ轉職ノ辭令書ノ交付ヲ受ケス又公式ニ轉職ノ通告ヲ受ケサル間ニ於テハ假令轉職ノ發令後ト雖尚従前ノ職務ヲ行フコトヲ得ルモノトス

【参照】 刑事訴訟法第三百二十九條 公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲ス

ヘシ

公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク

○事實

第二審ハ被告人ハ有限責任緒方信用購買販賣利用組合長理事在任中第一、犯意ヲ繼續シテ數回ニ同組合ノ所有金合計一萬五千六百五十圓ノ業務上横領第二、大分縣知事ヨリ建築獎勵金八百七十餘圓騙取

ノ行爲アリタル事實ヲ認定シ刑法第二百五十三條第五十五條第二百四十六條第四十五條第二十五條ヲ適用シ被告人ヲ懲役八月ニ處ス但シ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

判事堀耕作ハ昭和十年十一月十三日佐賀地方裁判所長ニ轉補セラレ同月十五日ノ官報ニ掲載セラレタル處同判事ハ同日本件ニ付裁判長トシテ判決ヲ言渡シタルモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人作間耕逸上告趣意書第五點原判決ハ其ノ言渡手續ニ重大ナル違法アリ原判決ハ昭和十年十一月十五日裁判長判事堀耕作氏ニ於テ言渡サレタルモノナルコトハ原院公判調書ノ記載ニ依リ明カナルノミナラス原判決ノ末尾ニ「長崎控訴院第一刑事部裁判長判事堀耕作」ノ署名捺印アリ然ルニ右判事堀耕作氏ハ右原判決ノ言渡以前タル昭和十年十一月十三日佐賀地方裁判所長ニ轉任セラレタルコトハ昭和十年十一月十五日ノ官報ニ依リ明カナル事實ニシテ原判決言渡當日タル昭和十年十一月十五日ハ右判事堀耕作氏ハ長崎控訴院ノ判事ニアラス從テ之カ言渡ヲ爲スコト能ハサルハ勿論原判決ニモ署名捺印スルコト能ハサル筋合ナリトス然ルニ原判決ハ此ノ長崎控訴院判事ニアラサル判事堀耕作氏ニ依リテ言渡サレタル違法アルモノニシテ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

判事ノ轉職ト従前ノ職務ノ執行

11011 (1101)

長崎控訴院部長ノ職ニ在リタル判事堀耕作カ昭和十年十一月十三日附ヲ以テ佐賀地方裁判所長ニ轉補セラレタルコトハ同月十五日發行ノ官報ニ其ノ旨掲載アルニ依リ明カニシテ又原審公判調書ニ依レハ同判事ハ原審裁判長トシテ同月十五日ノ原判決言渡ノ公判ニ關與シタルコト明カナレトモ官吏ノ轉任補職ハ其ノ辭令書ヲ本人ニ交付シ又ハ公式ニ其ノ轉職ヲ本人ニ通告スルニ依リテ初メテ其ノ效力ヲ生スルモノナルヲ以テ同判事ニシテ同月十五日未タ辭令書ノ交付ヲ受ケス又公式ニ轉職ノ通告ヲ受ケサルニ於テハ同日尙從前ノ職務ヲ行ヒ得ヘキコト言フ俟タス而シテ同判事カ同日既ニ辭令書ノ交付ヲ受ケ又ハ公式ニ轉職ノ通告ヲ受ケナカラ原判決言渡ノ公判ニ關與シタルカ如キ事跡ノ認ムヘキモノナキヲ以テ原判決言渡手續ニハ所論ノ如キ違法アルモノト謂フヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事池田克關與

○詐欺被告事件

(昭和十年(レ)第一七八五號 破毀自判)
同十一年三月五日第二刑事部判決

【上告人】 被告人 川崎 清

【第一審】 松山地方裁判所宇和島支部 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

連續犯ノ一部ニ付確定判決アリタル後意思繼續シテ犯セル同一罪名ノ犯罪

○判決要旨

甲乙連續ノ意思ニ出テタル詐欺行爲中甲罪ニ付最終ニ事實ヲ審理シタル裁判所ノ確定シタル有罪判決言渡後更ニ同一罪名ノ丙罪ヲ犯シタルトキハ乙罪ト丙罪トハ假令事實上連續ノ意思ニ出テタリトスルモ連續犯トシテ處斷スルヲ得サルモノトス

【參照】 刑法第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

刑事訴訟法第三百六十三條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 確定判決ヲ經タルトキ

二 犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

連續犯ノ一部ニ付確定判決アリタル後意思繼續シテ犯セル同一罪名ノ犯罪

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年四月ニ處ス但シ第一審未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和八年十月二十五日 廣島控訴院ニ於テ詐欺罪ニ依リ懲役一年六月ニ處セラレタルモノナルトコロ

第一 昭和八年七月下旬頃ヨリ山口縣大島郡小松町ニ於テ富士屋證券合資會社出張所ナル商號ヲ用ヒ店舗ヲ構ヘ有價證券賣買業ヲ營ミタルカ株式ノ短期清算取引ノ取次ヲ爲スカ如ク裝ヒ他人ヲ欺罔シ委託證據金又ハ其ノ代用名義ノ下ニ金錢又ハ有價證券ヲ騙取センコトヲ企テ

(一) 昭和八年八月初旬以降山口縣大島郡屋代村橋本龜太郎ヲシテ株式ノ短期清算取引ノ取次ヲ委託セシメ同年十一月一日店員原口四郎ヲ介シ右橋本龜太郎方ニ於テ同人ニ對シ本店ヨリ何等證據金ノ請求ナキニ拘ラス同人カ曩ニ賣立注文ヲ爲セル帝人竝鐘紡ノ株價暴騰シ本店ヨリ追證據金ノ請求アリタル旨申詐リ因テ其ノ旨同人ヲシテ誤信セシメ即時同所ニ於テ同人ヨリ追證據金名義ノ下ニ金額五千九百九十九圓九十八錢ノ橋本龜太郎名義住友銀行柳井支店定期預金證書一通ヲ交付セシメテ之ヲ受取リ

(二) 同年同月十七日頃店員原口四郎ヲ介シ前同所ニ於テ橋本龜太郎ヲシテ恰モ被告人ニ於テ其ノ取次ヲ爲スモノノ如ク誤信セシメ因テ同人ヲシテ日本產業五十株ノ買建注文ノ取次ヲ委託セシメ即日同所ニ於テ右委託ノ證據金名義ノ下ニ同人ヨリ東洋拓殖株式會社新株式百株ヲ受取リ

第二 昭和九年五月頃營業所ヲ宇和島市裡町五丁目ニ移シ九十證券ナル商號ノ下ニ株式現物業ヲ營ミタルカ前同様他人ヲ欺罔シテ金錢等ヲ騙取センコトヲ企テ

(一) 同年五月下旬頃愛知縣北宇和郡岩松町羽野孝之方ニ於テ同人ニ對シ廣島株式取引所取引員田中快司商店ニ短期清算取引ノ委託ヲ取次ク意思ナク且九十證券ハ田中快司商店ノ支店ニ非サルニ拘ラス九十證券ハ廣島市所在ノ株式取引員田中快司商店ノ支店ナルヲ以テ短期清算取引ハ凡テ之ヲ右田中商店ニ取次クヘキ旨申詐リ其ノ旨羽野孝之ヲシテ誤信セシメ因テ同人ヲシテ大新十株ノ買建注文ヲ爲サシメ即時同所ニ於テ同人ヨリ復興貯蓄債券十圓券七枚同五圓券五枚ヲ金百十三圓八十五錢ニテ買取リ該代金ヲ證據金トシテ受入ルル名義ノ下ニ右債券全部ヲ受取リ

(二) 同年六月中旬頃店員松本喜一ヲ介シ前同所ニ於テ羽野孝之ヨリ山口義孝所有ノ復興貯蓄債券十圓券四枚同五圓券四枚割引勸業債券二十圓券一枚ヲ被告人カ前記田中快司商店ニ取次クヘキ短期清算取引ノ證據金代用トシテ差入ルヘキ旨申込ヲ受クルヤ被告人ハ其ノ意思ナキニ拘ラス該債券全部ヲ金九十三圓ニテ買取リ該代金ヲ證據金トシテ受入ルヘキ旨申詐リ因テ其ノ旨羽野孝之ヲ誤信セシメ即時同所ニ於テ同人ヨリ右趣旨名下ニ右債券全部ヲ受取リ

(三) 同年七月一日頃店員松本喜一ヲ介シ前同所ニ於テ前同様羽野孝之ヲシテ短期清算取引ハ之ヲ右田中快司商店ニ取次クヘキモノナル旨誤信セシメタル上其ノ證據金代用名義ノ下ニ南滿洲鐵道株式會社新株式五株ヲ羽野孝之ヨリ受取リ

(四) 同年八月十日頃店員松本喜一ヲ介シ前同所ニ於テ前同様羽野孝之ヲ欺罔シ日魯十株ノ賣建注文ヲ爲サシメ即時同所ニ於テ同人ヨリ證據金代用名義ノ下ニ宇和島製氷冷蔵株式會社株式十株ヲ受取リ

(五) 同年同月十七日店員松本喜一ヲ介シ前同所ニ於テ前同様羽野孝之ヲ欺罔シ日魯十株ノ賣建注文ヲ爲サシメ即時

時同所ニ於テ同人ヨリ其ノ證據金代用名義ノ下ニ宇和島製氷冷蔵株式會社株式十株ヲ受取リ

第三 前同様金錢等ヲ騙取セントコトヲ企テ昭和九年六月下旬頃前記羽野孝之方ニ於テ愛媛縣北宇和郡岩松町山口義孝ニ對シ前示第二ノ(一)掲記同様ノ欺罔手段ヲ弄シ其ノ旨同人ヲ欺罔シタル上

(一) 同年六月二十五日頃店員松本喜一ヲ介シ前記山口義孝ニ於テ同人ヨリ大新十株ノ買建註文ヲ爲サシメ即時同所ニ於テ其ノ證據金名義ノ下ニ金百圓ヲ受取リ

(二) 同年八月九日頃店員松本喜一ヲ介シ前同所ニ於テ山口義孝ヨリ日魯十株ノ賣建註文ヲ爲サシメ即時同所ニ於テ同人ヨリ其ノ證據金代用名義ノ下ニ宇和島製氷冷蔵株式會社株式十株ヲ受取リ

(三) 同年同月十七日頃店員松本喜一ヲ介シ前同所ニ於テ前同様山口義孝ヨリ日魯十株ノ賣建註文ヲ爲サシメ即時同所ニ於テ同人ヨリ其ノ證據金トシテ金八十圓ヲ受取リ

第四 昭和九年九月八日頃宇和島市裡町五丁目當時ノ被告人ノ營業所ニ於テ二宮康差ヨリ滿鐵新五十株ノ賣建註文ヲ受クルヤ前同様同人ヲ欺罔シテ有價證券ヲ騙取セントコトヲ企テ判示第二ノ(一)掲記同様ノ欺罔手段ヲ弄シテ同人ヲ欺罔シ即時同所ニテ同人ヨリ其ノ證據金代用名義ノ下ニ復興貯蓄債券十圓券十八枚ヲ受取リ

第五 同年六月上旬頃前同様金錢等ヲ騙取セントコトヲ企テ宇和島市裡町五丁目被告人ノ當時ノ營業所ニ於テ宇和島市丸之内丸岡ヤスニ對シ前同様手段ヲ以テ欺罔シタル上

(一) 同月十一日頃店員松本喜一ヲ介シ前記丸岡ヤス方ニ於テ同人ヨリ日産三十株ノ買建註文ヲ爲サシメ同日右被告人ノ營業所ニ於テ丸岡ヤスヨリ其ノ證據金及之カ代用名義ノ下ニ現金百六十圓及帝國製糖株式會社新株式十株ヲ受取リ

(二) 同月十四日頃店員松本喜一ヲ介シ前記丸岡ヤス方ニ於テ同人ヨリ日産二十株ノ買建註文ヲ爲サシメ同日右被

告人營業所ニ於テ丸岡ヤスヨリ其ノ證據金名義ノ下ニ金三百二十圓ヲ受取リ

(三) 同月二十七日頃店員松本喜一ヲ介シ前記丸岡ヤス方ニ於テ同人ヨリ東新三十株ノ買建註文ヲ爲サシメ其ノ頃右被告人ノ營業所ニ於テ丸岡ヤスヨリ其ノ證據金代用名義ノ下ニ南滿洲鐵道株式會社舊株式十株ヲ受取リ

(四) 同年八月一日右被告人營業所ニ於テ丸岡ヤスニ對シ其ノ事實ナキニ拘ラス取引客ノ爲任意手仕舞ヲ爲シタルモ其ノ取引客不在ノ爲證據金ヲ本店ニ送付スル能ハサルニ依リ證據金代用トシテ差入ルル爲南滿洲鐵道株式會社舊株式十株及日本窒素肥料株式會社新株式二十株ヲ一時貸與セラレ度旨申詐リ其ノ旨同人ヲシテ誤信セシメ因テ即日同所ニ於テ同人ヨリ貸借名義ノ下ニ前記株式全部ヲ受取リ

(五) 同年九月十一日店員松本喜一ヲ介シ右丸岡ヤス方ニ於テ同人ニ對シ前記田中快司商店ヨリ追證據金ノ請求ヲ受ケタルコトナキニ拘ラス糞ニ丸岡ヤスカ取引ヲ委託シタル日産ハ値下リシタル爲本店ナル田中快司商店ヨリ追證據金ノ請求アリタル旨申詐リ其ノ旨右ヤスヲシテ誤信セシメ因テ同日同所ニ於テ同人ヨリ追證據金代用名義ノ下ニ日魯漁業株式會社新株式十株ヲ受取リ

(六) 同月十三日店員谷口某ヲ介シ右丸岡ヤス方ニ於テ同人ニ對シ右同様ノ欺罔手段ヲ弄シ同人ヲ欺罔シ同日同所ニ於テ右ヤスヨリ同人カ糞ニ取引ヲ委託シ居タル日産竝東新ニ對スル追證據金代用名義ノ下ニ王子製紙株式會社第二新株式四株滿洲電信電話株式會社株式十株及南滿洲鐵道株式會社第二新株式十株ヲ受取リ

以テ孰レモ之ヲ騙取シタルモノニシテ右ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス
法律ニ照スニ被告人ノ判示詐欺ノ所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年四月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一、二項ヲ適用シ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

連續犯ノ一部ニ付確定判決アリタル後意思繼續シテ犯セル同一罪名ノ犯罪

尙本件公訴事實中被告人カ判示第一事實冒頭掲記ノ欺罔手段ヲ弄シ橋本龜太郎ヨリ昭和八年八月七日以降同年十月二日迄ノ間五回ニ互リ現金二千圓及東邦電力株式會社株式五十株其ノ他ノ有價證券ヲ騙取シタリトノ點ハ其ノ證明十分ナルモ右ハ被告人カ其ノ犯行後ナル昭和八年十月二十五日當院ニ於テ言渡ヲ受ケタル判示前科ノ詐欺罪ト連續犯ノ關係ニ在リテ既ニ確定判決ヲ經タルモノナルヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ筋合ナルモ橋本龜太郎ニ對スル判示第一ノ詐欺ト連續犯ニ係ルモノトシテ起訴セラレタルモノナルニ依リ特ニ主文ニ於テ其ノ言渡ヲ爲サス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人ヲ懲役一年四月ニ處ス

但第一審ニ於ケル未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入ス

訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス

公訴事實中被告人カ昭和八年七月以降同年十月二日迄ノ間五回ニ互リ橋本龜太郎ヨリ現金及有價證券等ヲ騙取シタリトノ點ニ付テハ被告人ヲ免訴ス

○理 由

被告人上告趣意書本件ハ一見單純ナル詐欺罪ノ如キモ仔細ニ之ヲ審究セラルトキハ明カナル如ク被告人ハ被害者各人ト共謀シテ一種ノ株式短期清算類似ノ賭博ヲ爲スコトカ多分ノ目的ナリト認ムルニ

十分ナリ被害者ハ本件ノ如キ危險ヲ最初ヨリ負擔スルコトヲ覺悟シ居タリ之等ノ事情ヲ參酌セラルトキ被告人ニ對スル一年四箇月ノ刑ハ寔ニ重キニ失スルモノト思料ス依ツテ此ノ點ニ就キ究明相成相當ノ御判決ヲ求ムト云フニ在レトモ

被告人カ被害者ト共謀シテ一種ノ株式短期清算類似ノ賭博ヲ爲スコトヲ目的トシタリトノ所論ハ原判示ニ副ハサル主張ニシテ原判決ニ舉示セル各證據ヲ綜合スレハ優ニ原判示ノ事實ヲ證明スルニ足り記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルモノナク又量刑ニ於テモ甚シク不當ナリト思料スヘキモノアルヲ見ス案スルニ原判決ハ被告人ニ對シ昭和八年十一月一日以降同年九月十三日迄ノ間十七回ニ金員又ハ有價證券等ヲ騙取シタル詐欺罪ヲ認メ被告人カ右詐欺罪ト同一詐罔手段ヲ弄シ橋本龜太郎ヨリ昭和八年八月七日以降同年十月二日迄ノ間五回ニ互リ現金二千圓及東邦電力株式會社株式五十株其ノ他ノ有價證券ヲ騙取シタリトノ事實ニ付テハ其ノ證明十分ナルモ原院カ昭和八年十月二十五日言渡シタル詐欺罪ト連續ノ關係ニ在リテ既ニ確定判決ヲ經タルモノニ該當スルモ敍上十七回ノ詐欺罪ノ一部ト連續ノ關係アルモノトシテ特ニ主文ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲ササル旨判示セリ惟フニ甲乙連續ノ意思ニ出テタル詐欺行爲中甲罪ニ付最終ニ事實ヲ審理シタル裁判所ノ確定シタル有罪判決言渡後更ニ同一罪名ノ丙罪ヲ犯シタルトキハ乙罪ト丙罪トハ假令事實上連續ノ意思ニ出テタリトスルモ法律上別個獨立ノ犯罪タル關係ニ在ルカ故ニ丙罪ト乙罪トヲ連續犯ノ關係ニ在ルモノトシ

【要旨】

連續犯ノ一部ニ付確定判決アリタル後意思繼續シテ犯セル同一罪名ノ犯罪

テ判決ヲ爲スコトヲ得サルモノトス而シテ甲罪ニ付テノ確定判決ハ其ノ確定力ヲ乙罪ニ及ホスヲ以テ甲罪ノ確定判決後起訴セラレタル乙罪ニ付テハ刑事訴訟法第三百六十三條ニ則リ免訴ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス然ルニ原判決ニ於テ右乙罪ニ該當スル敍上五回ノ詐欺罪ハ既ニ確定判決ヲ經タル詐欺罪ニシテ右甲罪ニ該當スルモノト連續ノ關係ニ在リト認ムルト同時ニ右丙罪ニ該當スル本件詐欺罪トノ關係ニ於テモ連續ノ關係ニアルモノトシテ右乙罪ニ該當スル敍上詐欺罪ニ付免訴ノ言渡ヲ爲ササリシハ違法ニシテ原判決ハ破毀ヲ免レス

因テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ原判決ノ認メタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人ノ所爲中原判示第一乃至第五ノ事實ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年四月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條ニ依リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘク被告人カ原判示第一冒頭掲記ノ欺罔手段ヲ弄シ橋本龜太郎ヨリ昭和八年八月七日以降同年十月二日迄ノ間五回ニ互リ現金二千圓及東邦電力株式會社株式五十株其ノ他ノ有價證券ヲ騙取シタリトノ事實ニ付テハ原判決ハ被告人ニ對シ昭和八年十月二十五日原院ニ於テ言渡シタル同一態様ノ詐欺罪ト連續犯ノ關係ニ在ルモノト認メタルヲ以テ該事實ニ付テハ既ニ確定判決ヲ經タルモノト謂フヘク刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十三條第一號ニ依リ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス
因テ主文ノ如ク判決ス

檢事池田克關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和十一年(九)第八一號
同年三月五日第二刑事部判決 棄却)

〔上告人 被告人 有馬 敬介 辯護人 長野 國助
中野 道

〔第一審〕 高松區裁判所 〔第二審〕 高松地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法第九十六條第一項ニ所謂推薦狀

○判決要旨

府縣制ニ依リ準用サルル衆議院議員選舉法第九十六條第一項ニ所謂推薦狀ニ推薦者ヲ表示スルニハ必スシモ其ノ者ノ氏名ヲ記載スルヲ要セス雅號等ヲ以テ表示スルヲ妨ケサルモ推薦者ノ何人タル

衆議院議員選舉法第九十六條第一項ニ所謂推薦狀

ヤヲ知ルコトヲ得ヘカラサルモノハ之ヲ推薦狀ト稱スルヲ得ス

【参照】府縣制第三十九條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第十章及第十一章並第四百四十條第二項、第四百四十二條及第四百四十七條ノ規定ヲ準用ス但シ議員候補者一人ニ付定ムヘキ選舉委員ノ數、選舉運動ノ爲使用スル勞務者ノ數及選舉運動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

同法第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス
衆議院議員選舉法第九十六條第一項 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザレバ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ

同法第二百二十九條 第九十五條ノ二、第九十六條第一項、第九十八條若ハ第九十八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ十五日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年九月二十五日施行ノ香川縣縣會議員選舉ニ際シ同縣大川郡ヨリ立候補シタル藤井政八ノ法定選舉運動者ニ非サルニ拘ラス同候補者ニ當選ヲ得シムルノ目的ヲ以テ同月十四日高松市高松郵便局構内ニ於テ葉書六枚ニ「人格崇高穩健篤實萬民ノ尊敬スル我等ノ熱望期待止マサル藤井政八氏ハ衆望遂ニ辭シ難ク縣議候補ニ立テリ深甚ナ

ル御同情ニ依リ最高點ニテ當選セシメスハ止マス傲慢不遜ナル彼ノ立候補者ノ如キハ此ノ際コソ好機逸セス天ノ配劑宜敷排擊懲戒ノ爲メ落選セシメテコソ地方ノ最得策ナラスヤ」ナル要旨ノ文詞ヲ「在高松公平無私生」ナル差出人名義ノ下ニ記載シ其ノ作成並發送者ノ何人ナルカヲ知ルコトヲ得サル右葉書文書ヲ大川郡丹生村庵原堯三等同郡内六名ノ選舉人ニ郵送シ以テ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第二百二十九條第九十六條第一項ニ該當スルヲ以テ所定罰金刑ヲ選擇處斷シ罰金不完納ノ場合ニ付刑法第十八條ヲ適用スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人長野國助 中野道上告趣意書原判決ハ被告人カ香川縣縣會議員選舉ニ際シ同縣大川郡ヨリ立候補シタル藤井政八ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ「在高松公平無私生」ナル差出人名義ノ下ニ庵原堯三等六名ノ選舉人ニ郵送シタル葉書ニ依ル文書カ衆議院議員選舉法第九十六條第一項ニ所謂推薦狀ニ該當スルヤ否ヤニ付「判示葉書文書ハ其ノ文書自體ニ於テ其ノ作成並發送者ノ何人タルカヲ知ルニ由ナク文詞中候補者ヲ推薦スルノ意ヲ表ハセルモノナキニ非スト雖其ノ推薦者ノ何人タルカニ至リテハ毫モ知ルコトヲ得サル文書ニ屬シ縣會議員ノ選舉ニ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十六條第一項ニ所謂推薦狀ニ該ラサルヲ以テ右主張ハ採用ニ由ナク被告人ハ法定ノ資格ナク不法ニ選舉運動ヲ爲シタル

衆議院議員選舉法第九十六條第一項ニ所謂薦推狀

モノト斷スルノ外ナク判示事實ハ茲ニ其ノ證明アリタルモノトスト判示セラル然レトモ同條ニ所謂推薦狀ノ様式ニ付テハ法律ニ何等規定スルトコロナク寧ロ法律ハ在來民間ニ於テ選舉ニ使用サレ來リタル所謂推薦狀ナルモノヲ其ノ儘法文ノ用語トシテ踏襲シ其ノ意義ニ關シテハ一般ノ解釋ニ一任シタルモノナリト謂ハサルヘカラス而シテ所謂推薦狀ナルモノニハ普通推薦者ノ氏名存スルヲ常トスルモ是レ推薦文書ヲ印刷ニ附シ不定多數人ニ頒布スル一般ノ場合ノ形式ヲ云フモノニシテ必スシモ之ニ限定セラルヘキ何等ノ理由存セス例ヘハ特ニ昵懇ナル知人ニ差出ス場合ノ如キ雅號又ハ變名ニテモ可ナルハ勿論頭字其ノ他ノ符號ニテモ可ナリト云ハサルヘカラス團體又ハ組合ノ如キ夫レ自體人格ヲ有セサルモノノ推薦狀尙適法ナルハ既ニ判例ノ存スル所ナリ從ツテ推薦狀ニ推薦者ノ名義ヲ要スルモノトスルモ其ノ名義タルヤ之ヲ受取リタル者ニ於テ差出人即チ推薦者ノ何人ナルカヲ知ルコトヲ得ハ足ルモノト云ハサル可ラス(昭和三年(レ)第一七九號大審院刑事部判例)此ノ趣旨ヲ擴張セハ推薦文ノ内容用語ノ如何推薦狀ニ用ヒル用紙ノ特長筆跡等ニ因リ受信人タル選舉人ニ於テ容易ニ推薦人ノ何人タルカヲ知り得ルニ於テハ之ヲ推薦狀ト認ムルニ支障ナキモノト解スルコトヲ得ルモノノ如シ少クトモ判示推薦文書ニハ假令一時的ノ變名タルニモセヨ「在高松公平無私生」ナル推薦名義人存スルヲ以テ假令第三者ヨリセハ其ノ何人タリヤヲ判定スルニ苦シムヘケンモ受信人トノ關係ニ於テハ或ハ相通スルモノアリテ其ノ本件被告人タルコトノ容易ニ知レ得ルモノナリシヤモ計ル可ラス然ルニ原判決カ

該文書ヲ以テ其ノ文書自體ニ於テ其ノ作成並發送者ノ何人タルカヲ知ルニ由ナク推薦狀ニ該當セスト判斷セラレタルハ假ニ推薦狀ニハ其ノ推薦者ノ名義ヲ要スルモノトスルモ其ノ名義人タルヤ受信者トノ關係ニ於テ其ノ何人タルカヲ知り得ルニ於テハ之ヲ以テ推薦狀トシテ適法ナルノ法意ヲ誤解セラレタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レスト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

府縣制第三十九條第四十條ニ依リ準用サルル衆議院議員選舉法第九十六條第一項ニ所謂推薦狀トハ選舉人ニ對シ特定者カ特定人ヲ議員候補者トシテ推薦スル趣旨ヲ記載シタル文書ナレハ其ノ特定者ヲ表示スルニハ必スシモ其ノ者ノ本氏名ヲ記載スルヲ要セス雅號等ヲ以テ表示スルヲ妨ケサルモ其ノ受ケタルモノニ於テ推薦者ノ何人タルヤヲ知ルコトヲ得ヘカラサルモノハ之ヲ推薦狀ナリト稱スルヲ得サルモノトス故ニ法定ノ選舉運動者ニ非サル者カ變名ニテ議員候補者ノ人格ヲ稱揚シ反對候補者ヲ排斥スル趣旨ノ文書ヲ葉書數枚ニ記載シ之ヲ選舉人ニ郵送シタル行爲ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ニ非スシテ違法ナリトス原判示ニ依レハ被告人ハ昭和十年九月二十五日施行ノ香川縣會議員選舉ニ際シ議員候補者藤井政八ノ法定選舉運動者ニ非サルニ拘ラス同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同月十四日高松郵便局構内ニ於テ葉書六枚ニ「人格崇高穩健篤實萬民ノ尊敬スル我等ノ熱望期待止マサル藤井政八氏ハ衆望遂ニ辭シ難ク縣議候補ニ立テリ深甚ナル御同情ニ依リ最高點ニテ當選セシメスハ止マス傲慢不遜ナル彼ノ立候補者ノ如キハ此ノ際コソ好機逸セス天ノ配劑宜敷排擊懲戒ノ爲落選セシメテコソ地

方ノ最得策ナラスマ「ナル要旨ノ文詞ヲ「在高松公平無私生」ナル差出人名義ノ下ニ記載シ其ノ作成
並發送者ノ何人ナルカヲ知ルコトヲ得サル右葉書文書ヲ大川郡丹生村庵原堯三等六名ノ選舉人ニ郵送
シ以テ選舉運動ヲ爲シタルモノナリト云フニ在リテ推薦者ノ何人タルカヲ知り得ヘカラサル以上右ハ
推薦狀ニ依ル選舉運動ニ非スシテ無資格者ノ違法ナル選舉運動ナリトス故ニ原判決ニ於テ右行爲ニ對
シ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第二百二十九條第九十六條第一項ヲ適用シテ處斷シタル
ハ正當ニシテ所論ノ如ク法律ノ解釋ヲ誤リタルモノニ非ス論旨理由ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事池田克關與

○公選投票贈賄被告事件 (昭和十年(九)第一七八三號 棄却)

【上告人】 被告人 加賀常松 辯護人 中村耕三

【第一審】 横手區裁判所 【第二審】 秋田地方裁判所

○判示事項

共謀ノ日時場所ト其ノ判示

○判決要旨

共同正犯者間ニ於ケル犯罪實行ニ關スル謀議ノ日時場所ノ如キハ
特ニ之ヲ判文ニ明示セサルモ違法ト爲スヲ得ス

【參照】 刑事訴訟法第三百六十條第一項 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及
證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮四月ニ處ス但シ本判決確定ノ日ヨリ
二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年四月三日旅行セラレタル横手町農會總代選舉ニ際シ總代候補者小坂順吉ヲ當選セシメムカ爲照井
吉及村田良治ト右總代選舉有權者ニ贈賄シテ前記候補者順吉ニ投票ヲ爲サシメコトヲ共謀シ其ノ趣旨ノ下ニ被告人
ヨリ謙吉ノ手ヲ經テ良治ニ金七圓ヲ交付シ良治ニ於テ同月二日頃秋田縣平鹿郡旭村ニ於テ右選舉有權者谷川誠治木村
由五郎村田常助梅澤雪松山中長太郎及高橋長藏ニ對シ右候補者順吉ニ投票方ヲ依頼シ現金七十錢又ハ一圓ヲ賄賂ト
シテ供與シ同人等ヲシテ執レモ同候補者ニ投票セシメタルモノニシテ右ハ犯意繼續ニ係ルモノナリ

共謀ノ日時場所ト其ノ判示

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ舊刑法第二百三十四條刑法施行法第二十五條第十九條第二條第二十條刑法第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮四月ニ處シ但シ情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ刑法第二十五條ニ則リ本判決確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人中村耕三上告趣意書第二點原判決ハ理由不備ノ違法アリ共同正犯トシテ問擬スルニハ判示理由中ニ行爲者相互ノ間ニ意思ノ連絡アリタルコト特ニ本件ノ如ク金錢物品其ノ他ノ授受ヲ要スル事ヲ必要トスル共犯關係ニ於テハ其ノ授受ハ意思ノ連絡ヲ認ムルニ足ル事實ノ明示ヲ要スルモノナリ然ルニ原判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人ハ昭和十年四月三日施行セラレタル云々(中略)小坂順吉ヲ當選セシメカ爲照井謙吉及村田良治ト右總代選舉有權者ニ贈賄シテ前記候補者順吉ニ投票ヲ爲サシメシムル事ヲ共謀シ其ノ趣旨ノ下ニ被告人ヨリ謙吉ノ手ヲ經テ良治ニ金七圓ヲ交付シ云々」ト判示シ(イ)何時如何ナル場所ニテ如何ナル方法ニ於テ其ノ謀議ヲ計リタルヤノ明示ヲ闕キタル重要ナル理由ノ闕除アルモノナリ(ロ)被告人ヨリ第一審相被告人照井謙吉ニ金七圓ヲ交付シタリ云々ト言フニアレトモ其ノ年月日ノ明示ナキ缺點アリ果シテ然ラハ原判決ハ共同正犯ノ成立ヲ認定スルニ付理由不備ノ違法アリ

トス尤モ證據説明ニ於テ被告人ハ「選舉ノ前日頃私ハ謙吉ヲ呼ヒ之ヲ良治ニ渡シテ同人ヨリ右七名ノ有權者ニ辨當料トシテ渡シテ吳レト頼ミ五十錢銀貨ニテ七圓也ヲ小坂順吉ニ云々」ト説示スレトモ之レ固ヨリ理由ト證據ノ説明トハ不可一體ト爲スヲ得サルモノト解スルヲ相當トスト謂フニ在レトモ原判示事實ニ依レハ被告人ハ昭和十年四月三日施行ノ横手町農會總代選舉ニ際シ照井謙吉及村田良治ト該選舉有權者ニ贈賄シテ右總代候補者小坂順吉ニ當選ヲ得シメントヲ共謀シ被告人ヨリ謙吉ノ手ヲ經テ良治ニ金七圓ヲ交付シ良治ニ於テ同月二日頃右選舉有權者谷川誠治外五名ニ對シ投票方ヲ依頼シテ現金七十錢若ハ一圓ヲ夫々賄賂トシテ供與シ同人等ヲシテ孰レモ小坂順吉ニ投票セシメタリト謂フニ在リテ右ハ被告人等三名カ判示公選投票罪ノ共同正犯タル事實ヲ判示スルニ於テ毫モ缺クルトコロアルヲ見ス所論共犯者間ノ謀議ノ日時場所方法乃至被告人ヨリ共犯者タル照井謙吉ニ對スル所論金員交付ノ日時ノ如キハ特ニ之ヲ判文ニ明示スルノ要アルモノニ非サルカ故ニ原判決ニ之カ判示ヲ缺クモ固ヨリ違法ニ非ス然レハ原判決ニハ所論ノ如キ理由不備ノ違法アルコトナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事佐々波與佐次郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件（昭和十年（九）第一七二八號 棄却）

【上告人】 被告人 小島 告市 辯護人（友田久米治 外一名）

【原 審】 一宮區裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法第八十九條第一項ニ所謂勞務者

○判決要旨

衆議院議員選舉法第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任スルコトヲ得ル所謂勞務者トハ選舉運動ノ爲單ニ機械的勞務ニ服スル者ヲ云フ

【參照】 衆議院議員選舉法第八十九條第一項 選舉事務長ニ非サレハ選舉事務所ヲ設

置シ又ハ選舉委員若ハ選舉運動ノ爲使用スル勞務者ヲ選任スルコトヲ得ス

○事實

第一審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人小島告市ヲ罰金三十圓被告人倉知秀一ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ各金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

(一) 被告人小島告市ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル愛知縣縣會議員選舉ニ際シ立候補シタル吉原治郎ノ選舉事務長ナルトコロ同月十五日同候補者ノ政見發表演說會ノ告知用張札ヲ貼付スルニ際シ勞務者タル石原貞一ヲシテ場所ヲ選擇シ丹羽郡犬山町只野さく外二十八名ニ交渉ノ上承諾ヲ得テ同人等方戸前ニ貼付セシメテ選舉運動ヲ爲サシメ

(二) 被告人倉知秀一ハ前記候補者ノ選舉委員ナルトコロ同月十五日十七日ノ兩日ニ互リ前同張札ヲ貼付スルニ際シ勞務者タル吉原忠治 奥村市太郎 宮田傳次郎 吉原兼三郎及伊藤捨次郎ヲシテ場所ヲ選擇シ同郡扶桑村兼松かな外五十九名ニ交渉ノ上承諾ヲ得テ同人等方ノ前ニ貼付セシメテ選舉運動ヲ爲サシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ所爲ハ衆議院議員選舉法第九十八條第一項第二百二十九條府縣制第四十條刑法第六十一條第一項ニ各該當スルヲ以テ同法所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定刑ノ範圍内ニ於テ被告人小島告市ヲ罰金三十圓被告人倉知秀一ヲ罰金二十圓ニ處ス可ク右各罰金不完納ノ場合ハ刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

衆議院議員選舉法第八十九條第一項ニ所謂勞務者

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人友田久米治野々山藤重上告趣意書原判決ニ於テ認定セル事實ノ要旨ハ被告人小島告市ハ昭和十年九月二十五日施行ノ愛知縣會議員選舉ニ立候補シタル吉原次郎ノ選舉事務長ナルトコロ同月十五日同勞務者ナル石原貞一ニ命シ同人ヲシテ只野さく外二十八名方ニ交渉ノ上承諾ヲ得同人等方前ニ右候補者ノ政見發表演說會告知ノ張札ヲ貼付セシメテ選舉運動ヲ爲サシメ被告人倉知秀一モ亦右候補者ノ選舉委員ナルトコロ同月十五十七日ノ兩日ニ互リ同勞務者ナル吉原忠治外四名ニ命シ兼杉かな外五十九名方ニ交渉ノ上承諾ヲ得テ同人等方前ニ演說會告知ノ張札ヲ貼付セシメテ選舉運動ヲ爲サシメタリト認定シ之ニ對シ府縣制第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十六條所定ノ議員候補者選舉事務長又ハ選舉委員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ストノ法條ヲ適用シテ被告人ヲ處罰セラル如斯ハ正ニ法律上勞務者ノ意義ヲ誤リ不當ニ法律ヲ適用シタルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノト確信ス本事案ハ之ヲ要約スレハ選舉事務長又ハ選舉委員カ勞務者ニ命シ演說會告知ノ張札ヲ貼付場所ノ管理者ノ承諾ヲ得テ貼付セシメタルモノナリ然レトモ右一聯ノ行爲ハ之ヲ仔細ニ觀察スレハ第一ニ張札ヲ貼付スヘキ場所ヲ選定シ第二ニ物又ハ場所ノ管理者ノ承諾ヲ得第三ニ張札ヲ貼付スル行爲ニ三大別スルコトヲ得ヘシ此ノ區分シタル行爲カ何レモ勞務者ノ爲シ得ヘキコトノ埒外ニ在

リトハ何人モ之ヲ思考セサルヘシ何トナレハ第三ノ單ニ札紙ヲ貼付スルカ如キハ勞務提供ノ顯著ナル適例ナルヘク第一ノ貼付場所ノ選定ハ如何之ヲ机上ニ空想ヲ回セハ相當難解ノ問題ナルヘキモ實際的ニ考フレハ彼所ノ四ツ辻ノ角ニ一札貼リ此所ノ板塀ニモ一枚貼ルコトカ最も效果的ナリト斷スルニ選舉事務長又ハ委員ノ判斷ヲ要スト謂ヒ得ルヤ否第二ノ貼付場所ニ付其ノ管理者ニ承諾ヲ需メ之ニ對スル相手方ノ諾否ヲ受クル行爲ハ如何之ヲ嚴密ニ論スレハ一定ノ場所ノ使用貸借契約ノ締結ト謂フヲ得ヘシ然レトモ之ヲ以テ衆議院議員選舉法ニ謂フ勞務提供ノ埒外ニ出テタル行爲ナリトセンカ後ニ詳述スルカ如ク著シク吾人ノ實驗則ニ相反スルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ原判決ハ右行爲ノ内ノ何レノ箇所ヲ捉ヘテ勞務提供ノ埒ヲ超ヘタル選舉運動ナリト解シタルカ其ノ理由ヲ詳ニセサルヲ以テ此ニハ其ノ全體ノ行爲ヲ一括シテ檢討セムニ先ツ如上ノ行爲カ第一ニ原判決ノ如ク勞務者ノ爲シ得ヘキ行爲ニ非ストノ見解ニ對シ一般世人ハ一笑ニ附シツツアリ果シテ一般世人ノ見解カ所謂社會通念ナリト謂ヒ得ヘキヤ否第二ニ法ニ所謂勞務者ノ意義如何第三ニ原判決ノ如ク解スルコトハ選舉費用ヲ極度ニ減縮シ從ツテ運動員數ヲ制限スル改正法ノ根本主旨ニ反シ且實行至難ノ問題ニ非サルヤ否第四ニ原判決ノ如ク解セサレハ選舉肅正ノ實ヲ擧ケ得サルモノナリヤ否ノ四點ニ分析シテ論セムトス第一ノ點ニ付吾人ハ常ニ思フ法律専門家ハ社會ノ事象ヲ判斷スルニ先ツ從來ノ學說判例ニ因ル概念ニ因ハレ此ノ概念ニ適合スヘク事實ヲ抽出シテ論理ノ正確ヲ偏重シ實生活ノ裡ニ内在スル眞ノ法則ヲ把握セ

サル弊ニ陥リ易キコトヲ從ツテ法律家ノ眼ヨリ觀レハ一見愚ニ似タル一般世人ノ常識觀モ之ヲ具サニ研究スレハ其ノ見解ハ法律家ノ抱ク在來ノ概念ニ適合セサルノミニシテ眞理ハ寧ロ一般世人ノ常識觀ノ裡ニ潜在シ單タ其ノ眞理ヲ洗鍊セラレタル表現方法ニ因リ表ハシ得サル爲メ專門家ヲ首肯セシムルニ至ラサルノミナラスヤ而モ如斯法則ヲ把握スルコトハ單タ机上ニ於テ想像力ヲ逞フシ概念ノ正確ト論理ノ一貫ヲ期スル學者ノ到底企及シ得ヘキ業ニ非ス實生活其ノモノヲ對照トシテ最高ノ判斷ヲ下サルヘキ貴院ノ判官諸公ニノミ期待シ得ヘキコトナリト確信ス貴院ニ於テ從來示サレタル世人カ「成程最モナリ」ト謂フ新判例ノ多クハ社會ノ實生活ニ即シタル法則ヲ發見セラレタル場合ナリト思料ス而シテ本案事實ヲ一般世人ハ何ト觀ルヘキカ選舉演說會ノピラ張り位ニ一々選舉事務長又ハ選舉委員カ貼付ノ場所ヲ選定シ場所ノ占有者ノ承諾ヲ得テ廻ハリ勞務者ハ單タ張札ニ糊ヲ附ケ押ヘルコトノ外爲シ得スト謂ハムカ何人モ選舉規則ナルモノノ馬鹿ラシサニ一驚ヲ喫スヘシ之ヲ例令ハ民事訴訟法第七十九條ニ於テ法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ外辯護士ニ非サレハ訴訟代理人タルコトヲ得スト規定スルモ訴訟期日ノ打合セ請書ノ提出ノ如キ多少ノ自由判斷ヲ要スル行爲モ辯護士ニ非スシテ其ノ事務所ノ事務員カ之ヲ爲スモ看過セラルルニ非スヤ故ニ如何ニ勞務ノ提供トハ機械的行爲ノミヲ指稱スト概念的ニ論斷スルモ物ニ輕重本末アリ勞務者モ亦生キタル人間ナリ其ノ勞務ニ附隨スル僅カナル判斷ノ自由ハ特ニ之ヲ禁スヘキ理由ノナキ限リ法律上當然附與セララルルモノト解セサ

ルヘカラス第二ニ法ニ所謂勞務者ノ意義如何衆議院議員選舉法第八十九條ニ依レハ「選舉運動ノ爲メ使用スル者」ナルコト明カナリ同法第九十六條第二項ニ依レハ「選舉運動ノ爲メ勞務ヲ提供スル者」ナルコト亦明カナリ然レトモ究極ハ選舉運動ト其ノ爲メ勞務ノ提供トノ區別ハ個々ノ具體的事實ニ就キ判斷セサルヘカラルサルヘシ而シテ本案ニ恰當スル事例ニ付衆議院及内務省ノ見解ヲ觀ルニ昭和十年十二月十二日大阪朝日新聞第二面記載ノ衆議院質疑ニ對スル内務省ノ回答ニ依レハ「衆議院意見」立看板ポストノ揭示貼付ノ承諾ヲ求ムルハ選舉委員タルト勞務者タルトヲ問ハス又其ノ承諾ヲ求ムル方法ハ文書タルト口頭タルトヲ問ハス「内務省意見」自ラ場所ノ選定ヲ爲シテ其ノ承諾ヲ求ムル行爲ハ選舉委員ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サルモ候補者又ハ法定選舉運動者カ豫メ選定シ置キタル場所ニツキ其ノ承諾ヲ求ムル行爲ハ勞務者ト雖差支ナシト衆議院ノ見解ニ依レハ本件ハ犯罪ヲ構成セサルカ如シ又内務省ノ見解ニヨレハ勞務者カ張札貼付ノ承諾ヲ求ムル行爲ハ許容セラルルモ其ノ場所ノ選定カ勞務者ニ許容セラレサル行爲ナリトノ見解ナルヘキコトヲ看取シ得果シテ然ラハ内務省ハ勞務者ノ意義ニ付如何ナル概念ヲ有スルモノナリヤ恐ラク内務省ハ「勞務者トハ自己ノ頭腦ヲ使ヒ選舉ニ對スル作戰計畫ヲ爲ス者ニ非サル者(川手忠義氏外一名共著改正府縣會議員選舉法註解八一頁)トノ見解ヲ固執スル者ナリト思料セラル然ラハ本案ノ具體的事案カ果シテ選舉ニ對スル作戰計畫ヲ爲ス場合ナリヤ否ヤ之ヲ選舉ノ實際ニ就キ觀ルニ立候補ノ立看板ハ區域廣大ナル場所ニ數十本ヲ立テ得ルノミ

ニシテ且ツ永續的ニ存置スルモノナルカ故ニ其ノ場所ノ選定ニ際シテモ何所カ最モ效果的ナリヤ相當考慮ヲ要スヘキ問題ナルヲ以テ或ハ選舉ニ對スル作戰計畫ナリト稱シ得ヘキモ演說ビラノ如キハ全ク一時的ノモノニシテ其ノ數モ極メテ多ク假ニ一日五箇所ノ演說會ニ貼付シ得ヘキ張札ノ數ハ實ニ百五十箇所ノ多キニ達ス而モ選舉運動ノ期間中ハ殆ト毎日之ヲ繰返ササルヘカラス如斯一時的ニシテ而モ數多キビラ張ヲ以テ選舉ニ對スル作戰計畫ナリト重視シテ其ノ場所ノ選定ヲ選舉委員ニアラスンハ爲シ得サルモノナリトスルカ如キハ全ク選舉ノ實情ヲ知ラサル机上ノ空論ナリト謂フヲ憚カラス第三ニ改正法カ選舉運動ニ關スル人員ヲ極度ニ制限シ選舉委員ノ數ヲ八人若クハ十人ニ勞務者ノ數ヲ一日十人若クハ十五人ニ限定セル所以ノモノハ一方ニ選舉費用ノ減縮ヲ期シ他方ニ於テ戸別訪問買收ノ機會ヲ杜絶セムトスルニ在リ此ノ制度ノ下ニ於テ演說會ノビラ張位ノコトニ選舉委員ト勞務者ト二重ノ手數ヲ要スルコトヲ強制セムトスルカ如キハ全ク改正法ノ根本立旨ニ反スルモノニシテ又極度ニ制限セラレタル選舉委員ヲシテ數多キ演說ビラノ貼付場所マテ選定セシムルコトハ全ク實行至難ノコトヲ強フルモノナリ第四ニ選舉罰則ノ解釋ニ當リテハ具體的事實カ果シテ現實ニ選舉界ニ害毒ヲ流スモノナリヤ否ニ根蒂的基調ヲ置カサルヘカラス例令ハ戸別訪問其ノモノハ被訪問者ニ煩ハシサヲ感セシムルノ外サシタル弊害ナカルヘキモ之ニ依リ投票買收ノ機會ヲ與フル點ニ大ナル危險アリ之ヲ禁止スルノ必要アルコト勿論ナルカ演說ノビラ張ニ付其ノ貼付場所ノ選定ヲ勞務者ニ於テ之ヲ爲サシムルコト

ニ如何ナル危險ヲ伴フヤ絶對ニ斯カル危險ヲ豫想シ得ス況ンヤ選舉委員カ之ヲ爲スト勞務者カ之ヲ爲ストニヨリ危險ノ程度ヲ異ニスル理由アルコトナシ之ヲ要スルニ今回ノ府縣會議員ノ取締ニ付テハ徒ラニ形式的犯罪ヲ嚴罰シ國民嘲笑ノ的トナリ棄權ノ激増ヲ招キ來ルヘキ衆議院ノ總選舉ニ付棄權ノ甚大ナルヘキコトヲ豫想セシメタリ此ノ弊ハ單リ一般國民ノ聲ナルノミナラス當局自ラ之ヲ認メツツアリ即チ昭和十年十二月十七日大阪朝日新聞ニ記載セラレタル全國刑事課長會議ノ席上ニ於テ小原司法大臣ハ訓示シテ其ノ要旨ニ曰ク「府縣會選舉ノ取締ニ於テ形式犯ノ取締カ餘リニ峻嚴ニ過キ選舉界ヲ不明朗ニシ國民ヲシテ選舉ヲ畏怖セシムルカ如キ事態ヲ招來セルコトハ誠ニ遺憾ナリトシ云々次ニ今回ノ選舉ノ實蹟ニ徴シ一ニ御考慮ヲ煩ハシ度ハ勞務ノ提供文書ニ關スル形式犯ノ如キハ人目ニ觸レ易キ關係上取締ヲ其ノ方面ニ集中シ爲メニ世人ヲシテ選舉ヲ嫌忌スルニ至ラシメ一面買收等ノ惡質ナル違反ハ其ノ檢舉ニ徹底ヲ缺キタル地方ナキニシモ非ストノ批評アリ選舉ノ目的ハ國民ヲ國政ニ參與セシメテ民意ノ暢達ヲ計ルニ在リ輕微ナル事犯ノ檢舉ノ爲メ徒ラニ選舉ニ付テ恐怖ノ念ヲ抱カシムヘカラス總テ明朗ナル氣分ヲ持ツテ選舉ニ臨ミ得ル様格段ノ留意ヲ望ム」ト原告官ノ立場ニ在ル當局ノ言ニシテ既ニ然リ況ンヤ冷靜水ノ如キ心境ヲ以テ判斷ヲ爲スヘキ判官カ選舉肅正ノ聲ニ感溺シテ本事業ノ如キ行爲ヲ處罰スルカ如キハ裁判ノ威信ニモ係ハルモノナリト信シ寒心ニ堪ヘス又本件ハ次ニ來ルヘキ衆議院選舉ニ甚大ノ影響アル案件ナリト思料スルカ故ニ敢テ貴院ノ明鑑ヲ希フ所以ナリト云フニ

在レトモ

【要旨】

衆議院議員選舉法第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任スルコトヲ得ル所謂勞務者トハ選舉運動ノ爲單ニ機械的勞務ニ服スル者ヲ云フ從テ特定ノ議員候補者ノ爲其ノ法定ノ選舉運動者ヨリ命セラレタル場所ニ政見發表演說會ノ告知用張札ヲ貼付スルカ如キ行爲ハ即チ單純ナル機械的勞務ノ範圍ニ屬シ正ニ勞務者ノ爲シ得ル行爲ナリト雖特定ノ議員候補者ノ爲其ノ政見發表演說會ノ告知用張札ヲ貼付スルニ際シ其ノ最モ有利有效ナル場所ナリヤ否ヲ自ラ判斷選擇ノ上其ノ適當ト認メタル場所ニ其ノ所有者若ハ管理者ノ承諾ヲ得テ右張札ヲ貼付スル行爲ノ如キハ右單ナル機械的勞務ノ範圍ヲ超越シ特定ノ議員候補者ノ爲其ノ當選ヲ得シムルニ付必要且有利ナル行爲ヲ自ラ判定實行スルモノニシテ衆議院議員選舉法ニ所謂選舉運動ニ屬シ最早右勞務者ノ爲シ得ル所ニ非ス然レハ法定ノ選舉運動者ニ非サル右所謂勞務者ニシテ右ノ如キ單ナル機械的勞務ニ非サル選舉運動行爲ヲ爲シタル以上ハ衆議院議員選舉法第九十六條第一項ニ違反シ同第二百二十九條ノ處罰ヲ免レサルハ勿論該勞務者ヲシテ右ノ如キ選舉運動ヲ爲サシメタル者ハ法定ノ選舉運動者ナルト否トヲ問ハス刑法第六十一條ニ依リ右勞務者ト同一ノ罪責ヲ負ハサルヘカラス原判決ノ認定ニ依レハ被告人小島告市ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル愛知縣縣會議員選舉ニ際シ立候補シタル吉原治郎ノ選舉事務長ナルトコロ同月十五日同候補ノ政見發表演說會ノ告知用張札ヲ貼付スルニ際シ勞務者タル石原貞一ヲシテ場所ヲ選擇シ丹羽郡犬山町只野さく

外二十八名ニ交渉ノ上承諾ヲ得テ同人等方戸前ニ貼付セシメ被告人倉知秀一ハ前記候補者ノ選舉委員ナルトコロ同月十五日十七日ノ兩日ニ互リ前同張札ヲ貼付スルニ際シ勞務者タル吉原忠治 奥村市太郎 宮田傳次郎 吉原兼三郎及伊藤捨次郎ヲシテ場所ヲ選擇シ同郡扶桑村兼松かな外五十九名ニ交渉ノ上承諾ヲ得テ同人等方戸前ニ貼付セシメタルモノナルカ故ニ其ノ行爲ハ單純ナル機械的ノ勞務ヲ爲サシメタルト異リ右候補者ノ爲選舉運動ヲ爲サシメタルモノト認メサルヘカラス然ラハ原判決カ被告人等ノ行爲ヲ府縣制第四十條ニ依リ準用セラレル敍上衆議院議員選舉法第九十六條第一項ニ違反スルモノトシテ同法第二百二十九條刑法第六十一條第一項ニ問擬シタルハ正當ニシテ論旨ハ其ノ理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與